濃黃、金殿玉樓(明治酉年)。中黃、荻ノ上風(明治子年)。水黃、深夜ノ月(明治子年)。薄紅、雲井櫻(明治酉年)。薄黃、朝霞(明治酉年)。都(明治子年)。紅紫、園ノ一本(明治戌年)。黃樺、薰ル橘(明治亥年)。黃樺、秋ノ暮(明治亥年)。雪白、古鄉ノ雪(明治酉年)。雪白、薰ル雪(明治子年)。水白、吳竹ノ雪(明治戌年)。水白、吹雪笹(明治亥年)。

右は何れも花輪も大にして下葉もありて美事なるとなれども、其中取分け花輪の大なるものは藥分風の凡そ七寸と、晩秋香の凡そ六寸となり。

——日本園藝會雜誌○明治廿二年刊。

廿八日○明治廿二年(紀元二五四九年)十二月。**小石川藥草試植園幷附屬地**○市内小石川區。ヲ**東京盲啞學校敷地ト爲ス。**○法規分類大全。

小石川藥草試植園所管換　藥草試植園ハ舊時藥園ノ一部也、內務省ノ所管ニ屬セシヲ、東京盲啞學校敷地トシテ文部省ニ所管換ヲ爲ス。詳シクハ教育篇ヲ見ヨ。

內務省ヨリ東京府ヘ訓令(二十二年(○明治)十二月二十八日訓第八七○號)

其府下小石川區指ヶ谷町及戶崎町當省用地藥草試植園幷同附屬地共、今般文部省ニ於テ東京盲啞學校敷地トシテ受領相成候條、該地所官有地第四種ニ編入スヘシ。

右訓令ス。

——法規分類大全第二編

〔附記〕　土方氏別墅

小石川藥草試植園所管換

附記土方氏別墅

十洲詩鈔己丑作ニ左ノ七律在リ、以テ小石川土方久元別墅ノ光景ヲ觀ル可シ。

題ニ土方君別墅一

半郊半郭數家邨。此際公餘好避煩。溪有ニ碓聲一逾覺靜。林多ニ禽語一未ノ爲ノ喧。時移ニ臥榻一依ニ蘿影一。偶曳ニ吟笻一憩ニ樹根一。孰道熊魚兼不レ得。得ニ居ニ廊廟一樂ニ邱園一。

〔參考〕東京市明治廿二年度事務報告ニ據レバ、同年中ニ於ケル公園事務處理ノ概要下ノ如シ。

公園

公園地ノ內、新タニ使用ヲ許可シタル坪數ハ千百八拾貳坪六合六勺五才ニシテ、使用換ヲ許可シタル坪數壹萬千貳百五拾五坪八合九勺五才、返地シタル坪數五百拾九坪六合ナリ、而シテ公園所在ノ各區役所ニ於テ取扱タル件數、及十二月三十一日現在ノ借地借家人幷戶數人口左ノ如シ。

園名 / 件名	淺草	芝	麹町	深川	愛宕山	飛鳥山
公園使用料ニ係ル件	一九、九〇二	七五〇	七七	四二七	五四	四
借家料ニ係ル件	一、七三三	—	—	—	—	—
雜入金ニ係ル件	一七	一六	一	—	四	二
掃除人小使ニ係ル件	一〇	三一	一二	一八	六	—
寄留屆ノ件	四七八	五六〇	—	—	—	—
雜件	三〇三	六二七	一九	—	三六	一八
合計	二二、四四三	一、九八四	一〇九	四六二	一〇〇	二四

帝都時代ノ遊園

東京市史稿

借地人借家人及戸口表

種目＼名	淺草	芝	麹町	深川	愛宕山	飛鳥山
借地人ノ數	一、六四二	一一九	一七	五四	九	二
借家人ノ數	一四二	一	一	一	一	一
戸數	三、〇五九	四五九	七	五九	五	一
人口	一三、四九七	三、三一〇	一八	二六九	一五	三

一、公園事務掛ノ進退ハ五人ニシテ、之ヲ類別スレハ淺草公園三人、深川公園一人、飛鳥山公園一人ナリ。

廿三年（明治〇紀元二五五〇年。）二月十三日上野公園（〇市内下谷區。）音樂學校起立ス。（〇教育篇參照。）

上野公園音樂學校（高等師範學校附屬）　教育篇ニ具ス、左ニ新撰東京名所圖會ヲ抄ス。

上野の山奥深く、松の梢の絲の濤綾く、優かに吹き去り吹き來る、妙なる音樂の響き風につれて傳へ聞えぬ。

美術學校の傍、舊西四軒寺跡に木柵を結ひ、東京圖書舘に相對して英吉利シタシを淡黄色のペンキもて塗立てたる宏壯なる西洋舘あり、之を音樂學校と爲す。

本校は高等師範學校に附屬す、其目的たるや畢竟善良なる音樂教員及音樂師を養成するに在りとぞ、抑

本校は明治十二年十月始めて音樂取調掛を文部省中に置るゝに濫觴す、是月東京師範學校長伊澤修二音樂取調御用掛に兼任す、同月三十日音樂取調掛伊澤修二音樂取調に關する意見書を寺島文部卿に呈す、其大綱三あり、曰く新たに樂曲を編纂製作する事、曰く將來國樂を興すべき人物を養成する事、曰く諸學校ゝ新定の音樂を實施して適否を試る事、是なり、且以上三綱の事業を實行するに當て、要する所の職員教師官署等に就き、其有するところの意見をも併せて之を申陳したり、明治十三年三月本郷文部省用地内第十六番舊教師舘を以て音樂取調掛官署とす、同月二日北米合衆國人ルーサル・ホワイチング・メーソンを雇入れ、向二ケ年間音樂教師とす、是に於て裁可を經て、先つ左の二ケ條に着手す、第一内外の音樂取調の事、第二東京師範學校附屬小學及東京女子師範學校附屬練習小學幷幼稚園生徒に唱歌教授の事即ち是なり、同年六月音樂傳習人心得を定め、三十人以下を限り之を募り、同年十月生徒廿二人（内女子十三人）入學を許す、是を音樂傳習の爲め入學を許すの嚆矢とす、二十三年二月十二日現在の地、即ち上野公園元西四軒寺跡文部省用地に建築せる校舍を本校所用として交付せらる、即敷地面積七千百十八坪七合七勺、幷に新建築家合面積三百八十二坪六合六勺五才なり、當日新校開業式を擧行す、同月廿六日更ゝ練習室一棟文部大臣より交付せらる、此面積四十坪なり、同年十二月廿五日教育に關する御宸書の勅語を拜戴す、二十六年六月廿九日勅令第六十二號を以て、東京音樂學校を改めて高等師範學校附屬音樂學校とし、高等師範學校に附屬せしめらる。

〔附記、一〕　飛鳥山公園除草奉仕　奉仕者練木允緝ハ芳野金陵ノ門人也。

明治廿三年二月廿二日受出

帝都時代ノ遊園

知事
書記官

練木允緝飛鳥山公園草苅願ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　　二月廿七日議決
議長
市參事會員

第一一四弐號

第二類飛鳥山公園草苅願指令議案

東京市指令第　　號

明治廿三年二月十九日付飛鳥山公園草苅願ノ件聞届鑑札下渡ス、但左ノ件ハ遵守スヘシ。

一、崖及平地トモ根元ヨリ平坦ニ刈取速ニ取片付、園内ヘ積置ヘカラス。
一、刈取跡ハ著手後速ニ掃除スヘシ。
一、刈取落成ノ上ハ届出檢査ヲ受クヘシ。
一、刈取ノ節ハ鑑札携帶スヘシ。
一、豫定期限外トヽ雖モ時機ニ依リ刈取ヲ命スルコアルヘシ。

小石川區大塚町廿四番地
練木允緝

東京市參事會
東京府知事

七五二

庶務課長

一、當廳ノ都合ニ依リテハ停止セシムルコアルヘシ。

（説明）

同園ヘ草刈費年々金廿五圓ヲ要シ候處、無賃ヲ以テ刈取度旨出願ニ付、許可スルモノトス。

——庶政要錄

而シテ此請負ハ廿五年五月二日ヲ以テ解除ヲ出願シタルコト、亦庶政要錄ニ見ユ。

明治廿五年五月十一日

知事
書記官

第二課長

練木允緝ヨリ飛鳥山公園草刈受負解除願ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　　五月十六日議決
議長
市參事會員

第四八五四號

第二類飛鳥山公園草刈掃除受負解除願指令議案

東京市指令第　　號

明治廿五年五月二日付、飛鳥山公園草刈掃除受負解除願ノ件聞届。

小石川區大塚町廿四番地
練木允緝

帝都時代ノ遊園

七五三

附記、二 小梅村

竹町綠町公園地引繼

竹町綠町公園地引繼事蹟

（說明）

飛鳥山公園草刈掃除無代價受負之義、曾テ許可相成居候處、得失償サルニヨリ解除願出候次第、止ヲ得サル義ニ付許可スルモノトス。

〔附記、二〕 小梅村

十洲詩鈔庚寅作ニ左ノ七絕在リ。

過ニ小梅村一

雨後村園客跡稀。梅香冉冉襲ニ人衣一。誰從ニ花戶一買ニ盆樹一。携得ニ一番春色一歸。

三月四日 ○明治廿三年（紀元二五五〇年）。竹町 ○市內下谷區。綠町 ○市內本所區。官有地ノ引繼ヲ受ク、市區改正設計スル所ノ公園地ニ該當スルヲ以テ也。○庶政要錄。公報。

竹町綠町公園地引繼 左ノ如シ。

明治廿三年三月十二日受出

東京市參事會
東京府知事

知事

書記官

庶務課長

下谷區竹町、本所區綠町二丁目之內、公園ニ定メラレタルニ付、市參事會報告スルモノトス。

明治 年 月 日出 三月十五日報告濟

議長

市參事會員

第一九四號

第二類下谷區竹町十二番地ヲ、井本所綠町二丁目廿三番地ヲ、今回公園地ニ定メラレタリ。

右及報告候也。

內務省指令甲第三五二號

客年十月廿三日第六五五七號上申、官有地處分之件聞屆ク。

明治廿三年三月四日

判決十月廿二日
明治廿二年十月十九日受出

內務大臣 伯爵 山縣有朋

知事

第一部長 農商課長

第二部長 議事課長

庶務課長

會計課長

市區改正掛長

官有地處分ノ義ニ付上申按

內務大臣殿

帝都時代ノ遊園

知事

官有地第三種

下谷區竹町十二番地

地積壹萬八千四百三拾貳坪四合貳勺

官有地第三種

本所區綠町二丁目二十三番地

地積七千九百拾五坪五合

右地所ノ義、去ル十三年六月二十六日當府勸工場付屬地トシテ御委任之義許可セラレ、而シテ年季ノ義ハ同七月二十九日同年ヨリ向フ拾五ケ年季ニ聞置相成、爾後使用致シ來候處、市區改正ノ設計ニヨレハ、公園地ニ（改正道敷ヲ除ク）相成候筈ニ付、二十三年度ニ於テ東京市ヘ引繼候樣致度候間、御聞屆相成度、此段及上申候也。

（理由）

二十年十二月十四日付縣發第一三六號縣治局長ゟ照會ノ趣ニヨリ、本按ノ上申ヲナスモノトス。

明治廿二年十一月十三日受出 判決十一月十八日

知事

第一部長　農商課長

第二部長　議事課長

庶務課長

市區改正掛長

下谷竹町本所綠町地所ノ義ニ付回答案

內務省地理局長宛

知事

本月九日付地第四二〇一號ヲ以、先般及上申置候下谷區竹町十二番地、及本所區綠町二丁目二十三番地東京市ヘ引繼之義ニ付、該地ハ二十三年度ニ於テ公園地トナシ、衆庶ノ逍遙ニ供シ候計畫ニ可有之哉云々御照會ノ趣了承、右ハ市ヘ引繼タル上、市ノ經濟ノ都合ニ寄リ公園ノ計畫ニ致見込ニ有之候得共、貸地期限モ有之、直ニ家屋悉皆爲引拂候運ニハ至ル間敷義ニ相考候間、左樣御承知有之度、此段及回答候也。

○朱書。

地第四二〇一號

下谷區竹町十二番地、及本所區綠町二丁目廿三番地東京市ヘ引繼之義、去月廿三日第六五五七號ヲ以テ御上申相成候處、右ハ市區改正ノ設計ニ依リ、來ル廿三年度ニ於テ公園トナシ、衆庶ノ逍遙ニ供セラレ候御計畫ニ可有之、果シテ然レヘ本伺被聞屆候上ハ、直ニ貸地人立拂等ヲモ被命候運ニ相成可申哉詳細御回報有之度、此段及御照會候也。

明治二十二年十一月九日

地理局長　櫻井勉

東京府知事男爵高崎五六殿

——庶政要錄

東京市告示第十八號

下谷公園綠町公園ハ來四月ヨリ本市ノ所屬トセラル。

明治二十三年三月二十六日

東京市參事會

東京府知事　男爵　高崎五六

帝都時代ノ遊園

下谷公園は下谷區竹町に在り、皇城の東北に位す、明治廿三年四月公園地に編入す。北は西町に、東は三味線堀及び淺草小島町に界す、一萬六千四百三十二坪あり。舊佐竹次郎宅の跡にして總稱竹町十二番地、四邊を圍むに溝を以てし、自ら一區劃を爲す。公園地に編入するや、一號地より二十四號地に分ち、公園事務所を置きて監理せしむ。其初め佐竹侯の邸宅を引拂ふや、廣漠たる原野の或は陸軍省用地と爲り、龍の口勸工場を當地に移轉せむとの議も立消えて、世俗佐竹原と稱へ火除地の如く然り、兩國及筋違に於て興行中なる見世物類の取拂はるゝや、均しく此原に來りて營業を持續す、十餘年前のことなるべし。芝居小屋あり、寄席あり、吹矢場あり、講釋師、軍談、歌祭文、手品、機關、球戲場、兩頭の牛、轆轤首、蛇娘、水藝、足藝、曲獨樂、居合拔、著るしかりしは滅相なる大佛尊の座像、腹内には怪談お菊の皿、累殺しの錆鎌等消入るべき品を陳列ね、兩眼には望遠眼を裝置し、品川の沖白帆の見ゆる趣向、東京目拔きの遊覽場として、稚兒の淺草寺參詣よりも嬉れしがりぬ。數年の後ち寂びれ行きて、熊谷某等四名の受負人ありて地所を貸付け、葺と人家の建込みぬ。公園編入後は事務係之を管理し、早晩家屋取毀に着手し、公園の風致を全ふするの計畫あるべし。中央を貫通する道路は、美倉橋より下谷廣小路へ出つる往還とて、路幅こそ狹けれ、些少は市街らしきも、其兩裏は七分通りの棟割長屋、土方、日雇取の類にあらねば、人力挽、屑買、辻藝人、按服抒療治、賣卜者、緣日商人渡世の種は樣々にて、隣りから隣りへかけて一と筋の貧乏綱に掴まつて世を渡るものと見へたり。

秋葉山　六號地に在り、鳥居は朽ちて社頭荒廢めり。

警視廳東京府公報

勸工宮　其傍にあり。

公園事務所　十一號地にあり。

寄席久本　十五號地にあり。

竹町巡査派出所　一號地構堀の上に架す。

共同便所　佐竹原と稱する頃は群集雜沓の地とて、十餘箇所の設けありしも、今や五ヶ所に定められぬ。

緣町公園は本所區緣町に在り、皇城の東に位す、總坪數七千九百十五坪あり、明治二十三年四月公園地に編入す。舊津輕越中守屋敷跡とて緣町二丁目廿三番地一區劃なり。西は緣町一丁目に、東は同三丁目に、北は溝を隔てゝ南二葉町に界す。人家稠密全く公園の風致なし。南は小劇場壽座敷地として錦鑿の音頻繁なり、竹柵を結ひ木標を樹つ、「官許劇場壽座建築地所座主宮坂德次郎」、東北隅に野見神社あり、數年前までは花相撲ありしも、當時は社頭荒廢て僅かに社壇を存するのみ。其他東京製藥株式會社工場、洋傘骨製造所、青山染物工場、柴田製絲組製造工場等ありて、これが公園とはよも思はれし。八千坪に垂むたる地所噴水を設くるも可矣、假山を築くも可矣、樹木を栽繞みてなりと運動がてらに散策の便を與へよ、速かに公園の風致を添へむとこそ願はしけれ。

——新撰東京名所圖會

淺草公園瓦斯燈建設
淺草公園瓦斯燈建設事蹟

淺草公園瓦斯燈建設　庶政要錄云フ、

十日　○明治廿三年（紀元二五五〇年）三月。淺草公園　○市内淺草區。ニ瓦斯燈卅五基ヲ建設ス。○庶政要錄。

明治二十三年三月十日受出

知事

帝都時代ノ遊園

庶務課長

書記官

浅草公園内瓦斯燈建設ノ件ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　三月十日議決

議長

市參事會員

第一三九二號

第二類淺艸公園内瓦斯燈建設ノ件命令議案

淺草公園内別紙圖面ノ箇所ヘ瓦斯燈三拾五基建設シ、來四月一日ヨリ點火スヘシ。

東京瓦斯會社

東京市參事會

東京府知事

（説明）市會ニ於テ可決ニ付命令スルモノトス。

芝公園勸工會社地料減額事蹟

廿四日（明治廿三年（紀元二五五〇年）三月。）特ニ芝公園（市内芝區。）勸工會社ノ使用地料ヲ減額ス。（東京市會決議錄。第二課文書類別。）

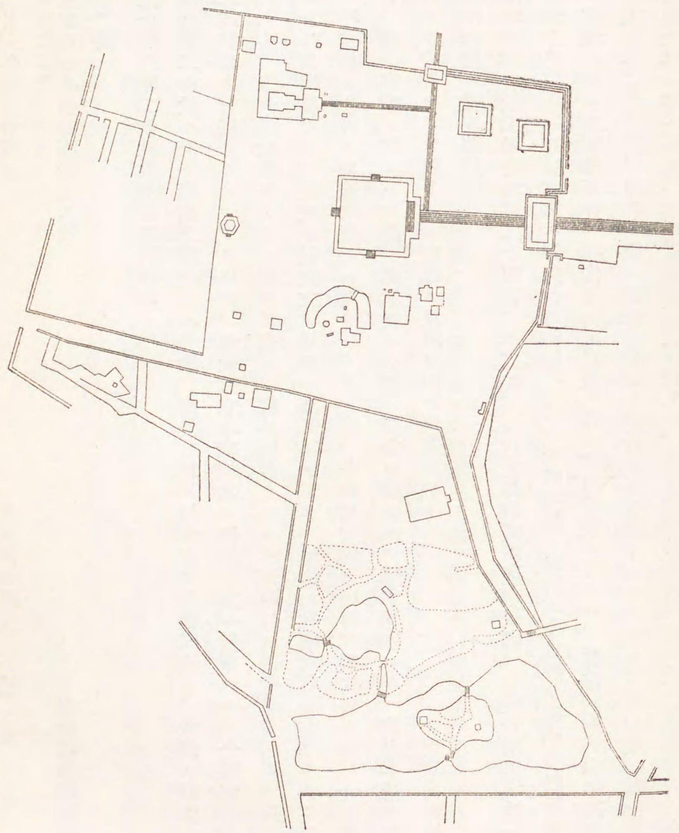
芝公園勸工會社地料減額　左ノ如シ。

市會第十七號（朱書。）

第八十二號　芝公園内勸工會社敷地使用料減却ノ件

第八十三號（略。）

右原案之通議定候條、此段及報告候也。



帝都時代ノ遊園

明治廿三年三月廿四日
東京市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

第八十二號

芝公園內勸工會社敷地使用料減却ノ件

芝公園內勸工會社ハ府下產出之諸物品ハ勿論、海外各地ノ見本品ヲ蒐集陳列シ、衆庶ノ縱覽ニ供シ、府下商工業奬勵上有益ノモノナルヲ以テ、會社設立以來相當ノ保護ヲ加ヘ置キシモ、今回都合ニヨリ保護ヲ廢シタリ。依テ同社經營上大ニ齟齬ヲ來シ、維持困難ナルヨリ來四月以後敷地使用料三分ノ一ニ減少セラレンコヲ出願セリ。元來該社設立ノ場所ハ高低甚タシク、地均シ其他墳墓改葬等多額ノ失費ヲ要セシモ、拮据終ニ今日ノ盛況ヲ觀ルニ至リシモノニ付、今俄然定規ノ地料ヲ徵收スルヰハ大ニ最初ノ目的ヲ失シ、隨テ衰微ヲ招クハ勿論、其極遂ニ公園ノ體裁ヲ損スルノ恐アルニヨリ、彼是事情ヲ斟酌シ、來ル四月ヨリ尙五ケ年ヲ限リ特ニ成規ノ地料ヲ以テ貸渡サントス。

——東京市會決議錄

地所拜借ニ係ル懇願書

芝公園地東京府勸工場內地坪二千四百二十二坪三合八才拜借使用罷在候處、今般右勸工場被相廢止、敷地ハ本年三月三十一日限御市ヘ御返付可相成ニ付、當社拜借ノ地所ハ今日限リ返納可致旨訓令有之、而シテ該地ハ更ニ東京參事會ヘ拜借可願出旨、御口達相成候ニ付テハ、御市ニ於テ本年四月ヨリ改メテ拜借被仰付被下度、地料ノ儀ハ從來府廳ヨリ陳列所御保護トシテ、年々下付相成候御補助金ヲ以支辨致來候次第ニ有之候處、今般返地被仰付候上ハ、自然御補助金御下付ノ道モ斷絕致シ、全ク會社經費中ヨリ支出不致候半テハ不相成場合ニ立至リ候仕合ニ有之、抑當會社創立ノ際ニ於テ右御補助金下賜ヲ見込、其金額ヲ控除シタル計算ヲ以テ費額相定メ來リ候處、俄然豫定外ニ於テ地料金支出致候樣相成候テハ、一方ノ齟齬ヨリシテ百事ニ影響シ、不可謂困難ニ陷リ可申ト痛心至極仕候、元來此物品陳列所ノ義ハ去ル明治十一年東京府ニ於テ御設立相成居候處、同十三年七月ヨリ出品人ニ於テ一切ノ經費負擔致シ、府廳設立ノ趣意不取失樣トノ御示諭ノ次第モ有之、爾來御示諭ニ基キ勵精從事致シ來、猶將來永續擴張ノ爲メ、去ル明治廿年更ニ會社法ニ組織變更ノ儀上願ノ上、特別之御詮議ヲ以、追テ會社條例制定迄、可任相對云々ノ御指令下付相成、則東京府勸工會社ト稱シ、館舍ヲ新築シ、同二十一年五月ヲ以開場仕、爾來逐日社業緖ニ就キ、既ニ昨年ヨリ農商務省工務局御所藏之內、淸鲁各地ノ雜貨見本品類若干ヲ拜借陳列シ、大ニ實業家ノ注意ヲ喚起候樣相成、從來厚キ御保護ニ對スル實績ヲモ奏シ得ヘキ場合ニ可立至ト、一同勵精罷在候次第ニテ、徒ニ物品販賣ノ一途ニ傾向候普通賣店ノ比ニ無之ハ、既ニ御照覽相成居候義ト奉存候、加之當所ハ最前荒寥タル燒餘ノ小原野ニ有之候處、當社ニ於テ拜借結構致候以來ハ、更ニ面目ヲ改メ候ノミナラス、漸次近傍ノ啓開ヲ儕進候勢ニ有之、日々車馬輻湊外人ノ來觀日ヲ逐テ增加致、駸々盛況ニ赴キ候ニ付テハ、何卒本場ノ儀ハ公園裝飾ノ一個有益場ニ御認置相成候樣仕度、因テ甚恐入候得共、前陳ノ事狀御吸量被成下、右敷地々料之儀ハ自今全額三分ノ一ニ御減省ヲ以、更ニ拜借被仰付被下置候樣、特殊御詮議ノ程奉懇願候也。

理事　東京勸工會社
星野新七
同　土川淸三郎

明治廿三年二月廿八日

東京市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

廿七日（明治廿三年（紀元二五五〇年）三月。）麹町（市内麹町區。）・芝（市内芝區。）・淺草（市内淺草區。）・深川（市内深川區。）・飛鳥山（市内王子區。）公園ノ地料ヲ改正ス。（東京府令令錄。市會議錄議決及執行。）

五公園地料改正

五公園地料改正事蹟

明治廿三年三月十九日受出

知事
書記官

別紙二十三年度公園歲入出豫算告示案、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　月　日議決

議長
市參事會員

第一七二九號

第一類公園歲入出豫算告示案

議事課長
文書課長
庶務課長

同　芥川榮之助
社長　藤田季莊

——第二課文書類別

東京市參事會
知事

東京市告示第廿二號

本市公園明治二十三年度歲入出豫算市會ノ議決ヲ經、使用料增額ノ件ハ內務大臣大藏大臣ノ許可ヲ受ケ左ノ通之ヲ定ム。

廿三年三月廿七日

明治廿三年三月八日受出

知事
書記官

別紙公園使用料增額ニ關スル稟請案、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日書　月　日議決

議事
市參事會員

第一三八〇號

第一類公園使用料增額ニ關スル稟請案

內務大臣
大藏大臣　宛

本市公園使用料ハ明治二十二年八月八日付ヲ以御許可相成候處、二十三年度使用料增額之儀、今般市會ニ於テ別紙之通議決候ニ付許可ヲ請フ。

帝都時代ノ遊園

市參事會
知事

議事課長
庶務課長

東京市參事會
知事

○朱書。
市會第九號

第五號　二十三年度公園歲入出總計豫算

右原案之通決議候條、此段及ニ報告候也。

明治二十三年三月七日

東京市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

○朱書。
東丁第四號ノ內

市會議決之件、裁令書左記之通及ニ送付ニ候條、御傳達相成度、此段通牒候也。

明治廿三年三月十八日

東京府知事男爵高崎五六殿

記

一、東京市々會議決公園使用料增額之件

內務省許丁第四號

明治二十三年三月十日稟請、第八四號東京府東京市會議決公園使用料增額ノ件。

右市制第百二十二條ニ依リ之ヲ許可ス。

明治二十三年三月十八日

內務大臣　伯爵山縣有朋

大藏大臣　伯爵松方正義

東京市會議長　楠本正隆

第壹類各公園使用料改正訓令議案

東京市訓令第　　號

何公園地使用料、市會ノ議決ヲ經テ別表ノ通改正ニ付、本年十月ヨリ改正ノ使用料徵收スヘシ。

但直ニ地所使用人ヘハ此旨達置ヘシ。

（說明）

市會議決ニ付本案訓令スルモノトス。

東京市參事會
東京府知事

淺草公園區町名番地	種別	舊使用料壹坪當	改正使用料壹坪當
		円	円
第二區一番裏	坪	〇三五	〇三〇
同　二番　表	坪	一〇〇	〇八〇
同　二番　中	坪	〇五〇	〇三〇
同　二番　裏	坪	〇三五	〇三〇
同　自四番至六番	横丁表	〇五三	〇六五
同　自五番至十三番	仲店裏通表	〇三五	〇四〇

帝都時代ノ遊園

——市會議錄議決及執行

麹町
芝
本郷
淺草
深川
右區役所

同	十四番	裏坪		○三五	○四○
第七區馬道町一丁目一番地		總表坪		○・一二○	○・一五○
同	二番地	廣小路通表坪		○八○	○・一一○
		同中坪		○二○	○四○
		仲店裏通表坪		○三○	○四○
		裏坪		○二○	○三○
同	自三番地至十七番地	仲店裏通表坪		○三○	○四○
		裏坪		○二○	○三○
同	十八番地	横町表坪		○五三	○六五
同	自十九番地至廿四番地	裏坪		○二○	○三○
同	廿五番地	表坪		○三五	○五○
		裏坪		○二○	○三○
同	廿六番地	表坪		○三五	○五○
		中坪	舊裏	○二○	○四○
		裏坪		○二○	○三○
同	廿七番地	廣小路通表坪		○七五	○・一一○
		同中坪	舊裏	○二○	○四○
		横丁表坪		○三五	○五○
第七區馬道町一丁目廿八番地		中坪		○二五	○三○
		裏坪		○一八	○二五

同	二丁目一番地	廣小路通表坪		○八○	○・一一○
		同中坪	舊裏	○二○	○四○
		裏坪		○二○	○三○
同	自二番地至八番地	仲店裏通表坪		○三○	○四○
		裏坪		○二○	○三○
		裏町表坪		○五○	○六○
		同上		○四○	○六○
同	自九番地至十二番地	仲店裏通表坪		○三○	○四○
		裏坪		○二○	○三○
同	十五番地	表坪		○五○	○八○
		裏坪		○二○	○三○
同	廿三番地	表坪		○五○	○八○
		裏坪		○二○	○三○
同	廿五番地	表坪		○六○	○九○
		裏坪		○二○	○三○
同	廿六番地	表坪		○五○	○六○
		裏坪		○二○	○三○
		表坪		○五○	○八○

同	馬道町三丁目一番地	仲店裏通	表 坪 ○三〇
			中 坪 ○二〇
			裏 坪 ○一六
同	自二番地至五番地		表 坪 ○五〇
			中 坪 ○二〇
			裏 坪 ○一八
同	六番地	表平均	坪 ○五七
		角表平均	坪 ○二三
		裏	坪 ○五〇
同	馬道町三丁目自七番地至十一番地		表 坪 ○二三
			裏 坪 ○一三
同	十二番地	表裏平均	坪 ○二五
同	十三番地		表 坪 ○五〇
			中 坪 ○一三
			裏 坪 ○二〇
		角 表	坪 ○五五
同	十四番地	二大門前 表	坪 ○四五
			裏 坪 ○二〇
同	十五番地		表 坪 ○四三
			中 坪 ○二〇

			裏 坪 ○三〇
第七區馬道町四丁目二番地			表 坪 ○一八
			裏 坪 ○五〇
同	四番地		表 坪 ○二三
			裏 坪 ○五〇
同	十一番地		表 坪 ○一三
			裏 坪 ○二三
同	廿番地		表 坪 ○三六
			中 坪 ○二〇
			裏 坪 ○一二
同	廿二番地		表 坪 ○三六
			中 坪 ○二〇
			裏 坪 ○一二
同	馬道町五丁目十二番地	横丁	表 坪 ○三〇
			裏 坪 ○二〇
同	十四番地		表 坪 ○三〇
			裏 坪 ○二〇
同	五丁目十七番地		表 坪 ○三〇
			裏 坪 ○二〇
帝都時代ノ遊園			

角	表	坪	○六〇
	裏	坪	○三八
同 六丁目一番地	横丁表	坪	○二〇
	中	坪	○一二
	裏	坪	○三六
同 三番地	表	坪	○二五
	新道表	坪	○二〇
	中	坪	○一二
	裏	坪	○三六
第七區馬道町六丁目五番地	表	坪	○二五
	新道表	坪	○二〇
	中	坪	○一二
	裏	坪	○三六
同 七番地	表	坪	○二五
	中	坪	○二〇
	裏	坪	○一二
同 九番地	表	坪	○五二
	横丁表	坪	○三七
	中	坪	○二一五
	横町中	坪	○二一〇

裏		坪	○八〇
同 一一番地	表	坪	○四五
	中	坪	○二五
	横丁表	坪	○二〇
	裏	坪	○四五
同 一二番地	表	坪	○三〇
	横丁表	坪	○二〇
	中	坪	○二五
	裏	坪	○四五
同 一三番地	表	坪	○二〇
	裏	坪	○八〇
同 一五番地	表	坪	○四五
	中	坪	○三五
	横丁表	坪	○二〇
	裏	坪	○四五
	裏町表	坪	○三〇
	裏	坪	○二五
	表中	坪	○二〇
	裏	坪	○一二
第七區馬道町七丁目一番地	表	坪	○二〇
	中	坪	○八〇
	裏	坪	○四五
	裏丁表	坪	○三五

裏		坪	○一三
同 一一番地	表	坪	○五二
	中	坪	○二五
	横丁表	坪	○五二
	裏	坪	○三〇
同 一二番地	表	坪	○二五
	横丁表	坪	○一七
	中	坪	○二五
	裏	坪	○一一五
同 一三番地	表	坪	○二八
	裏	坪	○一一五
同 一五番地	表	坪	○二五
	中	坪	○二五
	横丁表	坪	○一二
	裏	坪	○二五
	裏町表	坪	○一二
	裏	坪	○二五
	表中	坪	○五〇
	裏	坪	○二二
第七區馬道町七丁目一番地	表	坪	○一二
	中	坪	○二五
	裏	坪	○三五
	裏丁表	坪	○三五

同三番地	表坪	〇四五	〇八〇
	中坪	〇二一	〇三五
	裏坪	〇一一	〇二五
	裏丁表坪	〇二四	〇三五
同五番地	表坪	〇四五	〇八〇
	中坪	〇二一	〇三五
	裏坪	〇一一	〇二五
	裏丁表坪	〇二四	〇三五
同七番地	表坪	〇四三	〇八〇
	中坪	〇二〇	〇三五
	裏坪	〇一〇	〇二〇
	裏丁表坪	〇二〇	〇三〇
同九番地	表坪	〇四三	〇八〇
	中坪	〇二〇	〇三五
	裏坪	〇一〇	〇二〇
	裏丁表坪	〇二〇	〇三〇
同十一番地	表坪	〇四三	〇八〇
	中坪	〇二〇	〇三五
	裏丁表坪	〇二〇	〇三〇

	裏坪	〇一〇	〇二〇
第七區馬道町八丁目一番地	表坪	〇五〇	〇八〇
	中坪	〇二二	〇三五
	裏坪	〇一二	〇二〇
	横丁表坪	〇二八	〇四五
	新道表坪	〇一九	〇二五
同三番地	表坪	〇四五	〇八〇
	中坪	〇二一	〇三五
	裏坪	〇一一	〇二〇
	新道表坪	〇一八	〇二五
同五番地	表坪	〇四五	〇八〇
	中坪	〇二一	〇三五
	裏坪	〇一一	〇二〇
	新道表坪	〇一八	〇二五
同七番地	表坪	〇四三	〇八〇
	中坪	〇二〇	〇三五
	裏坪	〇〇九	〇二〇
	新道表坪	〇一五	〇二五

同九番地	表坪	〇四〇	〇八〇
	中坪	〇二〇	〇三五
	裏坪	〇〇九	〇二〇
	新道表坪	〇一五	〇二五
同十一番地	表坪	〇四五	〇八〇
	聖天横丁表坪	〇三〇	〇四五
	中坪	〇二二	〇三五
	裏坪	〇一五	〇二〇
同十二番地	表坪	〇四五	〇八〇
	聖天横丁表坪	〇三〇	〇四五
	田町横丁表坪	〇二二	〇三五
	中坪	〇二二	〇三五
	裏坪	〇一五	〇二〇
第七區田町一丁目一番地	表坪	〇三五	〇七〇
	中裏裏丁表坪平均	〇二〇	〇三〇
同聖天町七十一番地	表坪	〇三〇	〇五〇
	裏坪	〇一二	〇二〇
	表坪	自〇二〇 至〇二五	〇三〇

同象潟町自七番地至十番地	横丁表坪	自〇一五 至〇一七	〇二〇
	裏坪	自〇〇九 至〇一〇	〇一五
同新畑町自一番地至九番地	表坪	〇二七	〇三五
	同上	〇二五	〇三五
	裏坪	〇一六	〇二五
同十番地	表坪	〇一六	〇二五
	裏坪	〇四三	〇五五
同十一番地	表坪	〇二二	〇三五
	中坪	〇一六	〇二五
	裏坪	〇四三	〇五五
同北田原町三丁目十一番地	表坪	〇二二	〇三五
	中坪	〇一六	〇二五
	裏坪	〇五〇	〇六〇
同花川戸町十七番地	表坪	〇三〇	〇四〇
	横丁表坪	〇二〇	〇三〇
	裏坪	〇四八	〇六〇
同十八番地	表坪	〇二五	〇五〇
	表坪	〇二二	〇三五
同千束町	横丁表坪		

芝公園	一坪	舊使用料一坪當	壹錢貳厘
		改正使用料一坪當	壹錢貳厘五毛
楓山ヨリ西北舊涅槃門跡ニ至ル山續一圓	〇一〇	舊使用料一坪當	壹錢貳厘五毛
		改正使用料一坪當	壹錢五厘
前項及海軍省遞信省彌生社使用ノ地ヲ除ク外平垣ノ地一圓	〇二〇	舊使用料一坪當	壹錢五厘
		改正使用料一坪當	貳錢
丸山上		舊使用料一坪當	壹錢貳厘
		改正使用料一坪當	貳錢貳厘五毛
丸山下花屋敷		舊使用料一坪當	壹錢五厘
		改正使用料一坪當	壹錢三厘
麹町公園		舊使用料一坪當	壹錢貳厘
		改正使用料一坪當	壹錢五厘
山上一圓		舊使用料一坪當	壹錢貳厘
		改正使用料一坪當	四錢
山下表坪		舊使用料一坪當	貳錢
		改正使用料一坪當	貳錢
山下裏坪		舊使用料一坪當	壹錢貳厘
		改正使用料一坪當	貳錢
深川公園		舊使用料一坪當	壹錢貳厘
		改正使用料一坪當	貳錢五厘
使用料半額ノ地ヲ除外圓內		舊使用料一坪當	壹錢貳厘
		改正使用料一坪當	貳錢五厘
飛鳥山公園		舊使用料一坪當	壹錢貳厘
		改正使用料一坪當	貳錢
山上三厘			
山下三厘			
花季臨時貸下三厘			
山下三厘			
花季臨時貸下三厘			
山上

歳入三萬四千九百九拾七圓三拾錢八厘ハ準備金ヨリ生スルモノ即チ公債證書利子二百五十圓、淺草公園地所使用料一萬九千二百圓一錢六厘、建物使用料六千四百四十七圓七十四錢四厘、雜收入百四十二圓五十錢芝公園地所使用料六千八百七十七圓五十九錢、雜收入五十七圓七十二錢、麹町公園地所使用料三百八十七圓五十二錢八厘、雜收入二圓七十錢、深川公園地所使用料千三百四十八圓十二錢二厘、雜收入七十二圓十五錢、愛宕山公園地所使用料百九十九圓七十二錢八厘、雜收入三圓、飛鳥山公園地所使用料六圓五十一錢雜收入二圓ヲ計上シ、歳出經常費壹萬六千二百五十九圓七十錢五厘ハ淺草公園樹木培養費二十圓四十錢、道路橋梁費五百四圓三十八錢、溝渠費千九十三圓五十九錢、雜給千六十圓八錢、慰勞手當二十六圓、備品幷消耗品費百九十八圓、通信費二圓四十錢、賄費四十七圓七十二錢、營繕費百十五圓七十六錢一厘、雜費千百二十六圓八十錢、芝公園樹木培養費百三十二圓八十五錢、道路橋梁費千四百五圓、溝渠費千六百三十四圓五十六錢、雜給五百圓六十二錢、慰勞手當八圓、備品幷消耗品費七十五圓、營繕費九百二十一圓十錢麹町公園樹木培養費七圓、道路費四十二圓、溝渠費七圓五錢、雜給百三十六圓六錢、慰勞手當二圓、備品幷消耗品費二十圓、營繕費四十五圓五十錢、雜費六十三圓九十二錢、深川公園樹木培養費十圓五十錢、道路橋梁費五十二圓六十錢、溝渠費二千百二十九圓四十三錢、雜給二百三十圓二錢、慰勞手當六圓、備品幷消耗品費三十六圓、營繕費二百十二圓九十四錢五厘、雜給四十五圓二十八錢、愛宕山公園樹木培養費五十圓五錢、道路費千二百四十七圓二十錢、雜給百一圓廿錢、慰勞手當一圓、備品幷消耗品費二十五圓、營繕費五十圓四十四錢四厘、雜費九圓六十錢、阪本町公園溝渠費四圓十六錢、雜給四圓四十錢、雜費四十四圓八十三錢二厘、飛鳥山公園樹木培養費六圓五十錢、道路費四圓八十錢、溝渠費二十一圓八錢、雜給五十二

圓、慰勞手當二圓、備品幷消耗品費六十錢、營繕費三圓、雜費一圓及ヒ豫備費千四百七十八圓ヲ計上ス。而シテ臨時歳出ハ公園改良取調委員費也、細目ハ之ヲ省略ス。

〔附記、一〕　廿三年度公園追加豫算

費目	費額	公示年月日	公示番號
公園費	二、六六三・七四〇	廿三年六月十九日	告示第四五號
公園費	一二、七六八・二四六	廿四年一月八日	告示第一號
公園費	四、四六〇・七四六(入) 八三一・一八九(出)	廿四年二月四日	告示第六號
公園費	五、二九〇・六三九	廿四年二月四日	告示第六號

〔參考〕　廿三年度公園費決算

東京市告示第五號

明治二十三年度東京市所屬歳入出總決算報告ノ要領左ノ通。

明治二十五年三月二十二日

東京府知事　東京市參事會　富田鐵之助

○中略。

東京市公園明治二十三年度歳入出總決算報告　〈ハ朱書。

歳入

帝都時代ノ遊園

一、金五萬四千七百四拾圓七拾九錢

一、金五萬參千六百七拾九圓八拾八錢壹厘

歲入公園收入ノ內容ハ準備金ヨリ生ズルモノ豫算二百五十圓決算三百二十五圓、淺草公園豫算二萬五千七百九十圓二十六錢決算二萬五千二百四圓六十五錢一厘、芝公園豫算六千九百三十五圓三十一錢決算六千八百四十二圓四十三錢、麹町公園豫算三百九十圓二十二錢八厘決算四百三圓六十七錢二厘、深川公園豫算千四百二十圓二十七錢二厘決算千二百四十五圓九十三錢五厘、愛宕山公園豫算二百一圓七十二錢八厘決算二百十二圓七十七錢三厘、飛鳥山公園豫算八圓五十一錢決算十一圓八十八錢九厘、下谷公園豫算三千三百八十八圓八十錢八厘、綠町公園豫算千七十一圓九十三錢八厘決算九百十五圓六十八錢四厘、湯島公園豫算七十四圓八十三錢六厘決算百七十六圓七十七錢二厘、公園改良準備金ノ內豫算一萬五千二百七圓九十錢決算同額ヲ算ス。

歲出

經常費

一、金壹萬七千九拾七圓貳拾六錢壹厘　△總豫算額。

一、金壹萬四千四百貳拾圓九拾六錢　總決算額。

歲出經常費ハ淺草公園費豫算四千百九十五圓十三錢一厘決算三千八百三十六圓七十三錢九厘、芝公園費豫算五千九百五十四圓十一錢三厘、麹町公園費三百二十三圓五十三錢決算三百十七圓七十四錢四厘、深川公園費豫算二千七百二十二圓七十七錢五厘決算二千四百二十九圓十九錢四厘、愛宕山公園費豫算七百五十四圓二十一錢一厘決算五百十三圓十一錢四厘、綠町公園費豫算七十六圓九十七錢八厘決算十二圓五十六錢七厘、湯島公園費豫算六圓三十六錢七厘決算五圓四錢八厘、外ニ豫備費千四百七十八圓ヲ計上ス。

臨時費

一、金貳萬千百拾五圓五拾五錢八厘　△總豫算額。

一、金壹萬貳千八百八拾圓參拾錢貳厘　總決算額。

臨時費トシテハ公園改良取調委員費豫算三百九十九圓三十錢決算五十七圓六十五錢、坂本公園費豫算二千六百六十三圓七十四錢決算二千三十七圓五十錢、清水谷公園費豫算四百十二圓六錢七厘決算三百八十圓四十八錢六厘、湯島公園費豫算四千八百七十二圓二十錢五厘決算三千九百八圓八十四錢七厘、淺草公園費豫算九百四十八圓六十九錢決算九百二十八圓六十九錢五厘、芝公園費豫算一萬一千八百十九圓五十五錢六厘決算五千五百六十七圓十二錢四厘ヲ計上ス。

總計歲出金貳萬七千參百壹圓貳拾六錢貳厘。

歲入出差引

殘金貳萬六千參百七拾八圓六拾壹錢九厘。

內

帝都時代ノ遊園

金六千八百四拾圓九拾錢八厘　工事未濟ニ付二十四年度ヘ繰越金

金壹萬九千五百參拾七圓七拾壹錢壹厘　公園改良準備金ヘ編入

〔附記、二〕　淺草公園事務掛增員

明治廿三年三月廿五日受出

知事

書記官

淺草公園事務掛任用ノ件ハ市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　三月廿八日議決

議長

市參事會員

第一八四八號

第壹類淺草公園事務掛任用議案

淺草公園事務掛申付、月給七圓給ス。

明治廿三年四月一日

（說明）

別紙淺草區長推擧之人物ハ適任ノモノト認メ本案ヲ艸ス。

庶務課長
文書課長　——警視廳東京府公報

中村房吉

東京市參事會

淺草公園事務掛月俸金七圓

右ハ當區淺草公園事務掛壹名增員之義御達相成候ニ付テハ、前記之者ヲ以テ頭書之通御採用相成候樣致度、別紙履歷書○略。相添、此段及ニ上申一候也。

明治廿三年三月十八日

東京市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

東京市下谷區龍泉寺町三十一番地
平民　中村房吉

明治廿三年三月十日受出

知事

書記官

淺草公園事務掛撰擧之件ハ市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　三月十四日議決

議長

市參事會員

第一五三四號

第　類事務掛撰擧之件內訓議案

淺草區長宛　親展

帝都時代ノ遊園

庶務課長
文書課長

東京市參事會
東京府知事

明治廿三年度ヨリ淺草公園事務掛壹名 月給金七圓 増員候ニ付、相當之者撰擇申出ヘシ。

追テ財産一千圓以上ヲ有スル者、身元保證人ニ相立候義ト心得ヘシ。 ——庶政要錄

庶務課長

〔附記、二三〕 深川公園不動堂造庭

明治廿三年三月廿五日 受出

知事

書記官

深川公園不動堂庭模様替願ハ市參事會ニ付スルモノトス。

明治 年 月 日出 三月廿九日議決

議長

市參事會員

第一九六〇號

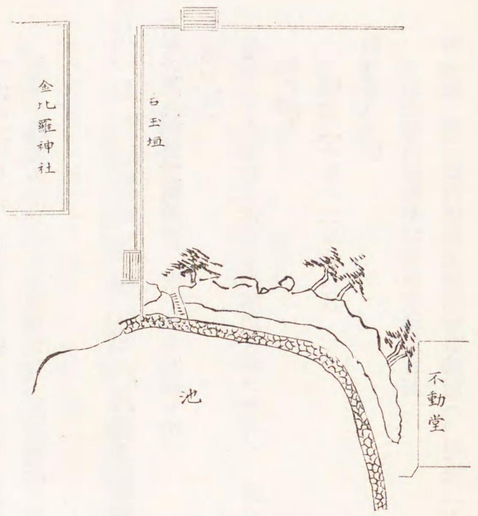
第二類深川公園内庭模様替願指令議案

東京市指令第 號

深川公園内不動堂受持人
代理 塚本照惠

明治廿三年三月廿二日付樹木植栽場模様替願ノ件聞屆、但落成之上屆出ヘシ。

樹木植栽場模様替願



深川公園地
成田山不動堂

右奉願候、拙堂東ノ方明地ヘ樹木植栽ノ儀、去ル廿一年中甲號圖面ノ通リ御許可ヲ蒙リ目下着手中ニ候所、今回同所北ノ方ヘ乙號圖面ノ如ク池沿ヒニ小道ヲ設ケ、同所崖ハ黒ボク石丸石ヲ以テ組上ケ、崖上樹石ノ間ニ銅製八大童子ヲ建設シ、一層風致ヲ相增候樣可仕候間、何卒御許可被成下度、圖面相添奉願候也。

明治廿三年三月廿二日

右不動堂受持人三池代理
塚本照惠

信徒總代
府下南葛飾郡隅田村
千三百四拾壹番地
岡甚造 ○外二人略。

深川公園事務掛
櫻井清右衞門

東京市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

前書出願ニ付奥印候也。

帝都時代ノ遊園

附記、四　不忍池

上野公園内　國勸業博覽會　上野公園内國勸業博覽會事蹟

〔附記、四〕　不忍池

過ニ不忍池一二首。

賣酒樓頭歌扇搖。羅裙翠袖不ニ勝ニ嬌。簾前別有ニ垂楊樹一。也向ニ春風學ニ舞腰一。

游塵小處惱ニ吟情一。不忍池頭緩緩行。最愛綠隄新柳色。纖遮ニ畫檻一未ニ遮ニ櫻。

——十洲詩鈔　○庚寅作。

四月一日　○明治廿三年（紀元二五五〇年）。第三回内國勸業博覽會ヲ上野公園ニ開ク。○産業篇參照。

上野公園内國勸業博覽會　左ニ法令類纂ヲ引ク。（第十號）

朕第三回内國勸業博覽會事務局官制ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシム。

御名御璽

明治二十年十二月廿八日

内閣總理大臣　伯爵　伊藤博文

勅令第八十號

第三回内國勸業博覽會事務局官制

第一條　第三回内國勸業博覽會事務局ハ、明治二十三年東京上野公園内ニ開設スヘキ博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス。

第二條　第三回内國勸業博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク。

總裁　一人。

副總裁　一人。

事務官長　一人。

審査官長　一人。

事務官　若干人。

審査官　若干人。

事務官補。

審査書記。

第三條　總裁ハ皇族勅ニ依リ之ニ任ス、副總裁ハ農商務大臣ヲ以テ之ニ充テ、事務官長審査官長ハ勅任官、事務官ハ奏任官、審査官ハ奏任官又ハ判任官、事務官補審査書記ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ。

第四條　事務ヲ分掌セシムル爲メ便宜課ヲ設ケ、審査ヲ分掌セシムル爲メ部ヲ設ケ、各課各部ニ其長ヲ置ク。

第五條　課長ハ事務官、部長ハ審査官ノ中ヲ以テ之ニ充ツ。

第六條　副總裁ハ所部ノ官吏ヲ統督シ局務ヲ總判ス。

第七條　奏任官ノ進退ハ副總裁ノ奏請ニ依リ閣議ノ後裁可ヲ經、内閣ニ托テ之ヲ命ス、判任官ハ副總裁其所屬大臣ト協議ヲ經テ之ヲ命ス。

帝都時代ノ遊園

第八條　副總裁ハ本會ノ事務ニ關シ諸規則ヲ定メ、及警視總監北海道長官府縣知事ニ指令、又ハ訓令ヲ下スコトヲ得。

第九條　副總裁ハ內外ノ學識經驗アルモノヲ選ヒテ學藝其他ノ要件ヲ諮問シ、若クハ審議調査セシメ、又ハ之ニ審査官ヲ命スルコトヲ得、其審査官ハ副總裁ノ奏請ニ依リ裁可ヲ經テ奏任官ニ准シ、待遇スルコトアルヘシ。

第十條　副總裁ハ本會ノ經費豫算定額內ヲ以テ傭員ヲ使用シ、又ハ奏任官以下ノ勤勞アル者、及第九條ノ人員ニ賞與シ、又ハ報酬スルコトヲ得。

第十一條　事務官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ、一切ノ事務ヲ掌理ス。

第十二條　審查官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ、出品ノ審查及之ニ關スル事務ヲ掌理ス。

第十三條　事務官ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス。

第十四條　審查官ハ審查官長ノ命ヲ承ケ、出品ノ審查及之ニ關スル事務ヲ分掌ス。

第十五條　事務官補審查書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各其庶務ニ從事ス。

（第六號）

農商務省告示第十一號

第三回內國勸業博覽會規則左ノ通相定ム。

但規則第四條ノ部類目錄ハ追テ告示スヘシ。

明治二十年十二月二十九日

農商務大臣　伯爵　黑田清隆

第三回內國勸業博覽會規則

第一章　總則

第一條　本會ハ明治二十三年四月一日ヨリ七月三十一日マテ、東京上野公園內ニ開設ス。

第二條　內國產ノ物品ハ普ク出陳スルコトヲ得、但左ニ揭クルモノハ出陳スルヲ許サス。

一、內外國博覽會若クハ共進會ニ出品シ審查ヲ受ケシモノ。

二、明治十八年以前ノ採取產出又ハ製造ニ係ルモノ。

三、發火及破裂ノ性アルモノ、他ノ出品ニ損害ヲ與フルノ虞アルモノ、衞生ニ害アルモノ、其他汚穢醜體ノモノ。

第三條　外國品又ハ第二條第一項第二項ノ物品ト雖モ、參考ニ必要アルモノハ本出品ニ添ヘ出陳スルコトヲ得、但形體巨大ノモノ、及多數多量ヲ出陳スルヲ得ス、前項ノ添出品ハ賣買スルコトヲ許サス。

第四條　出品ヲ大別シテ左ノ八部ト爲ス、部中ノ類別ハ部類目錄ヲ以テ別ニ之ヲ定ム。

第一部　工業。

第二部　美術。

第三部　農業及園藝。

第四部　動物。

第五部　水產。

第六部　山林。

第七部　礦業及冶金術。
第八部　機械。

第五條　出品陳列ノ爲メ左ノ六館ヲ設ケ、部類目錄ニ從ヒ類別陳列ス。

本館　（第一部及第七部）。
美術館　（第二部）。
農林館　（第三部及第六部）。
動物館　（第四部）。
水產館　（第五部）。
機械館　（第八部）。

第六條　動物館ハ明治二十三年五月一日ヨリ同十五日マテ之ヲ開ク。

第七條　事務局ハ出品陳列ノ都合ニ依リ其場所ヲ增減變更セシメ、又ハ出品ノ部類ヲ變更セシムルコトアルヘシ。

第八條　物產改良上模範トナルヘキ內外國物品ハ事務局ニ托テ適宜蒐集シ、特ニ參考館ヲ設ケ之ヲ陳列スヘシ。

第九條　本會ニ出品セント欲スル者ハ地方長官ニ願出ヘシ、地方長官ハ之ヲ許可スルトキハ甲號書式ニ依リ出品目錄二通ヲ作リ、明治二十二年八月二十日限リ其廳ヲ發シ事務局ニ差出スヘシ、但第二部出品ノ目錄ハ同二十三年一月三十一日限リ發送スヘシ。

出品ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙號書式ニ依リ出品解說書二通ヲ作リ、地方長官ニ差出スヘシ、地方長官ハ之ヲ取纏メ、明治二十三年二月十五日限リ其廳ヲ發シ事務局ニ差出スヘシ。

第十條　第二部ノ出品ニ限リ事務局ニ於テ鑑別許否スヘキニ由リ、地方長官ハ其願書ヲ取纏メ、明治二十二年十二月十五日限リ其廳ヲ發シ事務局ニ差出シ、出品人ヲシテ同期限內ニ其現品ヲ發送セシムヘシ、但其種類ニ由リ部類ヲ變更シ出品ヲ許スコトアルヘシ。

第十一條　地方長官ノ許可ヲ經シ出品ト雖モ、事務局ニ於テ第二條ノ各項ニ觸レ、若クハ第三條ニ揭クル參考ニ必要ナシト認ムルモノハ、其出陳ヲ拒ミ又ハ陳列後撤去セシムヘシ。

第十二條　第九條ノ出品目錄及出品解說書ニ依リ、事務局ニ於テ出品總目錄及出品總解說書ヲ編纂スヘシ。

出品解說書中公衆ニ示スコトヲ厥フ事項ハ朱書スヘシ。

第十三條　地方長官ハ其管下ノ出品ニ係ル一切ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ委員ヲ設クヘシ。

第十四條　左ニ揭クルモノハ事務局ニ於テ之ヲ支辨スヘシ。

一、飾臺、飾箱及陳列ニ要スル階子踏臺。
二、部類別ノ標札。
三、出品付札、不賣品付札、添出品付札、及賣買約定濟付札。
四、機械運轉ニ要スル蒸汽及動原機幷其附屬品。
五、鉅重ノ物品陳列ニ要スル基礎ノ構造。

六、重大ノ物品陳列ニ要スル器具。
七、在場中動物ノ飼料及之ニ要スル器具。
八、出品ヲ許サヽル第二部物品ノ返送費。

第十五條　左ニ揭グルモノ出品主ニ托テ之ヲ白辨スヘシ。

一、出品ノ荷造及運送費。
二、出品陳列ニ係ル諸費。
三、自己ノ望ニ依リ調製スル飾臺及飾箱費。
四、飾臺及飾箱ニ用フル鋪布、其他陳列品ノ粧飾費。
五、陳列品及其周圍掃除ニ要スル諸費。
六、出品主又ハ代理人ノ往返及滯在諸費。
七、前數項ノ外第十四條ニ揭ケサル諸費。

第十六條　機械館所要ノ外、各館内ニ於テ用火ヲ禁ス。

第十七條　陳列品ハ事務局ニ托テ相當ノ保護ヲナスト雖モ、萬一盜難火水風震其他ノ事故ニ因リ破損紛失スルトキハ本局其責ニ任セス。

第十八條　陳列品ハ開會中場外ニ出スコトヲ許サス。

第十九條　看守人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ、陳列品ニ觸ルヽコトヲ許サス。

第二十條　出品主ノ承諾ヲ經、事務局ノ許可ヲ得ルニ非レハ、陳列品ヲ寫眞シ又ハ摸寫スルコトヲ許サス、但會場ノ景狀ヲ寫眞シ、又ハ摸寫セントスルモノハ出品主ノ承諾ヲ要セス。

第二十一條　出品主ニ於テ會場外ニ賣店ヲ設ケ、出品ト同種ノ物品ヲ販賣センコトヲ出願スルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ、但東京府區内ノ出品主ニハ之ヲ許サス。賣店ニ關スル規則ハ事務局ニ於テ別ニ之ヲ定ム。

第二章　出品

第二十二條　左ニ揭グル物品ハ目方地積及需用ノ馬力等各其要領ヲ記シ、明治二十一年十二月三十一日マテニ地方廳ヲ經テ事務局ニ通知スヘシ。

一、機械ノ運轉ヲ示ス爲メニ蒸汽力ヲ要スルモノ。
二、鉅重ノ物品ニシテ故ラニ基礎ノ構造ヲ要スルモノ。
三、一箇ノ物品ニシテ地積二坪以上、若クハ高サ十八尺以上ヲ要スルモノ。

第二十三條　出品ノ搬入及陳列ハ明治二十三年二月一日ヨリ同三月二十五日マテトシ、其搬出ハ閉場後三十日以内トス。

但、蔬菜果物ノ生物及盆栽類ハ其季節ニ從ヒ出陳シ、二週間ノ後搬出スルコトヲ得。

第二十四條　動物ハ明治二十三年四月二十五日ヨリ同三十日マデニ入場セシメ、五月十六日ヨリ一週間内ニ退場セシムヘシ、但傳染病ノ處アリト認ムルモノハ入場ヲ差止メ、若クハ退場セシムヘシ。

第二十五條　出品陳列ノ場所ハ事務局ニ於テ廣狹ヲ定メ配當スヘシ。

第二十六條　出品主ハ出品ノ番號、品名、賣價、產地、製產者、及ヒ自己ノ住所氏名ヲ出品付札ニ記載

シ、每品ニ添付スヘシ、但不賣品ハ不賣品ノ札ヲ付シ、添出品ハ添出品ノ札ヲ附スヘシ。

第二十七條　出品中現品ノミニテ其性質効用ヲ知ラシムルコト能ハサルモノハ、說明書ヲ添フヘシ、又礦物藥品ノ類ニテ分析ヲ經タルモノハ其分析表ヲ付スヘシ。

第二十八條　出品ト同種ノ物品ニシテ內外國博覽會若クハ共進會ニ於テ褒賞ヲ得タルモノハ、其賞品又ハ摸形寫圖ヲ添付スルコトヲ得。

第二十九條　陳列品中賣買約定ヲナシタル品ニハ、賣買約定濟ノ札ヲ付ケ置クヘシ。

第三十條　陳列場所ヲ交換シ、又ハ改造シ、若クハ土工ヲ要スル時ハ事務局ノ許可ヲ受クヘシ。

陳列品ノ位置ハ開場後事務局ノ許可ヲ得ルニアラザレハ變更スルコトヲ得ス。

第三十一條　出品ノ陳列ハ高サ十八尺ヲ超ユヘカラス。

第三十二條　機械ノ効用ヲ示スカ爲メ製出シタル物品ハ、場內ニ於テ販賣ヲ許スコトアルヘシ。

第三十三條　陳列品中腐敗又ハ融解等ニテ、他ニ妨害アリト認ムルモノハ搬出セシムヘシ。

第三十四條　陳列品ハ各出品主ニ於テ便宜之ヲ看守スヘシ。

第三十五條　出品主ヨリ事務局ニ申出ヘキ事件ハ委員ヲ經由スヘシ、但急遽ノ事件ハ此限ニアラズ。

第三章　來觀

第三十六條　來觀時間ハ每月午前八時ヨリ午後五時マテトス、但都合ニヨリ之ヲ伸縮シ、又ハ來觀ヲ差止ムルコトアルヘシ。

第三十七條　來觀人ハ入場券ヲ携フヘシ、入場券ハ一名一枚ニ限ル、但滿五年以下ノモノハ之ヲ要セス。

第三十八條　入場券ハ分テ四種トス。

一、特別入場券　紫色　壹枚代價　金貳圓。

一、日曜日同　紅色　同　拾五錢。

一、土曜日同　白色　同　三錢。

一、平日同　青色　同　七錢。

特別入場券ハ入場ノ際之ヲ門衞ニ示シ、壹枚ヲ以テ開場中來觀スルコトヲ得、其他ノ入場券ハ入場ノ際門衞ニ渡スヘシ。

第三十九條　瘋癲又ハ醉狂者ト認ムルトキハ入場ヲ禁シ、又ハ退場セシムヘシ。

第四十條　入場券ハ便宜ノ場所ニ於テ賣捌カシム。

第四章　審　查

第四十一條　出品ハ總テ審查ヲ爲スモノトス、其審查ハ開會當日ヨリ始メ六月廿日ニ終ル。

第四十二條　左ノ出品ニハ審查ヲナサス。

一、試製試作品。

二、賣藥。

三、書籍新聞紙雜誌等ニテ文章若クハ旨趣ヲ主トスルモノ。

四、添出品。

五、第二十三條但書ノ出品ニシテ六月二十日以後ノ出陳ニ係ルモノ。

六、官廳ノ出品。

第五章　褒賞

第四十三條　出品中優等ノモノニ對シ其出品主ニ褒賞ヲ授與ス、出品主製産者ト異リ若クハ協賛人アルトキハ或ハ其一人ニ授與シ、或ハ其各人ニ授與スルコトアルヘシ、其授與ノ褒賞左ノ如シ。

一、名譽賞牌　金造。
　全國ニ冠絶シ、名譽ヲ海外ニ輝カスニ足ルヘキ出品ヲナシタル者ニ與フ。
一、進歩賞牌　銅造。白一等至三等。
　發明改良等ニ因リ、進歩ノ著シキ出品ヲナシタル者ニ與フ。
一、妙技賞牌　銅造。白一等至三等。
一、有功賞牌　銅造。白一等至三等。
　物産ヲ增殖シ販路ヲ弘メ、估價ヲ低クシ或ハ便益ノ機械器具ヲ適用シ、又ハ摸造移殖セシ等ニ因テ功勞アル者、若ノハ從來ノ方法ニ由ルモ、他ニ超越スル出品ヲナシタル者ニ與フ。
一、協賛賞牌　銅造。白一等至三等。
　物品ノ採集考案ノ指示、又ハ出品ノ製産ニ與カリ、協助ノ功アル者ニ與フ。
一、褒狀
　前記ノ諸項ニ亞クヘキ出品ヲナシタル者ニ與フ。

第四十四條　本會出品ニ關スル事務ノ成蹟ニ依リ、其官廳若クハ其委員ニ別ニ褒賞ヲ付與スルコトアル

ヘシ。

第四十五條　褒賞授與式ハ明治二十三年七月一日ヲ以テ執行ス。

第四十六條　出品ノ再審査ヲ請ヒ、又ハ授與ノ褒賞ヲ返還スルコトヲ許サス。（下略。）

（第五號）

閣令第一號

明治十六年七太政官第二十六號布達ニ依リ、明治二十二年ニ於テ開設ス可キ第三回内國勧業博覽會ヲ延期シ、明治二十三年四月一日ヨリ七月三十一日マテ東京上野公園内ニ開設ス、但該會ニ關スル諸規則ハ農商務大臣之ヲ定ム。

明治二十二年一月二十日

内閣總理大臣　伯爵　伊藤博文

第三回内國勧業博覽會事務局告示第八號

來ル十二月二日本會事務局ヲ東京市上野公園内ヘ移ス。

明治二十二年十一月十四日　第三回内國勧業博覽會副總裁　伯爵　井上馨

〔附記〕　内國勧業博覽會園藝部褒賞

第三回内國勧業博覽會第三部十類、即チ園藝ニ於テ褒賞ヲ得タルモノ左ノ如シ。

受賞等級	品名	府縣氏名
有功二等	垂枝赤松、蘇鐵共ニ盆栽	東京　清水藤吉

同　五葉松七種　有栖川石菖四種水褒　小宮權次郎
同　有功三等　苗木類集、種物類集　竹中卓郎
同　五葉松盆栽　内山長太郎
同　山茶類集、石菖類集　伊藤金五郎
同　萬年青十九種　篠　常五郎
同　牡丹類集　松井吉助
同　牡丹類集　〔下村常次郎／下村小兵衛〕
同　牡丹十種、花木苗五種　大日本産樹會社
同　蘇鐵十種盆栽　山元惠易
褒狀　山茶類集、櫻草類集　伊藤重兵衛
同　山茶類集、躑躅類集　伊藤小右衛門
同　五葉松盆栽　小宮市五郎
同　五葉松四種盆栽　小宮次郎七
同　五葉松十三種盆栽　小宮市右衛門
同　風蘭七種　松葉蘭二種　大矢彦藏
同　竹類植込一對　内山卯之助
同　羊齒類植込一對　内山鎌太郎

同　盆景一對　木部米吉
同　噴水機應用盆景　〔塚田藤吉／飯田源助〕
同　芍藥　田村景福
同　垂枝松　蛭川銀次郎
同　黑松五種盆栽　今里駒藏
同　黑松五種盆栽　今里鹿藏
同　黑松盆栽　大坂　三木清七
同　蘇鐵四種盆栽　同　花木清吉
同　鹿嶋松七種盆栽　茨城　飯嶋唯一
同　蘇鐵盆栽　沖繩　嶋袋龜
同　武者立松盆栽　千葉　山崎增藏
同　剪枝鋏　大分　仲摩喜十郎
同　剪枝鋏　岐阜　鹽谷光太郎
同　卷栢類集　東京　吉見寬

二等賞　二人
計　三等賞　八人
褒狀　二十二人

帝都時代ノ遊園

清水谷公園

清水谷公園地上地
清水谷公園地上地事蹟

十五日（明治廿三年（紀元二五五〇年）四月。）**清水谷公園地**（市内麹町區。）ノ上地ヲ聽許ス。（庶政要錄。）

清水谷公園地上地　庶政要錄ニ見ユ。

明治廿三年四月十五日受出

知事
書記官

清水谷公園引繼ノ件ハ、市參事會ニ報告スルモノトス。

明治廿三年四月十五日受出　月　日報告濟

庶務課長

議長
市參事會員

第七九九號
第貳類

麹町區紀尾井町三番地九號

一、貳千貳百貳拾三坪五合五勺

右ハ今回公園地ヘ引繼カレ候ニ付、經費其他ノ手續ハ追々調査候ヘ共、先以報告候也。

麹町區紀尾井町三番地九號

一、地坪貳千貳百貳拾三坪五合五勺

右地所公園地ニ組入之儀、大久保贈右大臣哀悼碑建設創立者總代ヨリ願出候ニ付、上地聞屆、市ニ引繼

清水谷公園
地上地
清水谷公園
地上地事蹟

清水谷公園

清水谷公園地上地事蹟

十五日 ○明治十三年（紀元二五五〇年）四月。**清水谷公園地**○市内麹町區。ノ上地ヲ聽許ス。○庶政要錄。

清水谷公園地上地 庶政要錄ニ見ユ。

明治十三年四月十五日 受出

知事

書記官

清水谷公園引繼ノ件ハ、市參事會ニ報告スルモノトス。

明治十三年四月十五日 受出 月 日報告濟

庶務課長

議長

市參事會員

第七九九號

第貳類

麹町區紀尾井町三番地九號

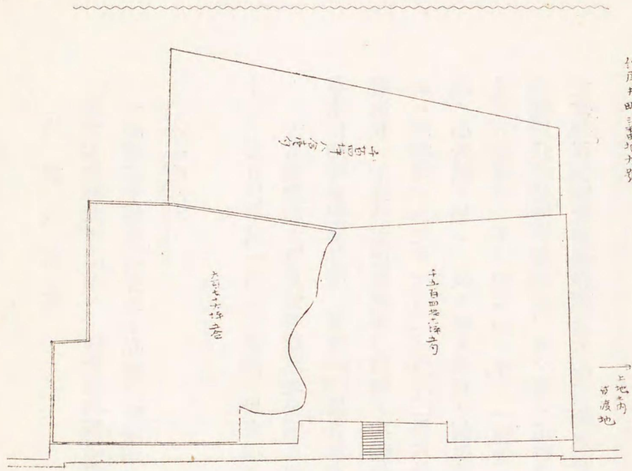
一、貳千貳百貳拾三坪五合五勺

右ハ今回公園地ヘ引繼カレ候ニ付、經費其他ノ手續ハ追々調査候ヘ共、先以報告候也。

麹町區紀尾井町三番地九號

一、地坪貳千貳百貳拾三坪五合五勺

右地所公園地ニ組入之儀、大久保贈右大臣哀悼碑建設創立者總代ヨリ願出候ニ付、上地聞屆、市ニ引繼



之儀、内務大臣ノ裁可ヲ得候間、別紙書類寫相添及引渡候也。

明治二十三年四月十五日

東京府知事　男爵　高　崎　五　六㊞

市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

追テ別紙圖面淡墨色之部分千百四坪八合壹勺ハ、從前北白川宮御所有地ノ内無料借用地ニ付、猶引續借用之手續御取計相成度、又圖面朱線内六百七拾六坪五合ハ明治二十二年七月ヨリ三拾年間紀尾井町三番地江川定治郎無料貸渡有之候ニ付、繼續貸渡相成度、此段申添候也。

民有地ヲ公園地ニ上地願之義ニ付伺

麹町區紀尾井町三番地大久保贈右大臣哀悼ノ碑建設地、公園ニ組込ノ義、建碑創立者總代地主西村捨三ヨリ別紙寫ノ通願出候ニ付取調候處、右ハ市區改正之設計ニ於テ公園設置ノ位置ニ相當致候ニ付、願之通上地聞屆、市ニ引繼可然哉、別紙書類相添、此段相伺候也。

内務大臣宛

追テ本件御裁可之上ハ、別紙圖面淡墨色之部分千百四坪八合壹勺、是迄ノ通借用ノ義、更ニ北白川宮へ請求之手續取計可申ト存候、此段添申候也。

指令 内務省三月廿七日甲第八〇號

本年三月廿四日第一八二三號伺、民有地ヲ公園地ニ上地願之件聞屆ク。

東京府知事

大久保贈右大臣哀悼碑建設地公園ニ組込ノ儀願

東京市麹町區紀尾井町三番地（字溝水谷）掘者所有地内ニ於テ、贈右大臣大久保利通卿哀悼ノ碑願濟ノ上、去ル明治廿一年五月落成候次第、同卿ノ功勳偉績ハ今更喋々ヲ俟タス、世上一般欽慕崇敬スル所ニ有之、然ルニ該地籍タル三千三百二拾八坪三合六勺（内二千二百二十三坪五合五勺所有地、千百四坪八合一勺北白川宮ヨリ拜借地。）ニシテ、碑側樹石等ノ配置恰モ一箇ノ小公園ノ如シ、故ニ諸人參拜ノ都度逍遙徘徊卿ノ功德ヲ仰慕スルト共ニ、各自ノ精神ヲ發揮スルニ足ルノ經營ニシテ、府下山ノ手ノ一勝地ト謂ヘク、目下市區改正各公園等御設置ノ際ニモ有之、何卒該地所此際公園ニ御組込、永ク卿ノ遺跡ヲ保存シ、創立者ノ本意ニ適ハンコヲ千希萬望ノ至ニ堪ヘス、宜敷御詮議願意御聽許被成下度、繪圖面相添、此段奉願候事。

東京市赤坂區田町三丁目十三番地止宿
建碑創立者總代地主
滋賀縣士族
從四位 西村捨三

明治二十三年三月十八日

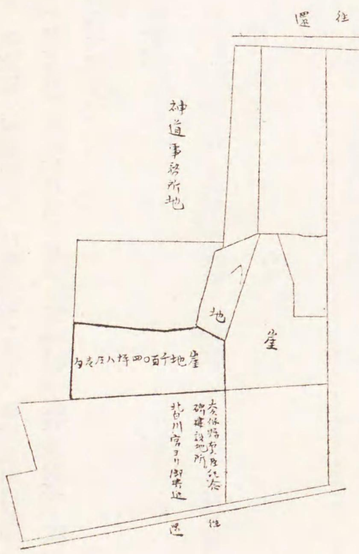
東京府知事男爵高崎五六殿

追伸隣地北白川宮ヨリノ拜借地所及同地内植木職江川定治郎へ貸地ニ係ル結約書類、幷建碑上願書寫等自第一號至第五號併テ進達候也。

前書願出ニ付、奥印候也。

明治廿三年三月十八日

東京市麹町區長 子爵 大河内正質



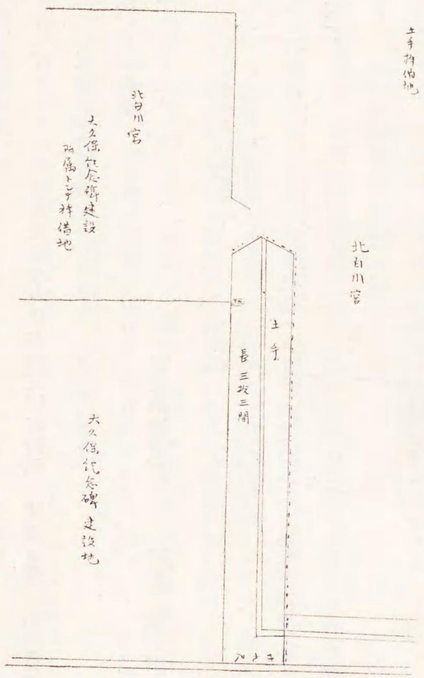
約定書

帝都時代ノ遊園

今般大久保聯右大臣記念碑建設地所當宮ヨリ御寄進ニ相成候處、右地接續ノ崖地千百〇四坪八合壹勺拜借被」致度段、御志願ノ趣御聞屆、別紙朱引ノ通永ク御貸渡相成候付テハ、後來該地ニ係ル諸費等有」之節ハ貴方ニテ御支辨可ニ相成」、且該地有形ノ儘（樹木栽培不苦。）保存崩毀等ノ義無」之樣、精々御注意有」之度候、爲」後日」約定證仍テ如」件。

明治十六年七月

北白川宮御付
三吉慎藏



湯島神社境内公園引繼
湯島神社境内公園引繼事蹟

右發起人總代
西村捨三殿
奈良原繁殿
金井之恭殿

約定書

今般境界土手ノ義、都合ヲ以テ御地所内築立致度相願候處、御聞屆被」下難」有存候、依」之別紙圖面ノ通築立落成致候、就テハ無稅拜借地ノ義ニ付、永々右土手修繕、其外手入等ハ總テ拙者方ニテ引受、決テ御手數相掛申間敷候、爲」後日」約定證仍テ如」件。

明治十七年一月

北白川宮御付
三吉慎藏殿

西村捨三

廿一日 〇明治廿三年（紀元二五五〇年）四月。**湯島神社境内**〇市内本郷區。**ヲ公園ニ引繼グ。**〇庶政要錄。

湯島神社境内公園引繼ハ、

明治廿三年四月十八日受出

知事

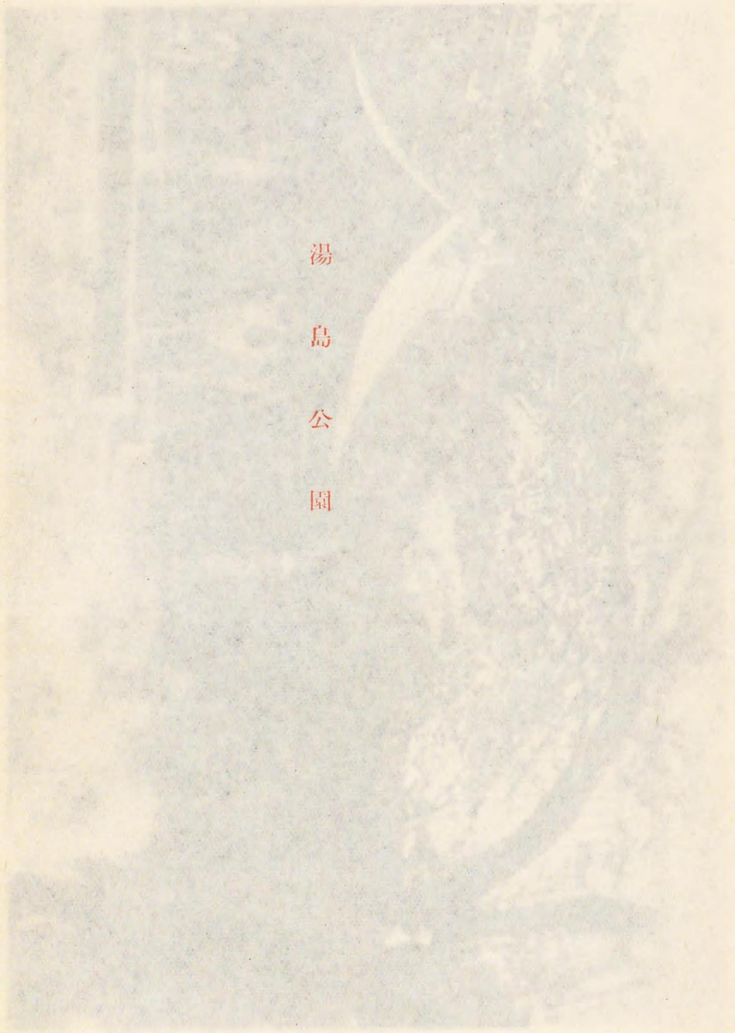
書記官

庶務課長

湯島公園引繼ノ件ハ、市參事會ニ報告スルモノトス。

明治　年　月　日出　四月廿一日報告濟

帝都時代ノ遊園



湯島公園

議長
市參事會員
第八一四號
第貳類

湯島神社境内地ノ義、今回公園ニ引繼相成、告示其他ノ手續ハ追々取調候ヘ共、先以報告候也。

湯島神社境内地湯島梅園町壹番地
一、面積貳千貳百九拾九坪四合三勺
外三百貳拾四坪三合五勺　崖地

右ハ湯島神社祠官幷氏子總代ヨリ公園地ヘ編入之義出願之處、該地ハ市區改正設計中之場所ニ付、内務大臣ノ裁可ヲ得、公園ヘ編入候條、別紙書類添及引繼候也。

明治二十三年四月十八日

東京府知事　男爵　高崎五六

東京市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

○未書。
内務省指令甲第九四號

本年三月廿九日第二號上申、湯島神社境内地公園ニ組込之件聞屆ク。

明治廿三年四月七日

内務大臣　伯爵　山縣有朋

明治廿三年三月十八日受
同月廿二日出

東京府

議長
市參事會員
第八一四號
　第貳類

湯島神社境內地ノ義、今回公園ニ引繼相成、告示其他ノ手續ハ追々取調候ヘ共、先以報告候也。

湯島神社境內地湯島梅園町壹番地
一、面積貳千貳百九拾九坪四合三勺
　外三百貳拾四坪三合五勺　崖地

右ハ湯島神社祠官幷氏子總代ヨリ公園地ヘ編入之義出願之處、該地ハ市區改正設計中之場所ニ付、內務大臣ノ裁可ヲ得、公園ヘ編入候條、別紙書類添及引繼候也。

明治二十三年四月十八日

東京府知事　男爵　高崎五六

東京市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

○本書。
內務省指令甲第九四號

本年三月廿九日第二號上申、湯島神社境內地公園ニ組込之件聞屆ク。

明治廿三年四月七日

內務大臣　伯爵　山縣有朋

明治廿三年三月十八日受
同月廿二日出

湯島公園

知事

第一部長

第二部長

湯島神社境内地公園ニ組込之義ニ付照會按

市區改正委員長宛

本鄉區湯島神社祠官及氏子總代之者ヨリ、該神社境内地公園ニ組込相成度旨出願有之取調候處、右神社境内地ノ如キハ都下之一勝地ニシテ、公園設置適當之位置ヲ占メ、已ニ市區改正設計中ニ於テモ湯島神社及天神町等之一圓ハ公園設置ノ計畫ニ相成居候義ニ有之候間、右境内地公園ニ組込之義、來ル廿三年度ニ於テ施行致シ度ト存候條、御意見承知致シ度、此段及御照會候也。

尙以テ本文施行ニ付テハ、從來神社ニ於テ境内出稼借地人ヨリ社殿等維持ノ爲地料ヲ徵シ、境内地不用之場所貸渡有之候得共、公園ニ組込ま相成上ハ市會へ引渡候義ニ付、是迄神社ニ收入シ來リタル處ノ地料收額金ヲ日當トシ、別紙調書之通リ市區改正費等ヨリ手當金トシテ下渡可申ト存候條、此段申添候也。

市區改正掛長

庶務課長

知事

湯島神社境内地貸下地料收入ニ對スル手當金調書

一、金貳千五百圓也　手當金見積高

但地料收入壹ケ月金拾四圓七拾三錢壹厘、壹ケ年金百七拾六圓七拾七錢ナリ、手當金貳千五百圓ニ對スル壹ケ年七分ノ利子ヲ見積ルトキハ、凡壹ケ年地料收入額ニ相當セリ。

○朱書。
發第四八號

本鄕區湯島天神社境內地公園へ組込ノ件ニ付、第一八一一號ヲ以テ照會之趣了承、右ハ本會ニ於テ異存無之候條、此段及回答候也。

明治二十三年三月廿五日

東京府知事男爵高崎五六殿

明治廿三年三月廿九日出

知事

第一部長

第二部長

湯島神社境內地公園ニ組込之義ニ付上申按伺

內務大臣宛

官有地第一種湯島神社境內地

湯島梅園町壹番地

一、面積貳千貳百九拾九坪四合三勺

外三百貳拾四坪三合五勺　崖地

右ハ本鄕區湯島神社祠官幷氏子總代之者ヨリ、同神社境內地公園ニ組込方今回願出候處、該地ハ市區改正之設計中ニ有之場所ニ付、本年度ニ於テ施行方市區改正委員會ヘ及照會候處、異議無之候間、此際公園ニ組込、東京市ヘ引繼候樣致度、別紙圖面○略。相添、此段及上申候也。

東京市區改正委員長　芳川顯正

市區改正掛長

庶務課長

文書課長

知事

（理由）本文ノ如ク市區改正委員會ニ於テモ異存無之旨回答アリ、只該境內地今般公園ニ組込ニ付テハ、湯島神社ニ對スル手當金支出方之義、今年度市區改正費中豫算殘餘金ヨリ支出スルコト、一昨廿七日常置委員會ニ於テ可決セリ、依テ本文ノ上申按ヲ起草セリ。

——庶政要錄

〔附記、一〕　上野・王子

夜抵上野。步花下。電氣燈照灼如晝。

不擇月輪盈與虧。電燈每夜照花枝。古人亦解燒銀燭。無可奈何風雨時。

王子村觀櫻

汽機日製紙千張。磚突噴煙散四方。可喜今朝風向好。免吹煤氣混花香。

——十洲詩鈔○庚寅作。

〔附記、二〕　溝口邸ノ櫻草

溝口伯培養の櫻草品名

會員溝口伯には多年來櫻草を愛翫し、之を培養しおられ、從て名花も少なからず、本年○明治廿三年。は例年に比すれば、氣候の變動の爲め不出來の由、今左に其中主重なるものゝ品名を揭ぐ。

羽衣。官女舞。楓賀。檜扇。笹波。翁の友。雲井鶴。紫雲龍。緋の袴。旭の光。襤褸錦。銀覆輪。武者揃。天の川。和歌の浦。淺妻船。西王母。都櫻。花車。星降。夕顏。產衣。玉散庭。綾衣。花月夜。內裏遊。霞の洞。櫻の笑。八重霞。漢泉殿。水鏡。百夜車。薰花風。山間月。陽炎。溫め鳥。深雪笹。香爐峰。龍宮海。簑尾瀧。青海原。秋風樂。普天下。美人。雨後の月。思の儘。汐衣。

棚引。二見ケ浦。唐子遊。珊瑚の光。龍田川。紅葉賀。智勇。十六夜。彌生の霞。滄溟海。御代の譽。藤娘。入日の灘。艶。鶴壽。松風。越路の雪。雲の上人。梟(此讀方は不詳由。)一辻。大力双鸞。唐縮緬。岩戸神樂。唐錦。枝珊瑚。泥中玉。初雪。白波。不禮講。琥珀の枕。大振袖。十州空。手弱女。養老。八ツ橋。鶴合。蘭陵笠。關八州。官女遊。花莚。對面。東鏡。落陽錦。百千鳥。淡雪。神風。月の桂。深山雪。滿月。一ト峯。千指の譽。萬花司。酒中玉。

以上の分は其花の色と大さとを載すべき筈なれとも、色も大さも其年の出來にて大に差異あり、一定し難き由ゆへ姑く略せり、又同君園内實生の分は左の如し。

大朱冠、兩面東紅大輪。萬里響、本紅内白大輪。初日影、薄色内白大輪。掌中玉、桃色内白大輪。薄曇、移り白大輪。古郷の雪、雪白大輪。許の色、兩面照紫大輪。花の瀧、兩面紅中輪。蘭奢待、薄曙色内白中輪。花摺衣、薄紅内白中輪。彩色班々、白地本紅絞中輪。星月夜、白地桃色班中輪。白鷺、白中輪。

以上列記するもの、中にて花輪の最も大なるものは宇宙(純白)なり、又全體に上部の能く揃ひおるものは秋風樂なり、又花月夜及花月の二品は共に内白く外□色にして、一見すれば全く相同じきものの如くなれども、花月夜は恰も細き線を引きたるが如く、花月は恰も粉を撒布したるが如く、此れ相異なる所なり、又白鷺は花輪極めて小なれども、花七つに岐分して缺刻あり、且つ一種の雛波を生して珍奇のものなり。

――日本園藝會雜誌(明治廿三年。)

公園使用加入金徴收
公園使用加入金徴收事蹟

五月一日(明治廿三年(紀元二五五〇年)。)**公園使用細則ノ一部ヲ改訂シテ加入金ヲ徴ス。**(○市會議錄議決及執行。)

公園使用加人金徴收 市會議錄議決及執行ニ見ユ。

市會第二十一號

第十三號(○略。)

第十六號 東京市公園使用料細則第一條へ但書追加ノ件

第十七號(○略。)

右別紙之通修正議定候條、此段及報告候也。

明治二十三年五月一日

東京市參事會
東京府知事男爵高崎五六殿

第十六號

東京市公園使用料細則第一條ニ但書追加ノ件

東京市條例第　號

(○未書。)

東京市公園使用料細則第一條ニ左ノ但書ヲ加フ。

但新ニ地所ヲ畫シ使用ヲ許ストキハ、別ニ加入金ヲ徴收スルコトアルヘシ。

明治二十三年四月廿六日提出

東京市會議長　楠本正隆

東京市參事會
東京府知事　男爵　高崎五六

(參照)

帝都時代ノ遊園

東京市公園使用細則

第一條　當廳ノ許可ヲ受ケ公園ノ地所ヲ使用スル者ハ、當廳ニ於テ特ニ定ムル所ニ從ヒ、使用料ヲ納ムヘシ。

芝公園内海軍用地交換
芝公園内海軍用地交換事蹟

二日　○明治廿三年（紀元二五五〇年）五月。**芝公園内海軍用地**○市内芝區。**ヲ交換ス。**○庶政要錄。

——市會議錄議決及執行

芝公園内海軍用地交換　左ニ記スルガ如シ。

明治廿三年六月十八日受出

知事

書記官

芝公園地内海軍省用地ト交換授受濟報告ノ件ヲ、市參事會ニ報告スルモノトス。

庶務課長

會計課長

明治廿三年六月　日受出　六月廿五日報告濟

議長

市參事會員

第　號

東京府知事ヨリ芝公園地内海軍省用地ト交換授受濟報告ノ件。

右及報告候也。

追テ本件當廳ニ於テ引受候ニ付ハ、該建物處分濟迄豫備費ノ内ヨリ支出ノ見込ヲ以テ番人ヲ付シ置、

日給金貳拾五錢ヲ給スルモノトス。

豫ね申出有之候芝公園地海軍省用地合面積五千五百五拾壹坪六合壹勺、及所在建物合坪百四拾五坪貳合六勺ト、同公園地一番地ノ内面積五千五百九拾三坪七合七勺ト交換ニ付、授受之義内務省ヨリ訓令ニ依リ昨十六日授受方取計候條、此段及報告候也。

明治二十三年六月十七日

東京府知事　侯爵蜂須賀茂韶

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

追ね建物番人一人付置候、此段申副候也。

明治二十三年四月二日受出

知事

書記官

別紙芝公園地海軍省用地ハ交換之義回答等、市參事會ニ付スヘキモノトス。

庶務課長

明治　年　月　日出　五月二日議決

議長

市參事會員

第二八九八號

類外

芝公園内海軍省用地交換ノ義ニ付回答并府知事ヘ上申按

帝都時代ノ遊園

海軍省第二局長宛

従來致御貸渡置候芝公園内壹番地中、市區改正道路敷等ヲ除キ面積五千五百九拾參坪七合七勺、今般軍醫學校新築ノ爲メ必用ニ付、御省用地同公園内第六拾六號地面積千八百三拾貳坪九合三勺外ニ同公園内四番地ノ内凡三千六百六拾三坪參合壹勺（此實測面積三千七百拾八坪六合八勺）合セテ五千四百九拾三坪三合壹勺（此實測面積五千五百五拾壹坪六合壹勺）御返地相成候ニ付、右壹番地中前記ノ面積御省用地ニ編入ノ義、三月三十一日付發第四六〇號ヲ以テ御照會ノ趣致承知候、右ハ第六拾六號地所在建物共御引渡相成候義ナレハ差支無之ニ付、其手續御取計相成度、御段及ニ御回答ニ候也。

東京市參事會
府　知　事

府　知　事　宛

芝公園地ノ内海軍省用地ト交換ノ義ニ付、同省ヨリ照會ニ付、別紙ノ通回答致置候間、此段及ニ上申ニ候也。

（説明）

本文交換地ノ内、市會ニ於テ決議濟ニ付、本案ヲ草ス。

明治廿三年四月十二日　受出

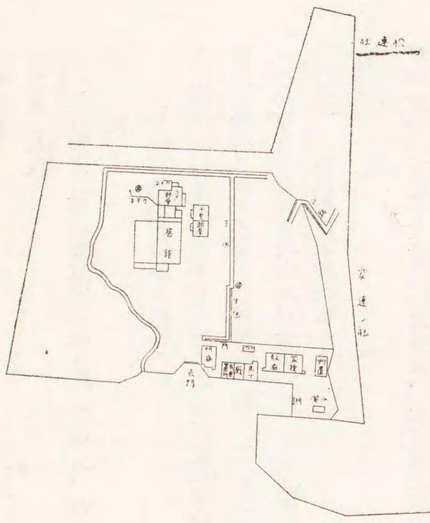
知　事

書記官

芝公園海軍省用地交換議案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　　四月十八日議決

庶務課長
議事課長



議長
市參事會員

第二五三五號

第壹類芝公園内海軍省用地ニ組替ノ件ハ、市會ニ付スルモノトス。

第　號

芝公園内海軍省用地ニ組替ノ件

芝公園海軍省使用ニ係ル壹番地ノ内、市區改正道路敷等ヲ除キ、面坪五千五百九拾三坪七合七勺ハ同省軍醫學校新築ノ爲メ必要ニ付、當省所轄同公園内第六拾六號地所面積凡千八百三拾貳坪九合三勺、（都合モ合面坪五千五百五拾壹坪六合壹勺ハ、更ニ公園地ニ返付致度旨照會アリ、依テ其需ニ應セントス。

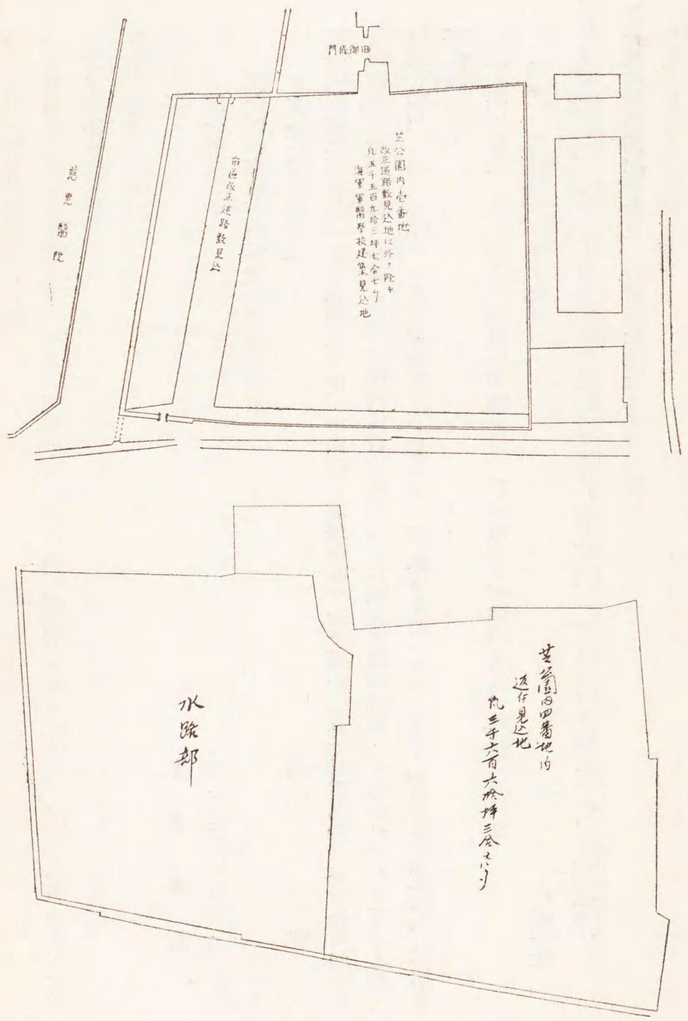
（説明）別紙照會ニ付起草ス。

○朱書。
發第四六〇號

從來致借用置候芝公園内壹番地中、市區改正道路敷等ヲ除キ面積凡五千五百九拾三坪七合七勺、今般軍醫學校新築ノ爲メ必要ニ付、當省所轄同公園内第六拾六號地所面積凡千八百三拾貳坪九合三勺、（都合モヨリテハ該地内ニアル建物モ共ニ御交付差支ナシ）外ニ同公園内四番地ノ内水路部西隣地凡三千六百六拾三坪三合壹勺、合セテ五千四百九拾三坪貳合四勺返付可致ニ付、右壹番地中前記ノ面積當省官用地ニ編入ノ義御承諾有之度、別紙圖面相添、此旨及御協議候也。

廿三年三月三十一日

海軍省第二局長　伊藤萬吉



東京府知事男爵高崎五六殿

追ゐ當省大臣ヨリ内務大臣へ照會ノ順序モ有レ之、且學校建築方モ極メテ差迫リ居候ニ付、成ル丈ケ差急キ煩御回答候也。

明治廿三年四月二日受出

庶務課長
市區改正掛長

知事

第一部長

芝公園内海軍省用地交換之義照會案

長官

市區改正委員長宛

芝公園内海軍省使用ニ係ル壹番地ノ中、市區改正道路敷等ヲ除キ面坪凡五千五百九拾三坪七合七勺ハ同省軍醫學校新築ノ爲メ必要ニ付、同園内同省所轄第六十六號及水路部西隣トモ凡合セテ五千四百九拾三坪貳合四勺ノ地ト交換ナシ度旨照會有レ之、其需メニ可レ應ト存候ヘ共、貴會ノ御異見承知致度、此段及ヒ御協議候也。

追テ學校建築ノ義モ極メテ差迫居候趣ニ付、至急何分ノ御答相成度、此段申添候也。

（理由）別紙照會ニ據リ起草ス。

——庶政要錄

五日

○明治廿三年（紀元二五五〇年）五月。**下谷**○市内下谷區。**綠町**○市内本所區。**兩公園ニ使用料ヲ新設ス。**○市會議錄議決及執行。

下谷綠町兩公園地料新設　市會議錄議決及執行ニ據ル。

明治廿三年五月六日受出

下谷綠町兩公園地料新設
公園地料新設
下谷綠町兩公園地料新設事蹟

知事

書記官

別紙公園使用料新設之儀ニ付稟請案、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　五月五日議決

議長

市參事會員

第三〇〇二號

第一類　公園使用料之儀ニ付稟請案

内務大臣
大藏大臣
宛

公園使用料新設之儀ニ付稟請

本市下谷區下谷公園及本所區綠町公園ハ本年四月ヨリ本市ノ所屬ト相成候ニ付、本市會ニ於テ右公園使用料別紙之通議決候ニ付、使用料新設之件許可ヲ乞フ。

内務省許第一二號

明治廿三年五月六日稟請第一八四號東京府東京市々會議決、下谷綠町公園地使用料ニ關スル件。

右市制第百二十二條ニ依リ之ヲ許可ス。

明治廿四年一月廿六日

内務大臣　伯爵　西鄕從道

市參事會
知事

帝都時代ノ遊園

東京市公園使用料額

一、下谷公園地使用料

一坪ニ付一ケ月金貳錢九毛　但許可ノ月ヨリ四ケ月間使用料額。

一坪ニ付一ケ月金貳錢三厘九毛　但右四ケ月以後使用料額。

一、綠町公園地使用料

一坪ニ付一ケ月金壹錢八毛

一坪ニ付一ケ月金壹錢三厘五毛　但許可ノ月ヨリ四ケ月間使用料。

一坪ニ付一ケ月金壹錢四厘五毛　但同上。

一坪ニ付一ケ月金壹錢五厘七毛　但右四ケ月以後使用料額。

右四ケ月前後ニ依リ使用料額ヲ異ニスルハ、從來下水井道路ノ修繕費等ヲ借地人ニ負擔セシ處、爾後該費ハ市ノ負擔ト爲スヘキ見込ニ付、四ケ月以後ハ使用料ヲ增加セントス、但綠町公園地使用料ノ內、其額ノ異ナルハ地位ノ等差アルニ由ル。　但同上。

十五日　○明治廿三年（紀元二五五〇年）五月。**湯島公園**　○市內本鄉區。ニ**龍岡町官林**　○市內本鄉區。ヲ**編入ス。**　○庶政要錄。

湯島公園龍岡町官林編入

湯島公園龍岡町官林編入　下記スル所ノ如シ。

明治廿三年五月十五日　受出

大藏大臣　伯爵　松方正義

湯島龍岡町三拾四番地及三拾六番地官林公園ヘ編入ノ件ヲ、市參事會ニ報告スルモノトス。

明治廿三年五月　日　受出　五月十五日報告濟

議長

市參事會員

第三七九號

第二類湯島龍岡町三拾四番地及三拾六番地官林湯島公園ヘ編入之件

湯島龍岡町三十四番地及三十六番地

一、面積千四百九拾三坪九合七勺

右ハ市區改正設計中公園豫定ノ場所ニ付、其筋ノ裁可ヲ得、今回湯島公園ヘ編入候條、別紙書類寫添及ニ引繼候也。

明治二十三年五月十五日

東京市參事會

東京府知事男爵高崎五六殿

庶務課長

知事

書記官

公園地使用規則一部改正

公園地使用規則一部改正事蹟

十七日　○明治廿三年（紀元二五五〇年）五月。**公園地使用規則ノ一部ヲ改正ス。**　○東京市會決議錄。公報。

公園地使用規則一部改正　ハ、

帝都時代ノ遊園

東京府知事　男爵　高崎五六

——庶政要錄

第十五號

東京市公園使用規則第十條改正ノ件

東京市規則第　號

第十條　使用ヲ許可シタル後ト雖モ、公園改良等必要アルトキハ六ケ月以前ニ之ヲ達シ返地ヲ命ス、此ノ場合ニ於テハ相當ノ手當金ヲ付與スルコトアルヘシ。

但建物取拂返地ノ手續ハ第九條ニ準スヘシ。

（參照）

東京市公園地使用規則

第十條　使用ヲ許可シタル後ト雖モ、公園改良等必要ノ場合アルトキハ六ケ月以前ニ之ヲ達シ、返地ヲ命スルコトアルヘシ。

但建物取拂及地所ヲ元形ニ復スルノ手續ハ總テ第九條ニ準スヘシ。

——東京市會決議錄

公報ハ之ヲ五月十七日ニ記載ス。

〔附記〕　永山邸ノ牡丹

元老院議官永山盛輝、麻布富士見町ノ邸ニ牡丹ノ新種ヲ栽培シテ名アリ、田中芳男之ガ解說ヲ記スルコト下記ノ如シ。

新種の牡丹

東京市麻布區富士見町四十四番地元老院議官永山盛輝君ノ邸ナル牡丹ハ其數頗多シト雖モ、其庭前ノ

花壇五個ニ植ユル所ハ凡壹百貳拾株餘アリ、中ニハ老大ノ樹モアレ𪜈、多クハ少壯ノモノニシテ、其品類ハ大抵種子ヲ蒔キ發生セシメタル新苗多ク、其花豐大艶美ナルコ尋常ノ種類ニ同カラス、且本年（○明治廿三年。）ノ開花ハ殊ニ壯觀ナルヲ以テ、今井兼角翁之ヲ鑒別シテ二十六種ヲ拔擢シ、永山ノ號ヲ冠セラレタリ、其中ニ就キ三色衣冠ノ號アルモノハ、樹ノ高サ凡一尺七八寸廣カリ、凡二尺四五寸ニシテ三個ノ花ヲ開キ、其直徑ハ各々一尺一寸以上アリ、白色ニシテ中心紅色ヲナシ、外瓣ニ深紫赤色ノ暈班ヲ散布セリ、是他ニ見サル所ノ新種ナルヲ以テ、今委ニ圖示ス、此圖（○略。）ハ余（○田中芳男。）カ本年四月二十八日目ヲ寫眞シタルモノヽ原版ヲ「アルト、タイプ」ナルモノニテ摸寫シタルモノナリ。

今井兼角氏ノ話。　該種ハ實生ト云ヒ、且ツ花瓣ノ班紋ヨリ云ヘハ、決シテ他ニ比類ナシト信ス、凡テ花瓣ニ班紋アルモノハ、中心ヨリ外邊ニ向テ流ルヽカ如ク顯ハルヽヲ常トスルニ、該種ハ紫色ノ班紋ヲ打附ケタルカ如ク顯ハスコ、宛モたかくまおもとノ白班ニ於ケルカ如シ。山茶花ニハ此ノ如キ狀ニ班紋ヲ顯ハセルモノアレ𪜈、岑藥其他菊抔ニモ決シテ此ノ如キモノアルヲ見聞セス、故ニ此種ハ實ニ一新種ナリト信ス、因テ過日永山議官ニ面會シ、本秋ハ一穗ヲ貰ヒ受ケテ接木ヲナサンコヲ請ヘリ、又議官ニモ接續シテ蕃殖シ、以テ該種ヲ斷絶セシムルコナカランコヲ勸告シタリ。

——日本園藝會雜誌（○明治廿三年。）

六月十三日　（○明治廿三年（紀元二五五〇年）。）早稻田大隈邸（○市内牛込區。）ノ庭園ヲ觀テ其記ヲ草スル者在リ。（○日本園藝會雜誌。）

帝都時代ノ遊園

早稻田大隈邸庭園事蹟

早稻田大隈邸庭園ハ天保嘉永間彥根藩井伊氏抱屋敷抱地ノ一部也、府內場末沿革圖書ニ「延寶年中ゟ〇中略。惣體牛込村下戸塚村早稻田村中里村關口村百姓地ニゐ右五人〇嘉永中ノ井伊掃部頭、時田左衞門、青木傳之丞、中村勝太郎、澁谷三右衞門ヲ指ス。之內、當時井伊掃部頭抱屋敷抱地ゟ天保五午年〇註略。同六未年〇註略。同七申年〇註略。同八酉年〇註略。同九戌年〇註略。同十亥年〇註略。同十三寅年〇註略。中右夫々抱屋敷抱地百姓地等度々ニ讓請〇註略。一圓同人抱屋敷抱地ニ相成候地所ニ有之」ト見ユル者ノ南西部一角ナル可シ。維新後一時高松藩松平氏別墅トナリ、次デ大隈重信ノ所有ニ歸ス。

大隈伯邸第陪覽の記　吉田進

明治廿三年六月十三日(金曜日)午前花房、田中、平野、小野、佐藤、池田、福羽、北原、諏訪の諸君東京牛込早稻田大隈伯爵の邸ゟ會し、尋て同十時頃より同伯の庭園を觀覽す、余も亦幸に此行ゟ加ハるの榮を得たり、顧ふに現今植物の好事家とあれハ、先つ指を同伯ゟ屈せざる可からず、又其能く蒐集ある都下の橐駝師と雖も、同伯ゟ及ふもの或ハ之れなからん、且つ近來は又邸內新に洋式の溫室を設けられたるあり。

抑も同伯の邸地面積は凡そ壹萬坪にして、初め表門を入るや、右方に當り栗杭杉板を以て作れる第二の門あり、是れより內ゟ入れハ初め步段ゟ敷石あり、右方にハ池沼丘岡あり、稍前めハ左方に石の一大水鉢あり、凡そ五斗を入るべし、傍に「サルスベリ」「ナツツバキ」を植へ、前面ゟ牡丹十數株を植ゆ、稍前みて小徑を經れハ一松樹の蟠延するあり、上ぼりて左りゟ老杉三本あり、枝柯蔓其下に大理石の一大卓あり、爰ゟ小憩すれは一陣の凉風六月寒きを覺ゆ、上ること僅に數步、左傍ゟ佛像あり、天下泰平云々の字を刻す、稍々上りて一小亭あり、前面ゟ「バラ」を植へ其枝柯蔓延し以て天日を蔽ふ、中ゟ西洋形木製の腰掛四五脚あり、相連結す、其れより稍々上り、左折すれハ皆樹木の植込ゟして路上砂石を布く、右方の元と一溝渠たりし所に「ハナシヤウブ」を植ゆ、中頃にして一個の「フデ」棚あり、之を經稍々上りて又一小亭あり、構造極めて妙美なり、亭の背面に「リヽオデンドロン」及ひ「タツチヤ」あり。それより稍々下るに路傍の左方に「イワギク」あり、稍々前みて平地の庭園あり、自ら一域をなせり、滿場細砂を敷き蘆簾垂を以て日光を掩ふ、左右に二列の盆栽あり、支那燒の類は新古の別なく各所ゟ散在せるあり、同伯の好事支那の花盎ゟまて及ほされたるを知る、右方ゟ鉢及園藝用器具を配置する建家一軒あり、それより進めバ溫室あり、左方ハ即ち前記二列の盆栽を陳列する所なり、即ち初め入るや「シユロチク」の大なるもの二鉢あり、共に老古なり、又其前ゟ老松の大ゟ意匠を附けたるもの一鉢、此傍ゟ松を主とし「セキコク」抔を雜植したる鉢物一個あり、此左傍ゟ一池あり、魚飛躍せり。

盆栽に至りてハ二行をなせる右方の一列ゟ、「ギヨリユウ」「チヤラン」「ウシコロシ」「カラデオム」「ソテツ」及ひ外國種の「シカス」、「ラフバイ」の實を着けたるもの、茶の斑入り物、「スクモ」にて石に擬し上に竹を植へたるもの、「パピロス」等あり、又左方の一列中にハ「エゴノキ」あり、又進みて右方の別に一列をなせる所ゟハ、「アマラント」、「シ子ラリア」、「ベゴニア」、「リユウキユウジンコ」、「アカウ」「マングースタン」、「コフヰー」、「ドラセナ」等あり、我國に於て植物を愛觀するものハ、盆栽とて樹の老古若くハ形の奇異なるものを第一となし、花卉の嗜好ハ之ゟ次き、葉を以て觀賞するものゟ至りハ一層冷淡ゟして、僅に紅葉の一種位あるも、此は寧ろ半凋のものを觀賞するものにして、且つ一株毎に觀賞するに於てハ左程妍美ゟあらす、之ゟ反して此の如き美葉植物を播延すれバ、園藝上定めて一の妙趣

を添へん、又總て此等植物ハ清爽快麗、何れも皆平素用意の忘りなきを徴するゟ足る、加ふるに田中君の言に明治十年頃ゟ一見したるものゝ、今猶依然として存するありと云へハ、保持の方法も亦忘りなきを知るに足る、尤も舶來即洋種の者ゟ至りてハ、近年の蒐集ゟ係るもの多きが如しと、其れより左方ゟハ「キク」及「アサガホ」の花壇あり、之を隔てゝ左方に又一亭あり、前面は稍々小高くして燒物ゟて作りたる橋の欄干ゟ擬したるものあり、又此等「キク」及「アサガホ」を植へある所ハ、等しく燒物にて作り竹ゟ擬したる片々を花壇の邊緣ゟ配置せり、此邊ゟ「フウセンカツラ」、「タマノキ」等の鉢植あり、又此花壇の後ゟ「ヤマモヽ」あり、「ソケイ」の大なるものあり、又「バラ」の種類あり、又傍らの一小屋内にハ「フリーシヤ」あり。

溫室の入り口ゟハ香港邊より齎らしたる粉碎の砂石を詰たる樽二個あり、是れ正しく盆栽の飾りゟ供するものなるべし、頃之くあつて「タニワタリ」、「アンジヤベル」あり、而して漸く前記洋式の溫室の位地に達せり、溫室ハ縱凡そ十六間、横凡そ四間にして、天及日に向ふ所ハ皆硝子を以て張り、屋根の端は亞鉛を以てし、北方の入口にハ火燒場即ち竈の設けあり、聞く此の室ハ原質ハ概ね亞米利加製に係り、其價凡我四百圓ゟ當とる、溫室内の中央ゟハ木製ゟて土を盛りたる棚様の大箱あり、又左右ゟも之と等しき木製の箱あり、此木製箱の下にハ鐵管四個を配置す、左の方ゟハ「クレロデンドロン」を植ゆるあり、又「グロクシニア」あり、又「アビユチロン、メソポタニクーム」又「セウゼウボク」又「ヒカリシダ」及び其他羊齒類あり、又溫室内の一極端にハ二個の貯水所を設け、傍に洋式の手用喞筒及洗筆等を備へ置けり、此喞筒ハ金屬製にして一口を備ふるものを用うれハ細かに水を吹かしめ、又螺旋を解きて中より一小器を取出し、之を前者に加ふれば、太く水を吹かしむるゟ便なるの造構あり、又室内には固とより寒暖計の備へもありたり。

此等の場所を去り、再び前記の佛像ある傍より左折し下れハ一池邊ゟ出て、鶴の置物二個、及び其上ゟ塔形の石燈籠、及ひ他の石燈籠を望見す、此邊ハ徑路を除の外左右一面に「シバ」を布けり、稍々上りて又右折すれは「ツヽチ」、「ビヤウナギ」等あり、少しくして一丘岡あり、上に獅子の兒を有する石粧飾物二個あり、傍ゟ「カウヤマキ」を植ゆ、其れより下りて池沼を徘徊し、前の石鉢ある所より進み本家に去る。

家屋内にハ一の「ツイタテ」あり、巨大なる硝子を以て蔽ひ、中に孔雀及花卉の縫取物あり、七十四翁高福との銘あり、又室を異にせる床の間には金屬製の海老あり、手足の屈伸功妙を極む。

諸君の席に就くや、種々談話あり時を移す、是より先き福羽君手製の「ブーケー」を伯爵に呈せるあり、依て又之に關し說話ありたり、此「ブーケー」なるものは我國に於ては近來始めて歐米の文化と共に誘入したれども、歐洲に於ては今を距ること凡千九百二三十年前、既に有名なる羅甸詩人「オラース」氏「ブーケー」を作くりて、「グリセール」に贈りたりとの事を載する書あり、以て其來るや甚た古きを知るべし、當日は伯の高話數多ありしが、中ゟ就き日本綿の印度孟買綿と競し、果して勝を製すると能はさるものとせハ、寧ろ輸入稅を廢して可ならんか、大農地論ハ水利上の關係よりして事輒ち行ハれ易からす、近頃山林制度の行ハるゝより火災を生するとはなかるべきも、他ゟ不便の點ハなきか、（中略）

兎も角我國の急務は成べく産出物の饒多を致し、民の衣食をして充足ならしめんとを望むのみ抔の事柄

芝公園内建物賣却
芝公園内建物賣却事蹟

に至りてハ、伯仙境に隠ると雖も、花月を弄吟し一身を保養するを以て快と爲さゝる者の如く、身病床に在りながら其言ふ所概ね斯の如し、余は終始謹聽只敬服に堪へさりしなり、尋て又伯より日本の盆栽なるものハ美術中に屬すべき者なるやの問ありしに、坐中某君正其然るべきを答ふ、時に午後三時頃、各々歡を盡して解散す、依て之か記を作る。

——日本園藝會雜誌（○明治廿三年。）

七月廿七日（○明治廿三年（紀元二五五〇年）。）芝公園内（○市内芝區。）ノ建物ヲ賣却ス。（○庶政要錄。）

芝公園内建物賣却ハヽ、

明治廿三年七月廿六日出受

庶務課長

知事

書記官

芝公園建物賣却之件、府知事ノ指令ハ市參事會ニ報告スルモノトス。

議長

市參事會員

第三拾號議案芝公園内建物賣却ノ件、議決ノ通許可ス。

明治廿三年七月二十七日

東京市參事會

東京府知事　侯爵　蜂須賀茂韶

明治廿三年七月十九日出受

庶務課長

知事

書記官

芝公園建物賣却ニ付、府知事ノ許可ヲ請フ件ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　七月廿三日議決

議長

市參事會員

第五二八六號

第壹類市財産賣却ニ付府知事ニ許可ヲ請フ議案

東京市參事會

東京府知事宛

本市會ニ於テ市制第三十壹條ニ依リ、芝公園内建物賣却之件、別紙之通リ議決ニ付、許可ヲ請フ。

（說明）市制第百二十三條ニ依リ許可ヲ受クルモノトス。

明治廿三年七月三日出受

庶務課長

知事

議事課長

書記官

芝公園内建物賣却之件ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　月　日議決

議長

市參事會員

帝都時代ノ遊園

第一類芝公園内家屋賣却ノ件ハ、市會ニ付スルモノトス。

第　號

芝公園内家屋賣却ノ件

芝公園内第六十六號ニアル建物百四十三坪貳合六勺ハ海軍省ヨリ引繼ヲ了セリ、然ルニ該建物ハ公園ニ必要ナキニヨリ、凡金三千五百圓ヲ目途トシ、置据ノ儘賣却セントス。

年　月　日提出

東京府知事

（説明）

海軍省ヨリ引受クル建物ハ、別ニ公園ニ風致ヲ添ル程ノモノニモ無之、外國人等ノ居住ニハ適スヘキモ、他ニ需用者ハ少ナカランカト思惟ス、且空シク明家トナシ置キ、之レカ修繕費ヲ支出スル如キハ得策ニ之レナク、依テ公ノ入札ニ付シ之ヲ賣却セントス。

芝公園内建物賣却參考書

一、家屋建坪百四十三坪貳合六勺。

代金三千二百七十三圓九十五錢。

内

瓦葺二階家西洋造五十二坪三合二勺。

代金二千三百五十五圓七十五錢。

但壹坪金四十五圓。

同タ、キ廊下六坪六合六勺。

代金百三十三圓貳拾錢。

但壹坪金二十圓。

同附屬平家十七坪五合。

代金百二十二圓五十錢。但壹坪金七圓。

瓦葺平家西洋造十二坪五合。

代金三百十二圓五十錢。

但壹坪金二十五圓。

同平家十八坪五合。

代金百四拾八圓。

但壹坪金八圓。

同平家厩拾八坪。

代金百八圓。

但壹坪金六圓。

同平家門番所八坪七合五勺。

代金五十二圓五十錢。

但壹坪金六圓。

帝都時代ノ遊園

同平家物置七坪。
代金三十壹圓五十錢。
但壹坪金四圓五十錢。
鐵板葺竈場二坪。
代金六圓。但壹坪金三圓。
芥溜二坪。
代金四圓。但壹坪金二圓。
一、構內外門庭石樹木等
代金百九十壹圓十二錢五厘。
內
表門西洋形　壹ヶ所。
此見積金拾圓。
冠木門　壹ヶ所。
同　金三圓。
源氏塀　貳拾貳間。
同　金十壹圓。
坂塀　貳十間。
壹間金五十錢。

同　金八圓。
建仁寺壇　貳拾貳間半。
同　金七圓八十七錢五厘。
同　片面　三間。
同　金四十五錢。
杉壇　二十八間半。
同　金八圓五十五錢。
朝鮮矢來　八十七間。
同　金十三圓五錢。
石燈籠　壹基。
同　金八圓。
庭石　十九個。
同　金十壹圓四十錢。
同　中小　九十八個。
同　金九圓八十五錢。
庭樹　百本。
同　金百圓。

同　金四十錢。
同　金三十五錢。
同　金十五錢。
同　金三十錢。
同　金十五錢。

壹個平均金六十錢。
同　金十錢。
壹本平均金壹圓。

合計金三千四百六十五圓七錢五厘。

明治廿三年九月廿二日出受

知事

書記官

芝公園第六拾六號建物拂下代金處分案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治廿三年九月十五日出受

知事

書記官

矢島作郎芝公園建物拂下名義換願ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　九月十七日議決

議長

市參事會員

第七〇五五號

第貳類芝公園建物拂下人名義換願指令議案

東京市指令第　號

明治二十二年九月十三日付芝公園第六十六號建物拂下名義換願ノ件聞届。

庶務課長

會計課長

庶務課長

會計課長

麻布區三河臺町廿八番地

矢島作郎代人

笠井直吉

（說明）

芝公園第六十六號建物拂下人笠井庄兵衞ヨリ矢島作郎ヘ讓渡タルニヨリ名義換出願候義、別段不都合無之ニ付許可スルモノトス。○建物拂下名義書換願ハ略。

明治廿三年八月廿一日出受

知事

書記官

笠井庄兵衞建物拂下願指令議案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　九月八日議決

議長

市參事會員

第六七二三號

第貳類芝公園建物拂下願指令議案

東京市指令第　號

明治廿三年八月十五日付、芝公園第六十六號建物及附屬品共、金三千五拾五圓ヲ以拂下願ノ件聞届。

東京市參事會

東京府知事

庶務課長

東京市參事會

東京府知事

麻布區飯倉町二丁目十六番地

笠井庄兵衞

（説明）

入札代價十分ノ一納付濟ニ付指令スルモノトス。

建物拂下御願

芝公園第六拾六號

一、瓦葺二階家西洋造五拾壹坪壹合壹勺。
一、同タヽキ廊下六坪六合六勺。
一、同付屬平家拾六坪五合五勺。
一、同西洋造拾三坪五合。
一、同平家拾八坪五合。
一、同平家厩拾八坪。
一、同平家門番所八坪七合五勺。
一、同平家物置七坪。
一、同鐵板葺竈場貳坪。
一、芥溜貳坪。
一、西洋形門壹ヶ處。
一、冠木門壹ヶ處。
一、源氏塀廿貳間。

一、板塀貳拾間。
一、建仁寺垣廿貳間半。
一、同片面三間。
一、杉垣貳拾八間半。
一、朝鮮矢來八拾七間。
一、石燈籠貳基。
一、井戸貳處。
一、庭石百拾七個。

周圍植込ノ樫木及山上椋榎一本ヲ除ク外庭木壹式、

合金參千〇五拾五圓也。

右之建物幷付屬品共今般御拂下ケ相成候ニ付、前書之代價ヲ以テ入札致候處、落札ノ主旨御達ノ趣承知致候、就テハ豫テ御示シ相成候代價上納期限、幷ニ入札心得書ノ條件都テ遵守可ニ致ス一候、且都合ニ依リ該建物他人ニ賣渡シ、又ハ讓渡候時、買受人讓受人ニ於テ入札心得書ノ條件繼續履行可レ致旨契約取結、双方連署ヲ以テ御認可ヲ受ケ可レ申候、若シ違背致シ候節ハ其賣却讓與ハ無効ノモノトシ、拂下御取消相成、代價十分ノ一ヲ違約償金トシテ上納可レ致候、此段御受申上候也。

明治廿三年八月十九日

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

東京麻布區飯倉貳丁目十六番地
笠井庄兵衞

帝都時代ノ遊園

明治廿三年八月十五日出受

知事

書記官

芝公園建物落札人ヲ定ムル議案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　八月十六日議決

議長

市參事會員

第五八六一號

第貳類芝公園建物入札人ヲ定ムル議案

一、金三千五拾五圓

○朱書。但原積ヨリ金四百四拾五圓減。

（說明）

芝公園第六十六號建物入札ニ付セシニ、入札人壹名ニシテ前書ノ金額ニ有之、右等望人ノ寡少ナルハ必竟本邦人ノ住居ニ適セサルカ故ナランカト思惟ス、而シテ之レヲ再入札ニ付スルモ、此景況ヲ以テ推測スルニ、到底好結果ヲ得ルノ見込無之、依テ本ノ札人ヘ落札ヲ命スルモノトス。○入札書略。

明治廿三年七月廿五日出受

庶務課長

入札人　笠井庄兵衛

知事

書記官

芝公園建物入札拂之件ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　月　日議決

議長

市參事會員

第五五七一號

第貳類芝公園內第六十六號建物入札拂ヒ施行議案

廣告

芝公園第六拾六號

一、瓦葺二階家西洋造、同附屬平家共九棟、此合坪百四拾五坪七合三勺。

外ニ門井戶障塀墻木石共置据ノ儘ヽ

此入札保證金三百五拾圓。

代金納付期限九月十五日皆納。

右建物附屬物品共入札ヲ以拂下候條、望之者ハ入札心得書及現場熟覽之上本月十五日午前第九時マテニ當廳庶務課ヘ入札差出スヘシ、開札ハ正午十二時トス。

但入札心得書ハ當廳庶務課及芝區役所ヘ出頭、一覽スヘシ。

帝都時代ノ遊園

庶務課長

會計課長

廣告スヘキ各新聞ハ左ノ如シ。

公報、時事新報、日日新聞、毎日新聞、報知新聞、讀賣新聞、各三日ツヽ掲載。

右ニ付芝區長ヘ照會

東京市參事會

書記官

芝區長宛

芝公園第六十六號建物今回入札ニ付シ候ニ付、別紙廣告書幷入札心得書及送付候條、廣告ハ區内適宜ノ個所ニ掲示シ、入札心得書ハ一覽申出候者ヘ御示相成度、此段及照會候也。

（説明）芝公園内建物賣却之件府知事ノ裁可ヲ得タルニヨリ、入札拂ニ付スルモノトシ、本案及別紙入札心得書ヲ起草ス。

入札心得書

第一條　芝公園第六十六號地内建物拂下ノ入札ヲナシ得ヘキモノハ、公園ニ係ル規則及此心得書ヲ遵守スルモノニ限ル。

第二條　入札ハ最高價ノ者ニ落札ヲ命スルモノトス。

但、第十一條第二項及第十二條第二項前段ノ場合ニ於テハ、順次々札ノ者ヘ落札ヲ命スルコトアルヘシ。

入札ノ價格當廳ノ見込ニ適セサルトキハ、落札ヲ命セサルコトアルヘシ。

第三條　高價ノ入札同價ナルモノアルトキハ、其者ニ再入札セシメ落札ヲ定ムヘシ。

第四條　入札ハ廣告ノ時刻ニ於テスヘシ、其時限ヲ過キタル者ハ一切領受セサルモノトス。

第五條　入札ハ甲號雛形○略○ニ倣ヒ、建物其他ノ代金ヲ一紙ニ認メ、糊封シテ差出スヘシ。

第六條　入札ハ建物坪數其他金高等明瞭ニ記載スヘシ、金高ヲ定メスシテ單ニ高札ノ上ニ何割ヲ增スヘシト記シタル者ノ如キハ無効トス。

第七條　入札ハ建物ノ全部及付屬品等ノ總高ヲ以之ヲ定ム、壹坪當等ヲ以テ入札セルモノハ無効トス。

第八條　入札ハ入札保證金ヲ納ムルニアラサレハ入札ヲ許サス。

第九條　入札保證金ハ現金ニ限ルモノトス。

第十條　入札保證金ハ當廳會計課ヘ納メ、同課ヨリ願書ヲ受取入札場ヘ持參スヘシ。

第十一條　落札ヲ命セラレタル者ハ、即日乙號雛形○略○ニ倣ヒ受書ヲ差出スヘシ。

若シ未タ受書ヲ差出サヽル以前ニ在テ其入札ノ取消ヲ請フ者、又ハ其入札事件ニ付當廳ノ召喚ニ應セサルモノハ其落札申渡ヲ取消シ、保證金ヲ以違約損害ノ償金ニ充テ、之ヲ返付セサルヘシ、但此場合ニ於テハ保證金ノ預證ハ無効トス。

第十二條　落札受書ヲ差出タル者ハ其翌日午前第十時マテニ代金十分ノ一ヲ相納メ、其餘ハ九月十五日マテニ皆納スヘシ。

若シ代金十分ノ一ヲ納付セサルトキハ、入札保證金ヲ以テ違約損害ノ償金ニ充テ、又納期内ニ代金ヲ皆納セサルトキハ、其落札申渡ヲ取消シ、且代金十分ノ一ヲ以違約損害ノ償金ニ充ツヘシ。

第十三條　入札保證金ハ落札人決定シ、第十二條ニ掲クル代金十分ノ一ヲ納メタル上ニテ、各入札人ニ下戻スヘキモノトス。

帝都時代ノ遊園

第十四條　開札後ニ至リ入札面ニ記載シタル坪數、或ハ金高等ニ書換又ハ違算アル旨ヲ以更ニ申出ルモ一切採用セサルヘシ。

第十五條　建物ハ置据ノ儘拂下ルヲ以、同所ノ地所千八百三十二坪九合三勺ハ一ケ月壹坪金壹錢貳厘（本年十月ヨリ一ケ月壹坪金壹錢五厘）ノ割ヲ以貸下クルモノトス。

第十六條　落札人第十二條ニ定メタル代金ヲ皆納シタル片ハ、建物其他ヲ引渡スヘシ、此場合ニ於テ落札人ハ、公園規則ニ據リ地所使用願ヲ差出スヘシ。

——庶政要錄

〔參考〕

第五十三號

公債證書購求方ノ件

芝公園内第六十六號ニ在ル建物賣却代金三千五百圓ヲ以テ、公ケノ入札ニ付セス、整理公債證書ヲ購求セントス。

——東京市會決議錄

〔附記、一〕　グラヂヲラスノ流布

グラヂヲラス俗ニ唐菖蒲ト稱ス、花葉共ニ我ガ菖蒲ニ似タルヲ以テ也、明治初年ノ輸入ニ係ルコト、遊園篇第四ニ錄スル所ノ如シ、斯花始メ札幌ニ栽培セラレ、明治廿三年頃ヨリ弘ク東京及ヒ關西ニ流布スト云フ。

○ グラジオロース Gladiolus

上嶋正氏ハ信州諏訪郡湖南村の人にして幼より植物を好み、嘗て東京に在りて園藝業を習得せしが、先年北海道に行きて札幌に移住し、當時札幌篠路通に東皐園と云ふを設けて、專ら花卉栽培に從事せる由。近年札幌邊に「グラジオロース」なるもの頗ぶる流行し、同氏ハ年來之が栽培を爲せるが、本年秋よりは博く其種子を發賣する積りの由にて、頃日此の花につきて報ぜられたるハ次の如し。「グラジオロース」札幌にて西洋花菖蒲と稱す、元來此植物ハ亞弗利加（アフリカ）洲の南部なる喜望峯の邊に多く產するものなるが、嘗て佛國に之を移植し、漸次改良して今日の如き美花を出すに至れりと云ふ。西洋にて此の花を作るにハ三月頃ろ鉢或ハ箱の類に種子を蒔き、發生後稠密なるハ適宜に拔捨てゝ、鉢或ハ箱の儘翌年まで置けば、二年目にハ半分位ハ開花するなり。而して二年目の秋降霜前に掘取り、其根を能く乾して袋に入れ、室内或ハ藏の中に貯置き、翌年霜の患なきに至れるころ、少しく木蔭となる地を撰んで、小球は五寸位の距離、大球は一尺位の距離に植並べ、二寸五分位の深サに土を掛け置く。（乾燥地なれば三寸五分乃至四寸位の深サとす。）尤も土地ハ腐植土或ハ池のゴミ土の類を可とす。又鉢植にするにハ六寸鉢位には大球なれば一個、小球なれバ三個乃至五個を植付く。鉢の植土ハ前年拵へ置きたる肥土を用ふ。鉢植の植換ハ秋の降霜前に鉢より拔取り、更に肥土にて適宜に植ゑ、霜のかゝらぬ場所に置き、翌春四月頃ろ降霜なきに至り日向に出すなり。又冬間球根を寒氣に當て貯置きたるものハ、花も又追々に長く咲くものなり。以上ハ西洋にて行ふ法なるが、是れより余が札幌にて實驗する所の栽培法を述んに、播種ハ冬中若くハ三四月ころ何れの時に行ふもよろし、即ち之を播種するに

ハ畑を少しく盛上げて是に代を作り、其上に五寸位づゝを隔てゝ一寸二三分のサクを切り種を下し、一寸二三分の深サに細土を掛け置けバ、札幌にてハ五月末より六月頃ろ發生す。斯て其發生まだたるものハ、翌年降霜前まで其儘に置き、降霜前に至り掘出し、乾地に深一尺五寸許の穴を掘り埋め置く、此時一尺位葦を存して埋むべし、球に接して悉く葦を切り去るハ悪し、而して右の球よりハ又多くの小球を生ずるものなり、此小球も二年目にハ開花す。但し此小球より發生したるものゝ開花は親木と同様なれども、種子を以て蕃殖したるものゝ開花ハ、千本は必らず千色となるものなり。又古球を植るときハ球の下に更に古球の附着せるものなるか、此の最古球は取捨て植るを可とす。而して植地の肥料は可成前年の秋ごろ澤山に施し置くなり、植付後直接に植物の上に施肥するハ悪し。又植鉢ハ未だ降霜前に肥土を以て鉢に植込むなり。以上は極上花の仕立方にして、下等の花を作るにハ斯る手入れを要せず。扨て札幌にて此植物の開花期は七月下旬頃より九月下旬頃に至る、最も盛時ハ八月二十日頃とす。又實生のものハ七月下旬より降霜まで追々に開花す。又當地にてハ成長遅れたるものハ、蕾の儘にて霜にかゝると多けれども、暖地にては追々に殘す開花すべければ、花時尚ほ甚だ長かる可し。又此植物ハ丈け三尺より四尺位に達す、切花にして瓶中に挟み置けば十五日間を保つ。其花色ハ濃紅、濃朱、濃紫、中紅、中朱、淡紅、淡朱、絞り、白、藤色、緋其他數十種にして、實生ハ百種百色に變じ、其艶麗なると言ふ可からず。此種子本年十月頃より上花の分數種發賣せんと欲す。○下略。

○ Gladiolus に就て本誌前號に上嶋正君の報に係る同植物の事を記載せしが、此植物ハ歐洲に於て通例 Cape Lily（亞弗利加洲喜望峰の原産なるを以て）の名を以て呼ばれ、其種類ハ前號にもある如く、容易に媒助法を以て殖さるゝが故に、今ハ無數なる程なりと云ふ。近年此植物ハ東京の植木屋等にも多く培養すれども、其種類も少なく、且優種を見ざるが如し。東京にてハ此植物の名を金魚草と呼べり。是ハ其花狀の金魚に似るが故なりと云ふ。

（農業雜誌 ○明治二十三年○）

田代安定

唐菖蒲ノ新變種（札幌東皐園主人實生）

學名 Gladiolus Gandavensis, var.

近來市間ニ唐菖蒲ト唱ヘ販賣スル一種ノ美花アリ、日本ニハ既ニ古ク舶來セシモノニシテ、各地方ニテ往々之ヲ栽培シ來リシモ、其變種ハ極テ稀少ニシテ、數年前マテハ僅ニ赤褐色花一品ト、純紅色花一品トニ過キザリシハ、正ニ記臆スル所ナリ、近年ニ至リテ年々歐洲ヨリ各變種ヲ齎來シ、漸ク品類ノ增加スルヲ認ムト雖トモ、其品種ニ限アリテ佳品至テ稀ナリシナリ、故ニ此花ヲ能ク知ラサル人尚ホ世間ニ尠カラス。

然ルニ近年ニ至リテ俄カニ其品種ヲ增シ、殊ニ東京市中ニ其切花ヲ諸近村ヨリ多ク擔キ出シ、各花鋪ニ普ク之ヲ販賣スルアルハ、其因緣ナクンハアラス、亦京坂方ニテモ東京ト同ク、唐菖蒲ナル名稱ノ新美花何處ヨリ出テシトナリ、偶然ニ市鋪間ニ顯ハレ來リテ、夏月間各家ノ挿花中ニ多ク見受クルニ至リシハ、同ク之カ因緣ナクンハアラス、然ラスンハ是マテ唐菖蒲ナル名稱ダモ人ニ知ラレザリシ草花カ、如何ニ花戸ノ丹精ニ因ルト雖トモ、斯ク急突ニ殖ヘ來ル譯合ナシ、是抑々如何ナル譯合ゾ、蓋シ知ル、北海道札幌區ニテ花菖蒲屋敷ヲ以テ著名ナル東皐園主人上島正氏ノ手ヨリ出シモノ、尤モ之帝都時代ノ遊園

カ見易キノ元因タルヲ。

上島翁ハ多年札幌ニ在住シ、爲ノ人恬靜淡泊、能ク養花ノ術ニ熟ス、常ニ牡丹・百合其他各種ノ草花ヲ京坂地方ヨリ輸致シテ之ヲ實生シ、新花ヲ出スヲ無上ノ樂ミトスルモノヽ如シ、就中花菖蒲ノ實生ニ熟心シ、種々ノ珍花ヲ出スニ名アリ、予モ其花候同園ニ遊ヒ之ヲ實驗スルニ、其研精不倦ノ狀眞ニ驚クニ餘アリ、亦佳變種尠カラス、今本題ニ入リテ此唐菖蒲實生ノ來歷ヲ略叙セン、此東皐園主人カ唐菖蒲ノ栽培ニ從事セシハ、往年開拓使官園建設中、當時ノ御雇外國人ニ知遇ヲ得テ、僅々唐菖蒲根三塊而モ最劣惡ナルヲ辛フシテ手ニ入レ、花粉媒助法ノ傳授ヲ得テ、其三株ノ開花シタルモノニ施シ、其種子ヲ採テ蒔付ケシニ、能ク萠生シテ期年ニ至リ（凡ソ三年ノ後）花ヲ着クルモノヽ中ニ、種々ノ珍花ヲ生セリ、之ニ新名ヲ下シ（純ヲ源語ヨリ採リシト云）其品位ノ優劣ヲ比較シテ自ラ點數ヲ附シ、百點已上ヲ上等品トシ、九十點以下ヲ中ノ上ト爲シ、四五十點已下ヲ並等品ニ屬シ、僅々タル三株ノ唐菖蒲ヨリ數百品ノ新花ヲ得タレハ、愈々媒助法ノ必要ヲ感シ、其實蒔キヲ無上ノ樂ミトシ、此數百品ノ中ニテ更ニ種子ヲ撰採シテ、復タ新花ヲ生セシメ、年々斯ノ如ク種類ノ繁殖法ニ熱心ヲ積ムモノ玆ニ十餘年ヲ經フルノ後チ、數千品ノ新花ヲ得ルニ至レリ、翁ハ單ニ之カ栽培ニ意匠ヲ凝ラスノミナラス、其各變種ヲ親ラ寫生シテ、便チ唐菖蒲花譜ヲ製シ、既ニ數幅ヲ藏メリ、其丹精眞ニ驚クニ餘アリ、最初ハ之ヲ自園ニ栽培シテ、花候ニ至リ猶他ノ花菖蒲・牽牛花等ニ於ケルカコトク、諸人ノ觀覽ニ供スルニ止マリシカ、一昨年頃ヨリ徐々之ヲ東京及ヒ關西地方ニ輸送シテ、或ハ牡丹等ト交換シ、或ハ望ミノ人々ニ販賣シ、爲ニ同各地ニ唐菖蒲ノ新變種俄ニ增殖シ來ルノ一因ヲ爲スニ至レリ、殊ニ

近來大森・蒲田ノ邊ヨリ此切花ヲ出スモノ、亦東皐園主人ノ手ヨリ出シ新變種最モ多キニ居レリ。

抑々此唐菖蒲ハ植物學上ニテハ鳶尾（イチハツ）科ニ屬シ、即チ花菖蒲等ト同科目ノ珠根草ナリ、邦俗之ヲ唐菖蒲ト唱フルハ、蓋シ其葉狀ノ稍花菖蒲ニ類似セルニ因ルナラン、然トモ科目ヲ同フスルノミニテ、其種屬ハ全ク殊別ノ地位ニ居ル本邦植物中一モ是ニ對比スヘキモノナシ。

唐菖蒲ハ元ト亞弗利加ノ野草ニシテ、熱帶植物中ニ屬シ、或ハ喜望峯邊ニモ產シ、亦地中海近傍ニモアリトノ說アリ、此珠根野草ノ一タヒ歐洲園藝家ノ手ニ入リシヨリ、其葉狀花形自ラ一種ノ雅觀ヲ具フルヲ以テ、各家競フテ之カ栽培ニ注意ヲ凝ラシ、遂ニ能ク寒地ニテモ猶十分ニ其育殖性ヲ馴致セシムルニ至レリ、且各家ニ於テ其實蒔ヨリ種々ノ變色花ヲ出シ、今ヤ殆ト數フ可ラサルノ品種ト爲リ、歐米各地ノ園藝雜誌及ヒ種子物屋目錄中、此名ノ散見セサルハナシ、殊ニ養花術ヲ以テ世界ニ有名ナル白耳義（ベルギー）國「ガント」府ニ於テ盛ニ之カ新花ヲ出シ、唐菖蒲栽培ノ恰モ覇權ヲ有シ來ル趣ヲ爲セリ、初メ其亞弗利加育チノ凡庸野草ヲ移植シテ多年ノ意匠ヲ費シ、遂ニ諸他ノ同科目植物ヲ凌駕スルニ至ル程ノ美花ヲ出セシ故ヲ以テ、現今一般ニ栽培セル唐菖蒲ニ對シ、「グラヂヲルュス、ガンダウェンシス」ナル羅甸名ヲ以テスルニ至レリ、即チ「ガント」府「ガラヂヲルュス」ノ義ナリ、「グラヂヲルュス」トハ利劒ヲ意味スル羅甸語ニシテ、其葉狀ニ因リテ此植物ノ屬名ト爲セシモノタルヲ知ル、是宛モ劒葉草ト云フニ等シ、故ニ告ク、唐菖蒲ノ洋名ハ即チ「グラヂヲルュス」ニシテ、今日世界一般此名ノ下ニ知ラルヽ植物タルコトヲ、我カ園藝諸家モ普ク記臆セスンハアル可ラス、「フランス」語ニテハ「グライヨール」ト云、此名亦廣ク世ニ知ラル。

「グラデヲルュス」即チ唐菖蒲ノ花ハ、歪形鐮狀ヲ以テ一般ノ常徴トシ、規則正シク六裂シテ其規ヲ紊サヽルガ此花ノ本質タリ、歐米諸國幾千百ノ變種中、著シク花形ノ異ナルモノハ猶ホ極テ稀ナル所ニシテ、其所謂變種ナルモノハ純ラ色彩ノ變異ヲ主トシ、瓣形ニ於テハ概シテ千篇一律ノ文章ニ於ケルト猶ホ等シキナリ、予ヤ彼地ノ現狀如何ハ知ラスト雖トモ、其新變種トシテ各雜誌及ヒ種子屋目錄等ニ顯ハルヽモノニ就テ推スモ、亦爾ルヲ覺ユルナリ、然ルニ札幌東皐園主人ノ實生ヨリ出ルモノヽ中ニハ、花ノ色彩ヨリモ寧ロ瓣形ノ變異ヲ以テ見ルヘキモノ多キニ居レリ、是自ラ多少ノ因由ナクンハアラス、予カ見テ尤モ奇ヲ感スルモノハ、瓣蔟著シク開裂シテ、稍花菖蒲ノ花形ニ近似シツヽ、一種特別ノ形態ヲ有シ、若シ更ニ數回花紛媒助ノ操作ヲ經ナバ、猶一層ノ變形ヲ來スヘキ徵候ヲ具スルモノアリ、或ハ瓣尖長ニシテ剪截セルカ如ク深ク切レ込ミ、宛モ燕尾狀ヲ爲スモノアリ、其他殊態枚擧スルニ遑アラス、復タ瓣皺著シク巨大ニシテ、普通唐菖蒲花ノ太サニ數倍スルモノアリ、若クハ瓣ノ開裂極テ微少ニシテ猪口狀ヲ爲シ、至テ小形ナルモノアリ、同園ノ諸變種ハ未タ廣ク園藝家間ノ品評ニ上ラサルヲ以テ、正則的園藝諸家ノ眼界ニ觸レシメテ、眞正ナル品評ヲ下サシメハ、果テ其如何ヲ知ラス、此處ニ所謂正則的トハ、唐菖蒲栽培ノ主府即白耳義國ガント府及ヒ佛國巴里其他ノ本場ニ於ケル審査ヲ云フナリ、但タ予輩ノ凡眼ヲ以テ之ヲ見ルトキハ、一種ノ奇觀ヲ具シ、且其形態モ概シテ陋ナラスシテ、彼ノ規則正シキ唐菖蒲ヨリシテ、能クモ斯ル變態花ノ出テシモノナリト驚歎スルト共ニ、上島翁ノ丹精ヲ贊賞スルノ外ナシ。

東皐園唐菖蒲ノ新變種ニ就テ少クコヽニ愚說ヲ添ヘン、抑々北海道ノ地概シテ土質豐饒、殊ニ百合花

其他ノ珠根草栽培ニ適シ、何等ノ珠根草タルヲ問ハス、其發育性ヲ惜ケナク縱橫自在ニ遂ケシムルノ便宜ヲ自然ニ享有スルモノヽ如シ、單ニ球根草ノミナラス、百種ノ花卉往々驚クヘキ肥大ヲ致スモノ尠カラス、上島翁此地ニ於テ之カ栽培ニ從事スルハ、自己ノ精勵ヲ助クルニ自然ノ天惠ヲ享クル亦多キニ居レリト謂フモ、敢テ苛評ニアラサルヘシ、是一ハ其實生ヨリシテ花輪ノ巨大ナルモノ知ラス識ラスノ間ニ出テ來リシヲ、更ニ注意撰種シテ復タ此ヨリ新巨形花ヲ出サシメ、花輪改良ノ着々歩武ヲ進メ來リシモノ、亦偶爾ニアラサルヲ覺ユ、主人翁果テ此說ヲ受納スルヤ如何、又其花形ノ往々何トナク花菖蒲ト氣脈ヲ通スルカ如キ趣ヲ帶フルモノヲ見受クルハ、此主人翁元來札幌ニテ花菖蒲栽培ヲ以テ著名ナル人ニシテ、端初ニ述シ如ク種々異形ノ花菖蒲ヲ實生ヨリ得テ、唐菖蒲ト同園内ニ列植セリ、花菖蒲ト唐菖蒲トハ自ラ花候ヲ異ニスルコトハ衆ノ知ル所ト雖モ、北海道ノ花候ハ内地ト趣ヲ異ニシ、元來季節ヲ異ニスルノ花類、往々同季ニ開唉スルモノ亦寡カラス、故ニ唐菖蒲花唉キ初ノ際、會々花菖蒲ノ殘花其隣畦ニアレハ、甲乙ノ花粉相互ニ其氣脈ヲ通ハスヘキハ理ノ見易キ所、即チ主人翁ヲ煩ハスヲ要セスシテ、彼自ラ羽蟲若クハ風ノ媒助ニ因リテ、互ニ其感受性ヲ享クルモノ亦之ナシトセズ、但シ此一事未タ主人翁ニ質スニ遑アラサレハ、聊カ玆ニ臆見ヲ附シ參考ニ供スルノミ、予ヤ不幸ニシテ同園實生ノ唐菖花ヲ通觀スルノ機會ヲ未タ得サルヲ以テ、各花ニ就テ之ヲ評述スルニ由ナシ、是頗ル遺憾トスル所ナリ。

右唐菖蒲ノ說、東皐園實生ノコトノミニ偏寄シテ、他ノ同花栽培家ニ及ホサヽルハ、稍不公平ニ似タリト雖モ、今日マテノ處ニテハ、實際之ヲ花粉媒助法ニ因リテ、一家數千品ノ新變種ヲ出セシモノハ、

邦人中未タ其人アルヲ聞カサルナリ、終ニ臨ンテ倘一言ヲ添フ、東京其他何レノ地方ニテモ、早晩園藝品評會ノ開クルアリトセン乎、季節若シ適合セハ必ス唐菖蒲各變種ノ出品アラン、其出品者中、或ハ自家ヨリ出シモノト揚然得色アルモノ、能ク之カ出品ヲ糺サバ、何ソ圖ラン東皐園ノ手ニテ出來シモノ、其過半ニ居ルコトヲ發見サヽルコトモ亦之ナキヲ保證シ難シ、然ラスンハ歐米人ノ手ニテ成リシモノ多キニ居ルナラン、何トナレハ變則的實生即自然媒助ノ力ニテハ、僅々タル歲月ノ間ニ夥多ノ美良花ヲ得ルコト、前例ニ徵シテ極テ寥々タレハナリ、此東皐園主人上島翁ノ如キハ草花改良家ノ實績眞ニ嘉ミスルニ餘リアリ、殊ニ僅々タル三株ノ唐菖蒲根ノ最劣惡ナルモノヲ、辛フシテ舊開拓使官園御雇外國人ヨリ讓リ受ケ、玆ニ十餘年間ノ勞苦經營ヲ積リ、今ヤ日本從來ナキ所ノ新美花數千品ヲ全國ニ播布センムルノ端緒ヲ開ク豈之ヲ旌表セサルヲ得ンヤ。

——日本園藝會雜誌（○明治廿六年。）

附記、二　カルラリリー其他ノ洋花

〔附記、二〕　カルラリリー其他ノ洋花

是頃ノ農業雜誌ニ、カルラリリー、グロキシニヤ、及アマダリス草ノ名見ユ、新渡ノ洋花ナラム歟。

「カルラ・リリー」左に圖する斑入「カルラ・リリー」(Spotted Calla Lily) ハ天南星科に屬する植物にして、葉ハ濃綠色に白き小斑點あり、六月頃ろ圖の如き白色の花を開く、奇觀なり、但し花ハ格別美と稱するに足らざれども、葉ハナカ〳〵見るに足るべきものなり、之を栽培するには球根を分栽するを最も良とす、然れども種子にても蕃殖するとを得可し、其種子を蒔きたるものハ第三年目に至り、初めて花を開くなり。

附記、三　下谷公園改稱不許可

「グロキシニヤ」 Gloxinia ハ夏季に開花するの溫室植物にして、花ハ通常白色に紅紫等のボカシあり、葉ハ稍厚くして煙草葉の小なるものに似たり、中心一梗を抽き、其頂頭に花を着く、之を栽培するにハ夏間ハ少しく日覆を施し、乾燥に失せざる樣水を澆ぐを要す、花既に謝するの後ハ漸次水を減し、葉の枯るゝに及びて球根を掘上げ、冬間ハ乾燥の場處に貯へ置き、翌年春季に及びて之を盆中に植付くるなり。

○「アマダリス」草　表紙に揭げたる圖ハ「アマダリス」と稱する一小草花にして、此植物ハ性質強く蕃殖亦速かにして、根にハ小塊を結び、四時花あり、其花ハ一雄蘤五雌蘤なり、近頃ろ植木屋等にも多く之を見受けり。

〔附記、三〕　下谷公園改稱不許可

明治廿三年八月五日　受出

知事　庶務課長

書記官　議事課長

下谷公園地名改稱之件市會ニ報告案ヲ市參事會ニ付スルモノトス。

明治廿三年八月　日出　八月七日議決

議長

市參事會員

帝都時代ノ遊園

第五六五五號

第貳類下谷公園地名改稱之件市會ニ報告案

下谷公園地名改稱之義、東京府知事ヨリ認可難ニ相成一旨指令相成候間、此段及ニ報告候也。

年　月　日

東京市會議長宛

東京市參事會
東京府知事

（說明）

別紙指令相成シニ依リ、本案報告スルモノトス。

明治廿三年五月十七日付、下谷公園地名改稱之件認許相成難シ。

明治二十三年八月一日

東京府知事　侯爵蜂須賀茂韶

（刻決五月十四日）
明治廿三年五月五日受出

知事

書記官

東京市參事會
庶務課長

公園名稱之義、府知事ヘ稟請議案ハ市參事會ニ付スルモノトス、

明治　年　月　日出

五月十五日議決

議長

市參事會員

第三三三九號

第一類公園名稱之義府知事ヘ稟請案

東京府知事宛

東京市參事會
東京府知事

先般市ノ管理ニ屬セラレタル下谷公園ハ名稱不適當ニ付、竹町公園ト改稱之義、本市會ニ於テ修正ニ付テハ御差支無之候哉、御指示相成度、此段上申候也。

（說明）

市會ノ修正ニ依リ起草ス。

八月七日　○明治廿三年（紀元二五五〇年）。**淺草公園**　○市内淺草區。ノ池水ヲ分拆ス。○庶政要錄。

——庶政要錄

淺草公園池水分拆　池中魚類ノ斃死スル、多キヲ以テ也。

明治廿三年八月十一日受出

庶務課長

知事

書記官

淺草公園池水試驗成績之件ハ、市參事會ニ報告スルモノトス。

議長

市參事會

池水化學的試驗成績

帝都時代ノ遊園

一、淺草公園池水

有機物　五、〇（水十萬分中ノ五分）
亞硝酸　〇
安謨尼亞　多量
石灰　九、〇

右ノ成績ニヨレハ池魚ノ死スル害ヲ認メス。

明治廿三年八月七日

明治廿三年七月廿八日　受出

知事

書記官

淺草公園內第四區池中死魚夥多有之趣事務掛上申書ハ、市參事會ニ報告スルモノトス。

議長

市參事會

別紙上申書之義ハ所轄區役所ヲ經由シ可差出筈之所、本日ハ日曜休暇日ニシテ至急之場合順序難相運、不取敢此段上申候也。

明治廿三年七月廿七日午前七時

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

東京府衞生課
庶務課長

淺草公園事務掛
內海宗作

當公園第四區新鑿池目下更ニ流通セス、昨今ノ不氣候ニテ池水腐敗シ、爲メニ一兩日前ヨリ魚類斃死致候ニ付、當掛員及掃除夫等共ニ種々豫防ニ盡力致候得共、有限之勢力何分不行屆、追々腐水之臭氣酷敷、此儘等閑ニ附シ置カハ十中ノ八九ハ斃死可致、大イニ公園ノ體裁ニモ關シ、且嚴暑之候衞生上有害ト相考候間、至急何分之御處置被成下度、此段上申候也。

明治廿三年七月廿六日

淺草公園地事務掛
內海宗作

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

當區淺草公園第四區內池中斃魚之義ニ付テハ、事務掛ニ於テ應分ノ手當ハ致置候得共、非常ノ事故充分ノ結果ヲ得ル能ハス、依テ御處分方別紙之通追上申書差出候、右ハ時節柄難捨置筋ト被存候ニ付、此際特別ノ御處分相成候樣致度、此段及添申候也。

明治廿三年七月廿八日

東京市淺草區長　杉本嘉兵衞

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

昨廿七日附ヲ以テ上申仕置候通リ、當公園第四區內池水腐敗之斃魚夥敷ニ付、臨時人夫ヲ傭入、右豫防及取捨方等ニ盡力致居候得共、于今充分之結果ヲ不得、爲メニ惡臭酷敷相成、近傍人民ニ於テモ非常之迷惑ト相考候間、至急御處分相成候、此段追上申仕候也。

明治廿三年七月廿八日

淺草公園事務掛
內海宗作

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

清水谷湯島二公園市所屬

十二日（明治廿三年（紀元二五五〇年）八月。）清水谷（市内麹町區。）湯島（市内本郷區。）兩公園ヲ市ノ所屬トナス。（公報。庶政要錄。市會議錄議決及執行。新撰東京名所圖會。）

清水谷湯島二公園市所屬事蹟

清水谷湯島二公園市所屬　下記スル所ノ如シ。

東京市告示第五十五號

清水谷公園湯島公園ハ本市ノ所屬トセラル。

明治二十三年八月十二日

東京府知事　東京市參事會　侯爵蜂須賀茂韶

警視總監宛　東京市參事會　東京府知事

警視廳東京府公報

清水谷幷湯島公園ノ儀今般本市ノ所屬ト相成候ニ付テハ、別帋圖面朱點ノケ所ヘ公園掲示幷牛馬諸車止札御取設相成度、此段及御照會候也。

追テ御建設ノ節ハ當廳吏員爲立會候ニ付、豫メ時日御報相成度、此段申添候也。

明治廿三年八月八日受出

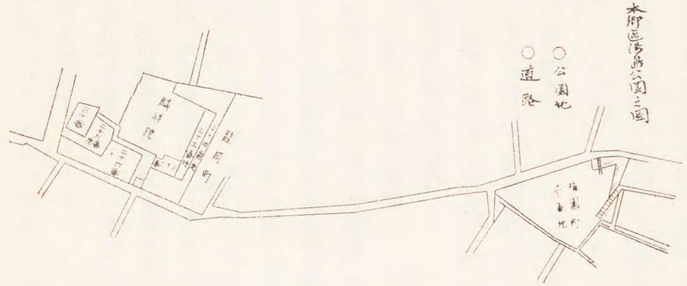
知事　議事課長

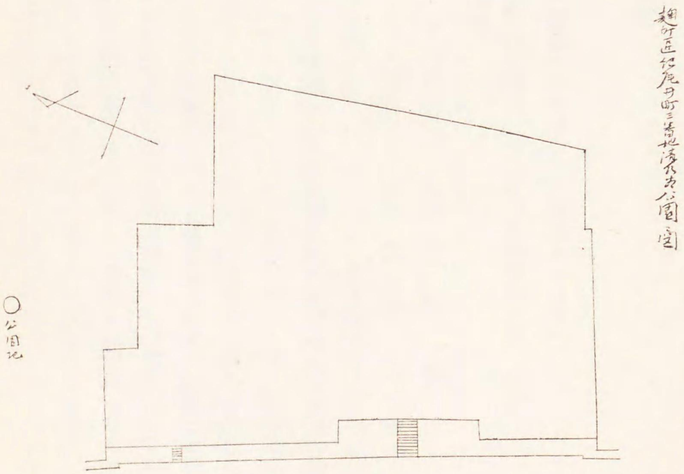
書記官　庶務課長

別紙湯島公園地使用料新設之儀ニ付稟請案、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　八月十四日議決

帝都時代ノ遊園





○公園地

議長
市參事會員
第五八一二號

第一類公園使用料之儀ニ付稟請案

內務大臣
大藏大臣　宛

公園地使用料新設之儀ニ付稟請

本市麹町區清水谷公園及本鄉區湯島公園ハ、今般本市ノ所屬ニ編入相成候ニ付、本市會ニ於テ右湯島公園地使用料別紙之通議決候條、使用料新設之儀許可ヲ請フ。

東京市公園使用料額

一、湯島公園地使用料

壹坪ニ付一ケ月金壹錢七厘　但許可ノ月ヨリ八ケ月間使用料額。
壹坪ニ付一ケ月金五錢　但右八ケ月以後ノ使用料額。

右八ケ月前後ニ依リ、使用料額ヲ異ニスルハ料額ノ底廉ナルヲ以テ之ヲ增加セントス。

○朱書。市會第三十二號

一、第三十二號　公園二十三年度歲入出追加總計豫算

右別紙○略。之通修正決議候條、此段及報告候也。

東京市會議長　楠本正隆

明治二十三年八月七日

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

內務省許甲第一九〇號

明治廿三年八月十六日稟請、第二九六號東京府東京市市會議決、湯島公園地使用料ニ關スル件。

右市制第百廿二條ニ依リ之ヲ許可ス。

明治廿四年一月廿六日

內務大臣　伯爵西鄉從道
大藏大臣　伯爵松方正義

——市會議錄議決及執行

清水谷公園は麹町區の西部なる紀尾井町の中にあり、公園の傍邊は總て清水谷と稱す、そは此地昔時より清泉の迸出する者あるに因れるなるべし。本園の公園となりしは明治廿三年八月にして、總坪數は三千三百廿八坪なり、其間に二百有餘坪の池ありて、東西に長く南北に狹し、池水流れて園外の溝渠に落つ。池北に橐駝師江川定次郎と稱するもの居住し、池畔に茶席を構へて客の慰ふに任す。池南は地較々廣く、中央に贈右大臣大久保利通公の哀悼碑あり、其前は稚松林を爲し翠色掬すべく、後は丘陵を控へて躑躅花之を掩ひ、松楓其間に點綴す、年々五月の頃は滿地錦を織るか如く、遊觀する者日々絕えず。碑後に細逕あり丘上に到るべし、丘上廣濶ならすと雖も眺望頗る佳、特に夏月此に到れば凉風襟懷に入り、飄々として廛寰の煩熱を忘却せしむるの思あり、此を去て園口に出れは溝渠あり、石梁之れに架す、

帝都時代ノ遊園

梁上に立ちて下瞰すれば水色透明游魚數ふ可し、亦一興なり。苟園内には櫻樹あり、藤樹あり、目を怡はしむるの具洵に乏しからず、是れ亦紅塵煩擾中の一樂地なり。

湯島公園は本郷臺の東端皇城の東北に位す、本郷區湯島神社の境内にして、明治廿三年八月公園地と爲る、其總坪數は三千七百八十八坪あり。西及南は天神町一丁目に接し、石柱に鐵鎖を結びて境界を劃り、北は石垣を疊みて切通坂を界とし、東は懸崖數丈翼然眺望に適す、人烟稠密の間上野の杜不忍の池を望むべく、遠く眼界淺草邊に及ぶ。

湯島神社　公園の中央稍々東部に在り、府社にして菅相丞の靈を祀る、幣殿拜殿廻廊近年修築の擧ありて輪奐の美を極む。

戸隱明神社　社後石坂の上に在り、手力雄神を祀る、當社の地主といふなる。

笹塚稻荷　戸隱明神社に隣りて左に小さき祠あり。

神輿庫　廻廊の後社務所に接して神輿庫あり。

額堂　正面鳥居内左にあり。

神樂堂　同上右に在り、額堂に對す、例月二十五日神樂あり。

社務所　湯島神社の左にあり。

魚十樓　社務所に隣りて酒樓あり、魚十といふ日本料理を爲す。

便所　社務所と魚十の間に共同便所あり。

正蔭吟社　本社の右玉垣の外崖に臨める賽なり、詩人山田新川翁住す、例月詩會の催あり。

奇絲氷人石　拜殿前玉垣の外にあり。

鳥居　三基あり、南表にあるは銅の鳥居にして「湯島神社」の扁額を掲げたり、男坂上にあるは花崗石の鳥居なり、銘に明治七年甲戌五月創建、明治廿九年丙申十月再建とあり、一基は新坂上戸隱明神社の鳥居なり、明治廿九年六月の銘あり。

坂路　五あり、北にあるを切通坂といひ、東下谷廣小路に通ずる峻なる石階を男坂、其左緩かに通ずる石階を女坂、戸隱明神社の傍より北向切通坂に下る石階を新坂と稱し、男坂の南にある普通の坂路を中坂といふ。

楓樹　男坂と女坂の間に楓樹十數株あり。

梅林　境内梅樹多し、とりわきて社務所及び魚十の邊數百株の梅林毎春二月清香袖に薰ず、菅公の餘德の坐ろ懷ひ出らるゝ。

皓月亭の跡　太田道灌遊望の亭にして神社の東にありし由なるも、今は其礎だもなし。

菅家遺誡の碑　社前玉垣の外西の方梅林の中にあり、明治二十六年十二月子爵福羽美靜建設する所なり。

凡神國一世無躬之玄妙者、不可敢而窺知。雖學漢土三代周孔之聖經、革命之國風深可加思慮也。凡國學所要、雖欲論涉古今究天人。其自非和魂漢才、不能闚其閫奧矣。

右菅家遺誡二則。

野之口隆正拜書

進藤鑾齋鐫

附記 淺草寺鐘樓守借地出願

裏に
菅家遺誡中の語師翁隆先生之筆。

明治の二十六年冬日也。

〔附記〕 淺草寺鐘樓守借地出願

明治廿三年八月十六日 受出

知事

書記官

淺草寺住職ヨリ淺草公園第二區内地所使用願ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　　九月十八日議決

議長

市參事會員

第七一三〇號

第二類淺草公園第二區内地所使用願指令議案

東京市指令第　號

庶務課長

淺草公園淺草寺住職
奥田　貫照

前の神抄堂のあるし

福羽美靜立石

——新撰東京名所圖會

明治廿三年八月十四日付淺草公園第二區内地所使用ノ件、認許相成難シ。

東京市參事會
東京府知事

（說明）

淺草寺時鐘番人ノ住居遠隔ニシテ屢々撞鐘ノ時期ヲ誤リ、衆庶ノ便ヲ缺クニヨリ、鐘樓近傍ヘ差置度トノ主意ニ付、特別ヲ以テ許可スルモノトス。

地所拜借願

當寺時報梵鐘ハ往昔至德年間ニ鑄造シ使用シ來リ候處、德川將軍家光公觀世音信仰ノ深キ大伽藍ヲ再度迄建立シ、尙昔時ノ梵鐘僅小ナルヲ以テ、公令シテ新ニ大鐘ヲ鑄造セシメ、牧野備後守成貞奏黃金若干ヲ喜捨シテ二六時中ノ常報トシ、以テ執行シ來リ、明治ニ至リ晝夜二十四時ノ時報一層繁劇ニ相成、然ルニ鐘撞常番人共ノ居所、從前役宅ト稱シ、地所數十坪ヲ與ヘ居住セシメ置シニ、辛未上地以來馬道町三丁目ヘ編入ニ相成、同所ヨリ鐘樓迄數十步隔離シ、爲メニ時報ノ遲速、其他非常急報ノ際（俗ニ早鐘）熟眠ヲ覺ス等不便不勘、殊ニ深夜暗黑ノ節、烈風強雨降雪ノ時、居所隔離候テハ其困難實ニ名狀スヘカラス候條、前顯御憐察ノ上、別紙圖面○略。朱引ノ御地所、鐘撞常番人居住家屋建築地ニ無地料ニテ當寺ヘ拜借仕度、尤モ鐘撞常番人ノ外他ハ住居爲致間敷候、且公園ニ關スル御規則ヲ遵守シ、不潔無之樣注意仕候間、何卒破格ノ御詮議ヲ以テ地所御貸與御許可被成下度、此段連署ヲ以奉願候也。

明治廿三年八月十四日

淺草公園地
淺草寺住職
僧正　奥田　貫照

帝都時代ノ遊園

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

前書出願ニ付奥印候也。

芝公園辨天池浚渫

芝公園辨天池浚渫事蹟

十月六日（明治廿三年（紀元二五五〇年）。）芝公園辨天池（○市内芝區。）ヲ浚渫ス。

芝公園辨天池浚渫　左ノ如シ。

別紙市參事會議決濟ニ付、及ニ御送付候也。

明治廿三年十月七日

議事課御中

明治廿三年九月卅日出　十月六日議決

議長

市參事會員

第七八〇三號

東京市淺草區長　杉本嘉兵衞

——庶政要錄

淺草公園地事務掛
内海宗作

同寺信徒總代
本所區中之鄉元町廿二番地
中川又兵衞（○外三人略。）

土木課

丸山五重塔等公園編入

丸山五重塔等公園編入事蹟

第一類　公園内池浚渫施行方件市會議按

第五十六號

公園内池浚渫方ノ件

芝公園内辨天祠池中浚渫ハ實地施行ニ臨ミ、池緣石垣保存上ニ關係ヲ有シ、且浚土ノ内良質ナルモノハ園内窪地ノ地均ニ使用スル見込ナルヲ以テ、其仕様等豫メ相定メ難キニ依リ、公ノ入札ニ付セス、豫算金八百五拾六圓拾六錢ヲ目途トシ、定請負人兩人ヨリ人夫賃小車損料等一個當リノ積書ヲ徵シ、低價ノ者ニ申付ケ、定用人夫ヲ使役シ、工事ヲ施行セントス。

（説明）　右浚渫之義ハ、護岸保存上及其深淺魚鼈生存上種々斟酌ヲ要スル義ニ付、本文市會ノ認許ヲ經テ、双方定受負人ヨリ人夫賃小車損料等一個當リノ積書ヲ徵シ、低價ノ者へ申付、定用人夫ヲ以テ掛員附切之ヲ施行シ、出來ノ上精算相立可申ト存候。

——市會議錄議案及報告

廿日（○明治廿三年（紀元二五五〇年）十月。）芝公園徳川家墓地上地（○市内芝區。）五百餘坪ヲ五重塔及天人門ト共ニ公園ニ編入ス。○庶政要錄。

丸山五重塔等公園編入　ハ、

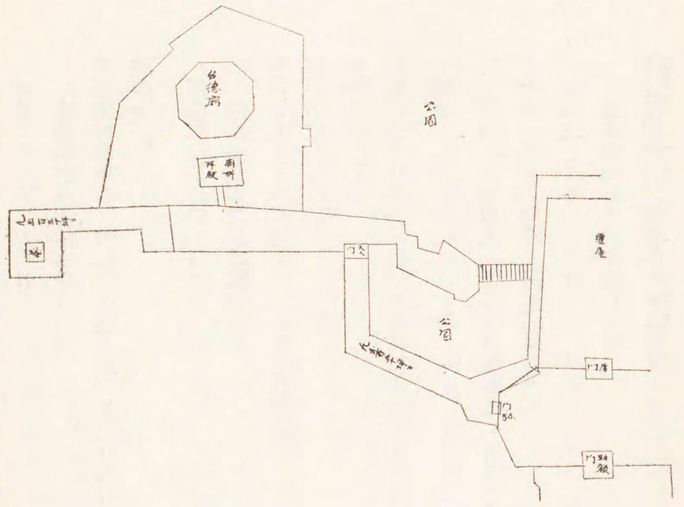
明治廿三年十一月一日　出受

知事

帝都時代ノ遊園

第二課長

帝都時代ノ遊園



築地別邸

第五六五三號

第二類私有墓地ヲ公園内ヘ編入之義上申案

東京市参事會
東京府知事

東京府知事宛

私有墓地公園地ヘ編入之義上申

芝公園内徳川家達所有墓地ノ内凡五百八拾坪餘上納致度旨、別紙寫之通リ願出候、就テハ右地種組替之上、公園地ヘ編入相成差支無之哉、此段上申候也。

（説明）

天人門及五重塔市ヘ引受方協議ヲ遂候處、敷地ヲモ併セテ納付ナシ度趣、別紙之通リ出願ニ付處分方ヲ開申スルモノトス。

別紙之通家達ヨリ奉願候ニ付、御許可ノ上ハ所有墓地ニ接シ候上地場所之境界、御廳ニ於テ適當御取設被下候義トモ奉存候得共、此段奉伺候也。

芝公園五重塔幷門敷地トモ市ヘ引繼ノ件ハ、市參事會ニ報告スルモノトス。

第一課長

市參事會

芝區芝公園徳川墓地ノ内

一、地坪五百九拾坪七合七勺。

一、五重塔　壹基。

一、門　壹ケ所。

右地所別紙圖面朱線之通、建物ヲ併セ公園ニ組入候ニ付、及御引繼候也。

明治廿三年十月三十日

東京市參事會
東京府知事　侯爵　蜂須賀茂韶

庶務課長

東京府知事　侯爵蜂須賀茂韶殿

明治廿三年七月廿八日　受
出

知事

書記官

私有墓地ヲ公園ニ編入ノ件ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　八月七日議決

議長

市參事會員

明治二十三年二月三日
東京府知事男爵高崎五六殿
芝公園内私所有墓地別紙朱線之通、凡五百八拾坪、井右地内五重塔壹基、門壹ケ所、併而上納仕度、此段奉願候也。

明治二十三年二月三日
東京府知事男爵高崎五六殿
明治廿二年七月四日受出　七月八日報告濟
第十六號
市參事會
別紙市會ヨリ報告ニ付、公爵徳川家達令扶之内ヲ召喚之上、協議スルモノトス。

○朱書。
市令第二十二號
芝公園内ノ五重塔並ニ天人門ハ徳川氏ヘ協議ヲ遂ケ、之レヲ公園ノ財産ニ編入候樣御取計相成度、本會ノ決議ニ依リ、此段及ニ御報告候也。

明治二十二年七月二日
東京府知事男爵高崎五六殿
東京市會議長　楠本正隆
——庶政要錄

附記、一　淺草公園凌雲閣

〔附記、一〕　淺草公園凌雲閣

閣ノ所在地ハ千束町ナレドモ、世人多ク公園内ノ建設物トシテ目セシヲ以テ、姑クコヽニ附載ス。

凌雲閣

凌雲閣一に十二階の名あり、その十階迄は八角形總煉瓦造にして、十一階十二階は木製とす、地盤の建坪三十七坪五合、高さ二百二十尺あり、同閣は明治二十三年一月の設計にして、同年十月新築落成を告げ、十一月十三日より開閣縱覽に供す、株式會社の組織にして發起人福原庄七氏、五萬五千圓の資金を抛ち泉好治郎氏工事を受負、當時技師と稱すべき者もなくて、泉氏はダヴリウケーバルトン氏を顧問と爲し、總て其指揮を待て建築に從事したり、開閣の際は特にエレベートルを用ゐて、八階迄登客を吊上げ來りしが、其筋より却て危險なりと認められ、僅か二ケ年間にして廢止したり、猶同閣に於ては之を遺憾とし、水力を以て引上ぐべきエレベートル敷設の計畫ありとぞ、設立の際都人均しく此高塔を以て、極めて危險なる建築物と認めたりき、然るに去る明治二十七年六月廿日東京大地震の祭煉化に聊かの龜裂を生したるのみなれば、其堅牢無比以て證するに足るべし、爾後閣の内外共に帶鐵を卷き、固く鐵條にて締め增工事を施したれば、永久震の災莫かるべし。

縱覽料

大人一名　金六錢　　軍人小兒　半額

同閣は從來株式組織にして、江崎禮二氏其社長たりしも、本年一月荻野貫三及び同竹次郎の二人讓受け引續き興行す、猶同閣には征清の役に於る日本畫及び油繪幷に臺灣澎湖島其他遼東半島の窺眼鏡、及内國諸方各地の寫眞數十葉を陳列す、三階目に小休憩所あり、西洋音樂を奏す(休憩料金二錢)、九

南豐島郡千駄ケ谷村五百六十貳番地
從三位公爵徳川家達

扶

階目に新聞縱覽室あり（縱覽無料）、十階目にまた休憩所あり、少婦數纂茶菓を進む（茶代を要す）、十一階十二階共に望遠鏡あり（見料一錢）。

登閣四方を眺むれば、只見る東都百萬の人烟甍の波を打たせて人家盡くる處水田を見る、河流市内を横斷して人の堤を歩める、歷々双眸に集まる、遙かに眸を轉ずれば、富士と筑波を左右雲間に望み、秩父の連山房總の諸山遙焉として見るべし、品海の勝景風帆の洋中に浮べる、南は羽田岬より東は鴻の臺に達す、若又天氣朗かなるの日望遠鏡を以て眺むる時は、西は箱根より北は日光を望むを得べし。

附言、凌雲閣は公園外にして千束町二丁目に屬すれと、此回都合に依りて便宜上編入するものと知るべし。

——新撰東京名所圖會

〔附記、二〕　本草家小野職慤死

本邦博物學起源沿革說拾遺

理學博士　伊藤圭介稿

○小野職慤氏は、天保九年の生にして、蘭山先生の曾孫たり、累代箕裘、博物博識の名家、殊に職慤氏は、家聲を墜さず、世の賞贊する所にして、弘化の初、曲直瀨養安院氏に就て、本草を學び、醫學館にて、藥園掛の命を受け、文久元年、小笠原島植物檢査の名を奉し、渡島し、腊葉を採集し、物産識一冊を獻納し、金弐枚を賜ふ、明治四年七月、任二支部省權少助教一、十月任二支部省十三等出仕一、任二物産專務一、五年十二等出仕申付らる、六年植學淺解を譯述す、又博物圖一二三四集編纂す、七年補二正院十一等出仕一、又日光山植物採集の命を勤む、又植學譯筌を撰述す、又飯沼慾齋翁著の草木圖說を增訂す、八年補二正院十等出仕一、又內務十等出仕博物館掛命せらる、九年補二內務省九等屬一、又內國勸業博覽會出品科勤務、十年任二內務省八等屬一、博物館勤務、又植物苗木取調、武州足立郡巡廻、又任二內務省六等屬一、動植鑛取調和歌山縣出勤出張、又博物局天產課長心得、又內國勸業博覽會審査官を勤む、又木品名牌を撰定す、同十一年審査事務勉勵にて、紅白羽二重壹匹宛下賜、又毒品便覽第一集、博物圖第五集を撰す、博物會審査にて手當金を受く、任二內務省四等屬一、同十三年事務勉勵慰勞金拾五圓を賜ふ、又任二內務省三等屬一勤務、又天產課及農業課長補、又第二回內國勸業博覽會審査勉勵に付、銅牌一個授與、慰勞金弐拾圓、早出居殘勉强、金廿弐圓五拾錢給與せらる、又博物館移轉事務勉勵、金卅五圓下賜、又毒物便覽第二集撰述す、開拓使引繼勉勵、手當金廿弐圓給與、又任二農商務三等屬一、又十六年水產博覽會審査官を勤め、勉勵金卅圓下賜、又依願免二本官一、博物局事務取扱金三百五拾圓下賜、又清人吳濬原著植物名實圖考を重修す、又武州高雄山に採藥を勤む、廿年日光山に採藥、廿一年妙義山に採集す、又竹品名牌を撰定す、廿三年第三回內國勸業博覽會審査官を命せらる、又竹品鑑品に付、三等有功の賞あり、又（橫文）鳥類目錄を撰す、又博覽會審査勉勵、金六拾圓下賜、又藍綬褒章下賜寫。

第三回內國勸業博覽會審査官

小野職慤

明治十年內國勸業博覽會、及十四年內國勸業博覽會掌し、殊に本年第三回內國勸業博覽會審査官となり、審査官となり、其事に執依之明治十四年十二月七日、勅定の藍綬褒章を賜ひ、之を表彰す。

帝都時代ノ遊園

附記、二、小本草家小野職慤死

明治廿三年十一月廿二日　　奉勅　賞勳局總裁從二位勳一等　伯爵　柳原前光
賞勳局副總裁從三位勳一等　子爵　大給恒
此證を勘査し第百十七號を以て褒賞簿冊に登記す。
賞勳局書記官正五位勳四等　平井希昌
賞勳局書記官從五位勳四等　横田香苗
——東京學士會院雜誌

淺草公園第七區火事蹟

十二月廿五日（明治廿三年（紀元二五五〇年）。）**淺草公園第七區馬道一丁目火有リ、四十有餘戸ヲ燒亡**ス。（東京市明治廿三年度事務報告書。）

此歲此月腦病に罹り、同廿七日沒す、行年五十一。
——東京學士會院雜誌

淺草公園第七區火　左ノ如シ。
一、本年十二月二十五日淺草公園第七區馬道町一丁目ヨリ出火シ、同町二丁目ニ延燒セリ、其面坪二千四百八十七坪餘ニシテ、棟五仲店ノ類燒ニ罹ルモノ五棟半、此戸數四十二、半燒三戸ナリ。其處分ハ目下調査中ニ係レリ。
——東京市明治廿三年度事務報告書

公園石階自費修理者授賞事蹟

是日（明治廿三年（紀元二五五〇年）十二月廿五日。）**湯島公園**（市内本郷區。）**石階自費修理スル者ヲ賞ス。**（庶政要錄。）

公園石階自費修理者授賞　庶政要錄載スル所ニ據ル。

明治廿三年十二月廿三日　受出

知事
書記官

日野島庄兵衞賞與之義ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　　第二課長

十二月廿五日議決

議長
市參事會員

第一一七二號

東京市參事會
東京府知事

第二類湯島公園女坂自費修繕ニ付賞與之義上申議案

本郷區湯島六丁目廿番地
日野島庄兵衞

東京府知事宛

右之者義湯島公園女坂破損之處、自費ヲ以テ修繕候段寄特之義ニ付、相當之御賞與相成度、依テ別紙入費明細書相添、此段上申候也。

（說明）
自費修繕之處落成ニ付、他ノ奬勵ニモ相成候義ニ付、賞與方開申スルモノトス。

一、湯島公園女坂
右ハ本年十月廿日附ヲ以テ自費修繕之義御指令ニ相成候處、本日落成仕候ニ付、此段御屆奉申上候也。

帝都時代ノ遊園

明治廿三年十二月九日

東京府知事蜂須賀茂韶殿

湯島公園女坂自費改築明細書

一、金三百〇六圓五拾錢　〆高。

此内譯

一、ニ印岩岐石　幅一尺二寸　厚七寸　六拾間　金八拾九圓七拾錢。

一、イ印岩岐石　幅一尺一寸　厚六寸　三拾二間　金三拾七圓也。

一、御影板石　長三尺　幅三尺　厚三寸　五拾枚　金四拾六圓也。

一、三尺玄蕃石　長三尺　幅一尺　厚三寸　六拾本　金廿圓〇八拾錢。

一、石工職手間　百廿四人　金八拾圓六拾錢。

一、手傳地形共　百〇八人　金三拾二圓四拾錢。

〆

右之通御座候也。

明治廿三年十二月二十日

本郷區湯島六丁目廿番地
日野島庄兵衞

湯島神社祠官
押見久純

東京府知事蜂須賀茂韶殿

明治廿三年十月十五日　受出

知事
書記官

日野島庄兵衞湯島公園女坂修繕願ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　十月十六日議決

議長
市參事會員
第八二〇〇號

第二類湯島公園女坂自費修繕願指令議案

東京市指令第　號

明治廿三年十月十三日付湯島公園女坂自費修繕願一件聞屆、但落成ノ上ハ屆出ヘシ。

東京市參事會
東京府知事

（説明）

帝都時代ノ遊園

同市同區湯島神社祠官
押見久純

庶務課長

本郷區湯島六丁目廿番地
日野島庄兵衞

奇特之義ニ付、許可スルモノトス。

湯島神社女坂私費修繕願

當公園内湯島神社女坂漸次崩缺ニ至リ、老幼之輩昇降ニ困難不レ少候處、總私費ヲ以テ右負擔修繕仕リ度、依テ圖面〇略。ヲ相添ヘ、此段奉レ願上一候也。

明治廿三年十月十三日

東京市本郷區湯島六丁目廿番地
右願人　日野島庄兵衛

湯島神社祠官
押見久純

東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

前件願出ニ付奥印候也。

東京市本郷區長　北村徹

湯島神社女坂落成金高

一、金參百圓也。

右之通リ御座候也。

明治廿三年十月十三日

本郷區湯島六丁目廿番地
日野島庄兵衛

——庶政要錄

附記、一
公園借地私費埋築

〔附記、一〕　公園借地私費埋築

明治廿三年十二月廿三日受出

知事　第二課長

書記官　第四課長

倉内末盛淺草公園第七區内池埋立地所使用願ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　十二月廿六日議決

議長

市參事會員

第一一二五九號

第二類淺草公園第七區象潟町池埋立地所使用願指令議案

東京市指令第　號

淺草區淺草象潟町十番地
倉内末盛

明治廿三年十二月十八日付、淺草公園第七區象潟町十番地ノ内、池埋立地所使用願ノ件聞屆。

東京市參事會
東京府知事

（説明）

本願池之義ハ元來埋立ヘキ見込ニ有レ之、前年淺草廣小路改良工水工事之際、殘土ヲ以テ埋立ニ著手候ヘ共、廣濶ノ場所故完全ノ宅地トナス克ハスシテ停止セシ處、今般自費ヲ以テ埋立、成規ノ地料ヲ納メ地所使用ナシ度段、好都合之義ニ付許可スルモノトス。

公園地借池私費埋立願

帝都時代ノ遊園

淺草區象潟町十番地寄留
鹿兒島縣士族
倉内末盛

淺草公園第七區

淺草象潟町拾番地ノ内

一、池埋立坪百九拾五坪七合五勺。

此使用料壹ケ月

金貳圓九拾參錢六厘

但壹坪ニ付壹錢五厘。

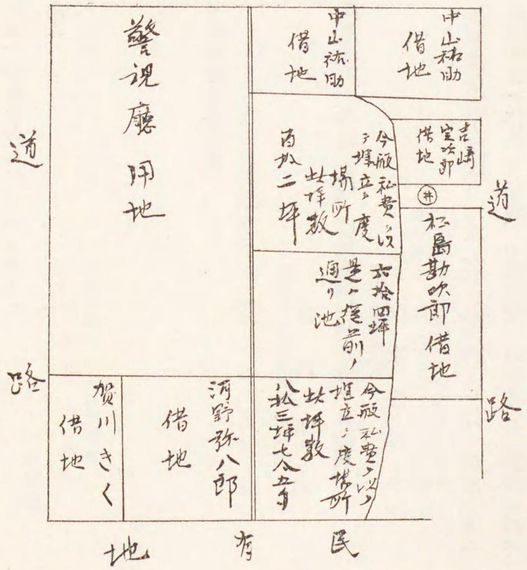
一、池地六拾四坪。

此使用料壹ケ月

金拾九錢貳厘

但壹坪ニ付參厘。

右ハ淺草區象潟町拾番地之内、溜池貳百五拾九坪七合五勺養魚場トシテ拜借仕居候處、何分手廣ニテ四方ヨリ汚水等流入シ、甚ダ不潔ニモ相成候間、今般別紙略圖ノ通リ百九拾五坪七合五勺私費ヲ以テ埋立テ借地仕度、尤モ公園御貸渡ニ關スル諸規則遵



附記、二
芝公園神宮教家屋增築

守可レ仕ハ勿論、且本人不在又ハ使用料ノ淹滯等有レ之時ハ、保證人ニ於テ都テ相辨ジ可レ申候間御許可被ニ成下一度、圖面相添、此段奉レ願候也。

明治廿三年十二月十八日

右　倉田末盛

保證人　淺草區聖天町十七番地寄留　三浦象太

淺草公園地事務掛　新井與四郎

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

前書出願ニ付奥印候也。

東京市淺草區長　杉本嘉兵衛

——庶政要錄

〔附記、二〕　芝公園神宮教家屋增築

明治廿三年十二月廿六日受出

知事

書記官

田中賴庸芝公園内家屋建增願ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　十二月廿七日議決

議長

第二課長

帝都時代ノ遊園

市參事會員
第二二九四號
第二類芝公園內家屋建增指令議案
東京市指令第　號

明治二十三年十二月廿五日付、芝公園第六十號使用地ヘ家屋建增願ノ件聞屆。

芝公園第六十號
田中賴庸

東京市參事會
東京府知事

（說明）
支障ナキニ依リ許可スルモノトス。

家屋建築願
芝區芝公園地第六十一號拜借地ニ有之候從前之家屋ハ、何分手狹ニテ布教事務取扱上差支候ニ付、今般別紙圖面〇略。之通家屋建築仕候間、至急御聞濟被下度、此段奉願候也。

明治二十三年十二月廿五日

神宮教管長　芝公園地第六十一號
田中賴庸

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

——願伺屆錄

附記、三
高麗芝、山茶花、根上リ松作出家

〔附記、三〕　高麗芝、山茶花、根上リ松作出家

園藝名鑑
東京市本鄉區駒込本村
高麗芝專門
右高麗芝は今ヲ距ル二百有餘年前、寛永年間朝鮮國ヨリ日本國ヘ渡來ノ陶器ノ荷物中ヘ組入レ渡リ來リタルヲ、祖先ノ嘉平次ナル者之ヲ栽培繁殖シ、當今ニ至ル迄專門ノ業トナス、故ニ高麗芝ノ名アリ。

本會々員　高木嘉平次
會員　高木孫右衞門君

山茶花種類專門（ツバキ）
同
同

灌花園　東京北豐島郡元上駒込村字染井
伊藤小右衞門

衆芳園　東京北豐島郡元駒込染井町
伊藤金五郎

常春園　東京北豐島郡元上駒込村字染井
伊藤重兵衞

右山茶花種類ハ今ヲ去百有餘年前、寶曆年間幕府此種類ヲ最モ愛翫シタリシ故、其當時ヨリ次第ニ流行セリ、夫ヨリ數十年ヲ經ルニ隨ヒ漸々ニ減少スルヲ以テ、維新ニ至リ此種類ノ絕ヘンヿヲ患ヒテ前記三名ノ者（此外ニ猶故人伊藤留次郎ナルモノアリ。）共同一致シテ保存ス、然ルニ其頃ヨリ歐州人ノ嗜好ニ叶ヒ、海外諸國ヘノ輸出年々ニ增加セリ、恰モ明治十二年四月椿花集ナルモノヲ編製シ、大方ノ同好者ニ分ツヿトセリ、

是ヨリ次第ニ内國ニモ流行スルニトナレリ。

根上り松の作り始め

東京にて根上り松を作り始めしは文政年間にして、今を距ること凡そ七十二年乃至六十二年前、目下東京本郷區元下駒込村字藪下住居の玉川太郎吉（目下年齢六十年）と申すもの丶父の代より作り始むると云ふ、此玉川太郎吉なるものは目下猶根上り松を專門に作り出しおり、其種類は別段無之も皆アカマツの實生にて作るなり。（本會評議員高木孫右衞門氏報）

——日本園藝會雜誌（○明治廿三年。）

〔附記、四〕 明治廿三年頃ノ東京遊覽所

編中桃花ニ大澤驛トアルハ武藏國越谷附近ニシテ、躑躅花ニ大久保ヲ逸シ、螢ニ落合ヲ脫シタリト見ユ。

○四季游覽所

（梅）向島百花園、龜戸梅莊、淺草奥山、蒲田、小向井

（鶯）小石川、鶯谷、根岸、谷中

（櫻）隅田堤、飛鳥山、上野、靖國神社、小金井、日暮里

（桃）大澤驛（梨花）川崎

（山吹）向島百花園、大森山本園

（摘草）蘆尾原、隅田堤、此他各處

（躑躅花）染井、大塚、品川東海寺、日暮里

（牡丹）向島百花園、目黒内田、染井植木屋、本所五ツ目

（芍藥）同上（藤）目黒中ノ藤、龜戸天神内

（卯の花）目黒邊、所澤邊（合歡花）綾瀨川

（杜若）百花園（花菖蒲）愛花園、堀切

（蓮）木母寺、不忍ノ池、三圍社ノ邊

（朝顏）染井植木屋、麻布蘆尾

（杜鵑）忍ヶ岡、靈河臺、谷中邊、寺島村邊、根岸、

（螢）淺草田甫、谷中、江戸川、王子邊、御茶ノ水邊

（瀑布）王子灌野川、目黒、角筈

（納涼）大川通、隅田川、不忍池、高輪海岸

（蟲聲）王子、根岸、大塚ノ原、御茶ノ水邊、淸澄山

（雁）深川洲崎、吉原田甫、隅田川、關屋ノ里

（菊）染井、目黒、巢鴨、園子坂、淺草奥山、蘆尾

（紅葉）瀧ノ川、寺島村、海晏寺、芝紅葉館

（千鳥）中川、洲崎、佃島、鈴ヶ森、荒井ヶ崎

帝都時代ノ遊園

（月見）隅田川、綾瀬、洲崎、高輪海岸、九段坂
（雪見）隅田堤、上野、愛宕山、御茶ノ水、真乳山

〔參考〕廿三年度ニ於ケル公園事務處理ノ大要ハ、東京市明治廿三年度事務報告書記スル所次ノ如シ。

公園

一、公園地ノ組替及使用ニ係ル坪數ヲ擧クレハ、官有地ニ編入セシモノ五千五百九十三坪三合七勺七才、道敷ニ編入セシモノ千七百七十坪三合ナリ、又使用換ヲ許可セシハ二萬二千六百壹坪壹合五才、新ニ使用ヲ許可セシハ六千五十三坪三勺六才ニシテ、返地ヲ屆出タルモノ千八百四十二坪壹合八勺二才ナリトス。而シテ家屋建築ニ係ル件三十、工事ヲ起セシ件六十四、興行營業ニ係ル件二十三、事務掛ニ係ルモノ三件ニシテ、事務掛ヲ採用セシハ淺草公園ニ壹人アリ、其他公園所在ノ各區ニ於テ取扱ヒタル件數及十二月三十一日現在ノ借地借家人幷戶數人口ハ左ノ如シ。

園名／件名	淺草	芝	麹町	深川	坂本町	愛宕山	飛鳥山
使用料ニ係ル件	五九、四三六	一、五八一	二四八	八四五		一二四	一二
借家料ニ係ル件	五、〇七六						
雜入金ニ係ル件	二	二五					
滯納處分ニ係ル件	一						
掃除人小使ニ係ル件	一	六五					

寄留屆ニ係ル件　一、五五九
雜件　七八五
合計　六六、八六〇

園名／種目	淺草	芝	麹町	深川	愛宕山	飛鳥山	合計
借地人ノ數	九二二	一二八	一九	五三	七	二	一、一三一
借家人ノ數	一一五	｜	｜	｜	｜	｜	一一五
戶數	五、四二四	五五五	三	六八	五	二	六、〇一七
人口	一三、五六一	三、七九八	一三	二一六	一二	一三	一七、六一三

借地人借家人及戶口表

一、本年中本市ニ引繼タル公園ハ五ケ所ニシテ、下谷綠町ノ一公園ハ全部貸渡期限中ナルヲ以テ直ニ園內ヲ修飾スルコト能ハス、其期限ノ終ルヲ待テ設計ヲ爲スモノトシ、坂本町公園ハ地均及下水新設等ノ工事中、其他湯島淸水谷ノ公園ハ旣ニ本會ノ議決ヲ經テ計畫スル所アリシモ、未タ起工ノ運ヒニ至ラス。（中略）

一、公園改良委員會ハ開會十一回ニシテ、實地踏査ノ上計畫ヲ爲セシハ十五回ナリトス。

帝都時代ノ遊園

公園所屬財産

廿三年度ニ於ル公園所屬財産ハ東京市明治廿三年度財産明細表ニ左ノ如ク見ユ。以テ當時ノ狀況ヲ知ル可シ。

（十一）公園地明細表　（明治廿三年十二月三十一日調）

公園名	地坪	有地料 使用地坪	無地料 同上	無地料 官廳同上	無地料 社寺同上	無地料 墓地同上	道路廣場山林其他雜地
淺草	一〇九、二〇九・二七六	五八、〇二五・三九〇	—	一四八・七四〇	二、〇六〇・四九七	四四・〇七〇	三九、九三〇・五七九
芝	一三七、七三九・四六八	三五、三一八・九五四	—	—	三四、一一三・〇一〇	六、五八一・三八〇	六一、七二七・一四四
麹町	一一、三〇九・六〇〇	二、〇二五・一五二	—	—	四九三・五四〇	—	八、七九〇・九〇八
深川	一八、六七九・一〇〇	五、一四〇・四七五	—	—	一、六二一・一三〇	—	一一、九一七・四九五
愛宕山	四、七〇六・七四七	五八〇・八一〇	—	—	八〇・七〇〇	—	七、〇四五・二三五
坂本町	一、八七四・五一〇	—	—	—	—	—	一、八七四・五一〇
湯島	四、一一七・七五〇	八七七・六一〇	—	—	九二・五〇〇	—	三、一四七・六四〇
下谷	一六、四三二・四二〇	一二、四九七・〇八〇	—	—	—	—	三、九三四・三四〇
綠町	七、九一五・五〇〇	六、七五二・七五〇	—	—	—	—	七、一六二・七五〇
清水谷	二、二二三・五五〇	—	六七六・五〇〇	—	—	—	二、六五一・八六〇
飛鳥山	一三、五二〇・〇〇〇	六五・五〇〇	—	—	—	—	一三、四五四・五〇〇
計	三二八、八三二・七三一	一二一、二八三・七二一	六七六・五〇〇	一四八・七四〇	三八、四六〇・三七七	六、六二六・〇八〇	一六一、六三七・五三三

備考

一、前年ニ比シ芝公園ノ坪數五百四拾九坪六合三勺增加セシハ、海軍省用地ノ內五千五百九十三坪三合七勺七才ヲ官用地ニ編入セシモ、五千五百五十壹坪六合壹勺德川墓地ノ內五百九拾坪七合七勺返地アリシニ由ル。

一、坂本町公園ハ警察署敷地ノ內九百四十五坪二合四勺ヲ編入セリ。

一、湯島下谷綠町清水谷公園客年四月中各公園ニ編入セラレタリ。

（十二）公園所屬財産明細表　（明治廿三年十二月卅一日調）

園名	建物 門	建物 煉化	建物 木造	便所	園內備品	掃除用器具	事務所用器具
淺草	—	二五五・八一二坪	二四・五八〇坪	一七	五一	四五	一四一
芝	三	—	三四・九〇〇坪	七	六七	五二	—
麹町	—	—	—	一	一六	二二	—
深川	—	—	—	四	一三	二五	—
愛宕山	—	—	—	一	三〇	一四	—
飛鳥山	—	—	—	二	—	—	—
合計	三	二五五・八一二坪	五九・四八〇坪	三二	一七七	一五八	一四一

備考

帝都時代ノ遊園

一、前年ニ比シ淺草公園煉化建物ノ減セシハ、本年十二月類燒ニ罹リシニ由ル。
一、前年ニ比シ芝公園ニ建物ノ增加セシハ、德川家達ヨリ五重塔及天人門ノ寄附アリシニ由ル。

（十三）公園改良準備金明細表（明治廿三年十二月卅一日調）

種目	個數	備考
整理公債證書金	金八千圓	
現金	金五拾六圓	八千五拾六圓

備考

一、前年ニ比シ現金ノ減少セシハ、廿三年度ニ於テ金壹萬五千貳百七圓九拾錢ノ支出アルニ由ル。

廿四年〇明治〇紀元二五五一年。一月八日芝〇市內芝區。淺草〇市內淺草區。兩公園ニ返地アリ。〇東京府命令錄。

芝淺草公園內返地 東京府命令錄ニ據ル。

明治廿四年一月六日受出

知事
書記官

芝公園內返地ノ件訓令議案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日　一月八日議決
議長

第二課長

市參事會員
第三三號

第二類芝公園內返地ノ件訓令議案

東京市訓令第　號

芝公園第百號第百十六號使用地內建物其他取拂、來廿四年六月三十日限返地スヘキ旨相達、受書ヲ徵スヘシ、但別紙ノ通移轉料ヲ付與ス。

（說明）

市會ノ決議ニ依リ起草ス。

芝公園內家屋其他移轉料

一、金七百拾七圓拾九錢三厘

內譯

金貳百拾六圓五拾六錢八厘　第百號。
但家屋木石其他共。

金五百圓六拾貳錢五厘　第百十六號。
但家屋土藏木石其他共。

帝都時代ノ遊園

芝　區

東京市參事會
東京府知事

東京市史稿

明治廿四年一月六日受出　知事　書記官

淺草公園第二區内返地ノ件訓令議案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　一月八日議決　議長　市參事會員

第二六號

第二類淺草公園第二區内返地ノ件訓令案

東京市訓令第　號

淺草區

其區公園第貳區内自十八番至廿壹番建物其他取拂、來廿四年六月三十日限返地スヘキ旨、地所使用人へ相達、受書ヲ徵スヘシ、但別紙ノ通移轉料ヲ付與ス。

東京市參事會
東京府知事

（說明）

市會ノ決議ニ依リ起草ス。

淺草公園第二區内家屋其他移轉料

一、金六百七拾六圓五拾錢　移轉料。

内譯○略。

第二課長

十七日○明治廿四年（紀元二五五一年）一月。**增上寺本堂**○市内芝區。**修理ノ補助金ヲ下付ス。**○庶政要錄。

增上寺修理補助金　ハ、

明治廿四年一月十七日受出　知事　書記官

增上寺本堂補助金下付ニ付、受書ハ市參事會ニ報告スルモノトス。

御請書

二七本寺本堂再建補助トシテ今般金千圓御下付相成候旨、御達之趣承知仕候、就テハ厚キ御趣意ヲ體認シ、精々工事取急キ速ニ竣功候樣盡力可レ仕候、此段御請申上候也。

增上寺住職　野上運海

南葛飾郡隅田村千三百四十一番地　信徒總代　龜岡甚造○外二人略。

明治廿四年一月十五日

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

明治廿四年一月六日出受

帝都時代ノ遊園

知事
書記官
增上寺本堂再建補助費支出方ノ件ハ、市參事會ニ付スルモノトス。
明治　年　月　日出　月　日議決
議長
市參事會員
第三類增上寺本堂補助金支出議案
其寺本堂再建補助トシテ金千圓付與候條、速ニ竣功候樣取計フヘシ。
（說明）市會ノ決議ニ依リ改良準備金之內ヨリ支出シ、增上寺住職幷信徒惣代召喚の上交付シ、市會ヨリ注意之次第（寄付金建札等ナサヽル樣）口達シ、及ヒ速ニ落成セシムヘキ旨ノ受書ヲ徵シ置クモノトス。
——庶政要錄

廿三日（明治廿四年（紀元二五五一年）一月。）**淺草公園第七區**（○市內淺草區。）**燒失地ノ處分ヲ決ス。**（○庶政要錄。）
明治廿四年一月十九日
知事
淺草公園第七區燒失地處分　淺草公園第七區ノ燒失ニ關スル善後策ハ庶政要錄ニ云フ。

第二課長
第四課長
增上寺
東京市參事會
東京府知事
第二課長

書記官
淺草公園燒失跡處分案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。
明治　年　月　日出　一月廿三日議決
議長
市參事會員
第三八七號
第二類淺草公園內燒失跡處分ノ件議案
別帋公園改良委員會決議報告ヲ調査候處、其決議中同意ヲ表スル克ハサル件々多々之レアリ、依テ左ノ通リ修正ノ上、市會ヘ提出スヘキ豫算ヲ調製スルモノトス。
一、甲號決議第一項中、雷神門敷地間口貳拾間奧行十間トアルハ廣キニ失スルニヨリ、間口十五間奧行八間ト修正スルモノトス。
一、同第二項ハ乙號決議ノ方至當ナリトス、依テ本項ハ刪除スルモノトス。
一、第三項ハ乙號決議ノ方稍ヤ穩當ナリトス、然レモ借家人ヲシテ再築セシムル如キハ、公園收入上多額ノ減額ヲ生スルノミナラス、之レヲ民設トナスニハ同一ノ財產ニシテ彼是管理ヲ異ニシ不都合ニ付、從前ノ通リ本廳ニ於テ再築スルモノトス。
一、第四項道路ヲ開通スルハ別段差支ナキニ依リ、乙號參考圖ノ通リ區畫ヲ設ケ、從來ノ借地人ヲシテ小間割ニ據リ使用ヲ許スモノトス。

帝都時代ノ遊園

一、第五項馬道町二丁目ヘ道路ヲ設クルハ必要ナキヨリ削除スルモノトス。
一、第六項廣小路ニ面スル借地人ヘ家屋制限ヲ設クルハ防火上必要ニ付、決議之通施行スルモノトス。
一、第七項ノ削除ハ原案ニ復シ厠ヲ再築スルモノトス。
一、第八項第九項ハ共ニ差支ナキニ依リ、決議案ニ据置クモノトス。
○未書。南北四間幅ノ道路ハ傳法院側道ヘ開通スル事。
淺草區役所前通リヘ三間幅道路ヲ開通スル事。
淺草公園燒失跡處分ノ件ニ付、公園改良委員會開會之處、出席員少數ニシテ甲乙ノ意見正半數ノ處、遂ニ甲號之通評決致候條、乙號意見書共相添、此段及報告候也。

明治廿四年一月

東京市參事會
東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

淺草公園燒失跡改良設計書

一、雷門敷地ハ間口（東西）貳拾間奥行（南北）拾間ト定メ、東側（馬道町二丁目壹番地）現在家屋ノ外、右敷地ハ建物ヲ許サル事。
一、燒失煉化仲店（東六十二番ヨリ八十二番ニ至ル、西二十四番ヨリ五十七番ニ至ル）及現存（東七十九番ヨリ八十二番ニ至ル）壹棟トモ取毀チ、更ニ道路右左一間ツヽ取擴、道幅十間ニ改正ノ事。
一、同上取拂跡ヘ煉化屋敷地奥行八間ト定メ、借地人ヲシテ煉化屋ヲ構造セシムル事。

一、馬道町壹丁目燒失跡ニ南北ニ一線四間幅、東西ニ三線三間幅ノ道路ヲ開キ、九尺幅路次二線六尺幅三線ヲ設クル事。
一、馬道町二丁目ヘ九尺幅路次取設ノ事。
一、馬道町一丁目ノ内廣小路ニ面スル場所ハ煉化下地塗屋ノ外建設ヲ許サス。
但本文敷地トシテ奥行十間ヲ貸渡スコト。
一、燒失厠三ケ所ハ位置換ノ上再築ノコト。
一、三間及四間幅道路左右ハ煉化下水、九尺幅道路ヘハ陶器下水ヲ設クルコト。
一、營業ノ制限ハ從前之通。

廿六日　○明治廿四年（紀元二五五一年）一月。**淺草公園第七區**　○市内淺草區。**燒失地ノ地料ヲ免除ス。**　○東京市會決議錄。市會議錄議案及報告。

淺草公園燒失地々料免除　ハ左記ノ如シ。

第八十二號　一月二十六日議決

淺草公園第七區内燒失地々料免除ノ件

淺草公園第七區内明治廿三年十二月二十五日燒失ニ係ル地所、使用人ニ對シ舊慣ニ依リ、使用料三ケ月分ヲ免除スルモノトス。

四月七日市會議決ヲ以テ、更ニ同地ノ地料ヲ免除ス。

第百十二號

淺草公園第七區内燒失跡地所使用料免除ノ件

帝都時代ノ遊園

浅草公園第七區内焼失跡ハ新ニ道路ヲ開設シ、又ハ區畫ヲ整理スル等大ニ體面ヲ改メントスルノ設計中ニ付、同地使用人ニ對シ家屋ノ再築ヲ差止タリ、依テ右整頓ニ至ルマテ更ニ地所使用料ヲ免除スルモノトス。

明治廿四年三月廿五日提出

東京府知事　侯爵　蜂須賀茂韶

東京市参事會

――市會議錄議案及報告

〔附記〕　松葉蘭

松葉蘭ハ草木六部耕種法ニ「琉球國ヨリ多ク舶來ス、又薩摩大隅伊豆安房等ノ海岸ニモ稀ニハ有リ、八丈島等ニハ殊ニ多シ、凡ソ此種類ハ甚ダ寒氣ニ傷ム者ナレドモ、日光ヲ忌ミ北風ヲ好ム、故ニ夏ハ陰地ノ北風能ク透ル處ニ置テ、薄キ盛養水或ハ米泔水ヲ時々澆ギテ霖雨ヲ避ケ、九月下旬ヨリ三月マデノ間ハ、閉藏シテ霜ト寒風トヲ嚴ク防グヲ良トス」ト記シ、草木育種ニハ「中山傳信錄の松蘭竹蘭の類なるべし、九州伊豆安房等の高山岩石の間に生ず、石を割て是を採也云々」ト見ユ。昔時ヨリ種藝家ノ間ニ行ハレタルモノ也。

松葉蘭名鑑

青龍角　東陽角
玉獅子　錦糸玉角
　　眞賀玉縮緬
千代鶴　鳳明竺斑
青熊手
梅唉鑼斑
古金砂
古金襴
黄斑捧蘭
九十九捧
黄斑
珠簾
銀河
露の玉
稲妻
白龍縮緬
雲龍獅子
白瀧
上坂縮緬
麒麟獅子
古金龍
折鶴
四段獅子
鳳凰縮緬斑
　金剛角
麒麟角
帝都時代ノ遊圖
玉光縮緬
梅唉鑼リ
高忠斑
柴卯髭捧
晃服縮緬
玉笹縮緬
眞ノ大捻
筆竺
青雲龍
右登リ龍
金花山
七寶縮緬
鳳明竺
捧蘭
泰平樂
連ノ斑
三光縮緬
雲笹縮緬
金九十九
青九十九
髭捧班

黒龍角　鳳凰縮緬
友白髪
文樓班　玉柳縮緬
靈芝角　龍登斑
嵯峨班　硇リ金明
八重麒麟　立浪縮緬
金剛力
牡丹竺
孫市　龍登
久保斑
森田斑　文龍山
玉孔雀　左登リ龍
羅紗麒麟　髭ケ捧
揚巻縮緬
蜀紅班　金明竺
間宮

群龍角
白樂天
金龍角
八重鶏冠
神龍角
玉柳敲改
白玉縮緬
九層縮緬
龍王角
黄金獅子

湯島公園内返地

湯島公園内返地事蹟

黒龍角斑
麒麟獅子班　青珊瑚珠斑
四段獅子黒斑改　金毛輪
司三光
八重麒麟斑
福祿壽
九十九斑

本紙銘鑑不同、乞御免、是ニ洩タルハ後ニ出ス。

明治廿四年一月改正

二月三日（明治廿四年（紀元二五五一年）。）**湯島公園**（市内本郷區。）ヲ改良センガ爲、借地人ニ返地ヲ命ズ。（東京府命令錄。願伺届錄。）

湯島公園内返地　借地者廿八人ニ返地ヲ命スルコト東京府命令錄及ヒ願伺届錄ニ見ユ。

明治廿四年二月二日

知事
書記官　第二課長
第四課長

湯島公園改正ニ付訓令案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　二月三日議決

議長
市參事會員
第六一八號

帝都時代ノ遊園

錦魚屋　東京駒込吉祥寺町　松下物治郎

——日本園藝會雜誌（明治廿五年。）

第二類湯島公園改良ニ付訓令議案

東京市訓令第　號　本鄕區役所

其區湯島公園改良ニ付、別紙圖面紫色ノ分ハ家屋取拂返地ヲ命シ受書ヲ徵スヘシ、但別紙記載之通リ移轉料ヲ付與ス。

赤色（据置）黃色（園內移轉）ノ分ハ、更ニ公園地使用規則ニ據リ、地所使用出願セシムヘシ、但園內移轉ノ場所ハ、追テ指定ノ上相達スヘシ。

東京市參事會
東京府知事

（說明）內務大藏兩大臣ヨリ裁可相成候ニ付、公園改良ニ著手スルモノトス。

○返地人廿八人々名幷移轉料細記略。

計金參千九百八圓八拾四錢七厘。

——東京府命令錄

明治廿四年五月十二日受出

知事　第二課長

書記官　第四課長

湯島公園改良ニ付返地屆ハ、市參事會ニ報告スルモノトス。

議長

○朱書。

市參事會

下谷綠町湯島三公園地料改正

下谷綠町湯島三公園地料改正事蹟

第四一五號

本鄕區湯島神社境內地、今般公園御改良ニ相成家屋取拂候ニ付、借地人一同返地仕度候間、此段御屆申上候也。

明治廿四年三月卅一日

第壹號

拾六坪五合　小山長五郎（○外二十七人、略。）

東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

前件屆出ニ付奧印候也。

東京市本鄕區長　北村徹

○朱書

收第二八九號

湯島公園拜借地建物取拂、返地屆別紙之通屆出候ニ付進達候間、可然御取計相成度、此段御回答旁々得貴意候也。

明治廿四年五月九日

東京市本鄕區長　北村徹

渡邊量殿

——願伺屆錄

四日（○明治廿四年（紀元二五五一年）二月。）下谷（○市內下谷區。）綠町（○市內本所區。）湯島（○市內本鄕區。）三公園ノ地料ヲ改正ス。（○東京府命令錄。）

下谷綠町湯島三公園地料改正　ハ、

明治廿四年一月卅一日

帝都時代ノ遊園

知事
書記官

下谷幷綠町公園地料改正訓令ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日　二月四日議決
議長
市參事會員
第六七五號

第二類下谷幷綠町公園地料改正ノ件訓令議案

東京市訓令第　號

共區所轄下谷公園地所使用料、本年五月ヨリ左之通改正候條、借地人ヘ相達、受書ヲ徵スヘシ。

東京市參事會
東京府知事

下谷公園地所使用料

壹ヶ年
金參千五百拾六圓六拾二錢四厘。

下谷區役所

本所區役所

第二課長
第四課長

共區所轄綠町公園地所使用料、本年五月ヨリ左之通リ改正候條、借地人ヘ相達、受書ヲ徵スヘシ。

東京市參事會
東京府知事

綠町公園地所使用料

壹ヶ年
金千百五拾圓參拾六錢八厘。

內
金九百九拾七圓八厘
但使用地坪五千九百七坪八合ノ分。
金百五拾參圓參拾六錢
但使用地坪八百四拾四坪九合五勺ノ分。

（說明）
內務大藏兩大臣ヨリ使用料改正之義裁可有之候ニ付、訓令スルモノトス。

明治廿四年一月三十日

知事
書記官

湯島公園地料改正訓令ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

帝都時代ノ遊園

第二課長
第四課長

明治　年　月　日出　　二月四日議決

議長

市參事會員

第六六七號

第二類湯島公園地料改正ノ件訓令案

東京市訓令第　號

其區所轄湯島公園ノ內梅園町壹番地々所使用料、本年五月ヨリ左之通改正候條、地所使用人ヘ相達、受書ヲ徵スヘシ。

湯島公園ノ內梅園町壹番地

一ケ月壹坪
金五錢。

（說明）

地料增額之義、內務大藏兩大臣ヨリ漸此程裁可相成候ニ付、訓令スルモノトス。

明治廿四年三月十九日受出

知事

書記官

本鄕區役所

第二課長

湯島公園使用料改正ニ付、請書ハ市參事會ニ報告スルモノトス。

御請書　○節一

湯島公園之內梅園町壹番地內　三十三號　三十四號

壹ケ月壹坪使用料

金五錢。

右ハ本年五月ヨリ右地所御改正ニ付、拜借料右之通上納可レ仕候、依テ此段御請書差上候也。

下谷區茅町壹丁目十一番地
岩崎久彌總理代人
岩崎彌之助

明治廿四年三月六日

——東京府命令錄——

九日　○明治廿四年（紀元二五五一年）二月。**淺草公園燒失跡地**○市內淺草區。**ヲ市區改正道敷ニ編入ス。**○東京市會決議錄。市會議錄議案及報告。

公園燒失地市區改正道敷編入　左ノ如シ。東京市會決議錄議決ヲ二月九日トス。

明治　年　月　日出　　二月三日議決

議長

市參事會員

第六一九號

淺草公園第七區ノ內燒失跡市區改正道路敷ニ編入方市會ニ附スル議案

第九十二號

帝都時代ノ遊園

下谷綠町公園規則訓令
下谷綠町公園規則訓令事蹟

淺草公園燒失跡市區改正道敷ニ編入方ノ件

淺草公園第七區馬道町一丁目
一、地坪參拾四坪七合壹勺。
右公園第七區ノ內、昨廿三年十二月燒失ニ罹リタル箇所ハ、市區改正設計中第一等道路第二類ニ係ルヲ以テ、此際前書坪數該道敷ニ編入方、府知事ニ出願スルモノトス。

（說明）
本件ハ廿三年十二月中燒失ニ罹リタル箇所、別紙圖面淡紅色ノ通リ、市區改正設計中第一等第二類ニ係ルヲ以テ、市區改正委員會ヘ照會ノ末、右道路取擴方施行ニ付、此際編入セントス。
但編入ノ上ハ工費等支出ノ儀ハ、更ニ議案ヲ提出スヘシ。

十二日　○明治廿四年（紀元二五五一年）二月。下谷○市內下谷區。綠町○市內本所區。兩公園ニ公園規則ノ除外條項ヲ令シ、幷セテ其事務取扱心得ヲ定ム。○東京府命令錄。

下谷綠町公園規則訓令　ハ、

明治廿四年二月九日

知事

書記官

下谷幷綠町公園ニ施行セサル公園規則ノ訓令案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　　二月十二日議決

第二課長

議長

市參事會員

第八五三號

第二類下谷幷綠町公園內ヘ施行セサル規則ノ件訓令議案

東京市訓令第　號

共區下谷公園ニハ明治廿二年八月東京市規則第二號東京市公園地使用規則中、左ノ條々ハ當分施行セサル儀ト心得ヘシ。

東京市參事會
東京府知事

東京市公園地使用規則第二條割注、第三條、第四條、第七條、第八條、第十一條、第十三條。

東京市訓令第　號

東京市參事會
東京府知事

共區綠町公園以下同上。

本所區役所

東京市公園地使用規則第二條割注、第三條、第四條、第七條、第八條、第十一條、第十三條。

（說明）
下谷綠町兩公園ハ特別ノ規約ヲ以借地許可相成居候儀ニシテ、直ニ公園地使用規則ニ據ラシメ候テハ、帝都時代ノ遊園

下谷區役所

借地人ニ於テモ迷惑少ナカラスト思推ス、依テ借地期限内ハ規則中適應セサル條々ハ施行セサルモノトス。

明治廿四年二月九日

知事

書記官

下谷絲町兩公園事務取扱心得ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日　二月十二日議決

議長

市參事會員

第九二〇號

第二類下谷絲町兩公園事務取扱心得訓令議案

東京市訓令第　號

東京市公園事務取扱方、左ノ通心得ヘシ。

東京市公園事務取扱心得

第一條　左ノ事項ハ區長ヲシテ之ヲ掌理セシムヘシ。

第二課長

第四課長

下谷區本所役所

東京市參事會

東京府知事

一、事務掛ヲ監督シ掃除人及小使ヲ進退スル事。但掃除人小使ヲ傭入及解傭ノ節ハ當廳ニ報告スヘシ。

一、使用料借家料雜入金滯納處分ノ事。

一、使用料借家料雜入金ヲ徵收スル事。

第二條　左ノ事項ハ事務掛ヲシテ掌理セシム。

但事務掛ヲ置カサル公園ハ第一項第三項第六項ハ區吏員ヲシテ取扱ハシム。

一、公園巡視ノ事。

一、使用料借家料雜入金取纏ノ事。

一、地所幷家屋使用願及返地返納屆ヲ調査スル事。

一、明治十九年內務省令第十九號第六條第七條ニ依リ出入寄留屆ケノ事。

一、掃除人及小使ノ進退申立ノ事。

一、掃除人取締ノ事。

（說明）下谷幷絲町公園事務取扱方心得ハ前例ニ依リ本案訓令スルモノトス。

廿三日　（明治廿四年（紀元二五五一年）二月。）芝公園增上寺學寮地（市內芝區。）ノ無料貸付ヲ繼續ス。（府政要錄。）

增上寺學寮地無料貸付繼續　下記スル所ノ如シ。

明治廿四年二月十八日

知事

帝都時代ノ遊園

——東京府命令錄

第二課長

書記官

芝公園内學寮地之義復申議案ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　　二月廿三日議決

議長

市參事會員

第一二〇六號

第二類芝公園内學寮地之義復申議案

東京府知事宛

芝公園内增上寺學寮地當分從前之通リ無地料差置之義、當會ニ於テ別段異存無之候、此段及復申候也。

（説明）

芝公園學寮換地之義ハ、成規上無代價下渡相成難キ次第ニ付、先以從前之通リ差置キ、移轉ノ必要ヲ生セシ時ハ、市區改正費ヲ以テ處分スヘキ義ニ付、本案復申スルモノトス。

芝公園内字新谷天神谷增上寺學寮ノ義ハ、曾テ公園改良ノ爲メ他ヘ移轉セシムル目的ヲ以テ、其換地ヲ赤坂區青山南町七丁目壹番地第二號ト定メ同寺ヘ下渡ノ義ハ難ニ相成ニ付、無地料ニテ使用セシムヘキ旨指令有之、次テ該地所宮内省ニ於テ要用ニ付、其年中同省ヘ引渡、更ニ麻布區元下澁谷村拾四番地ヲ以テ學寮敷地ニ定メ無地料使用セシムヘキ旨、内

東京市參事會
東京府知事

務大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之候ニ付、同所ヘ移轉之義增上寺ヘ相達タルニ、右代地ヲ無代下付相成度、若許可難ニ相成候ハヽ、現在學寮ハ從前之通無地料ニテ使用致度旨別紙之通願出候、右代地ヲ民有地ニ下付ノ義ハ到底許可難致、現在學寮ハ追テ公園改良設計ノ爲メ取拂ヲ要スル場合ニ於テ、市區改正費ヲ以テ移轉セシメ當然ニ付、右取拂ヲ要スル迄ハ從前ノ通差置ントス、差支ナキヤ其會ノ意見申出ヘシ。

明治廿四年二月

東京府知事　侯爵蜂須賀茂韶殿

東京市參事會

增上寺學寮敷地御下附願

當增上寺一山ハ舊來徳川家靈廟ヲ除ノ外、總テ本坊學寮幷ニ塔頭寺院ノ敷地ニ有之候處、明治八年公園地ト定ラレ候節、本坊幷ニ塔頭寺院ノ敷地ハ特別御取扱ト相成候得共、獨リ學寮敷地ニ至テハ何等ノ特典モ無之、公園一般ノ成規ニ從フヘキ場合ト相成候、抑當山學寮ノ儀ハ、當寺開山酉譽上人創メテ之レカ基礎ヲ置キ、第十二代存應上人ニ至テ大ニ其規模ヲ張リテヨリ以來、前後殆ント四百八十年間廣ク一宗ノ學生ヲ集メ、偏ヘニ教育ニ力ヲ盡セラレシヲ以テ、久シク東都學者ノ淵藪ト稱セラレタル事ハ掩フヘカラサル事實ニ有之候、然ニ一旦公園トセラレテ勢ヒ學寮ヲ廢セサルヲ得サル場合ニ相成候テハ、但ニ數百年來ノ古跡ヲ失フノミナラス、本宗教育ノ消長ニ關係スル、實ニ少々ニ非ルナリ、是ヲ以テ同十年ニ至リ、學寮敷地ハ特別御取扱ノ義ヲ願出候處、同年十二月廿七日附ヲ以テ、現今芝公園地字新谷ニ於テ四千七百三十二坪餘ヲ諸堂ニ準シ學寮敷地ト相定メラレ候旨、御指令有之候ニ付、從來ノ學寮ヲ移轉シ、學生ノ教育ニ從事シ、特ニ大ニ經營スル所アラント計畫致候處、圖ラサリキ同十九年ニ至リ青山

南町七丁目壹番地第二號ヲ以テ、學寮敷地ニ御定ニ相成リ、尋テ同二十年再ヒ宮内省御料局ノ御用ヲ以テ、更ニ南豐嶋郡下澁谷村十四番地面積五千百九坪壹勺第二號御料地ヲ學寮敷地ニ換ヱ充テラレ、御恩賜ノ段深ク感佩仕候、上陳ノ通リ本宗學寮ハ一宗教育上實ニ重大ノ關係ヲ有スルモノニテ、固ヨリ尋常寺院ノ比ニ無之、殊ニ明治十年ニ於テ特別御取扱ノ御指令ノ廉モ有之候ニ付、右下澁谷村換地ノ義、無代價使用出願可仕旨、過日御口達ノ趣モ有之、甚タ恐入候得共、同地ノ義ハ前條御諒察ノ上、出格ノ御詮議ヲ以テ民有地ニ御編入、無代價御下附奉願度候得共、即今御支牾等ノ義有之、右願ノ趣御聞屆難相成義ニ候ハヽ、追テ何分ノ御沙汰有之候迄、現今ノ學寮敷地芝公園内字新谷ノ義ハ、從前ノ通無代價使用御許容被成下度、此段一同連署ヲ以テ奉懇願候也。

明治廿四年一月　日

東京府知事侯爵蜂須賀茂韶殿

前書出願ニ付奥印候也。

東京市芝區長　鈴木良輔

——庶政要錄

廿六日（明治廿四年（紀元二五五一年）二月。）深川公園（市内深川區。）ノ家屋一部ノ撤去ヲ命シ、之ト共ニ富岡神社々務所（市内深川區。）ノ移轉ヲ令ス。（東京府命令錄。）

増上寺學寮主惣代
松濤　松巖（外四人略）
増上寺住職
野上　運海

富岡神社々務所移轉　東京府命令錄云フ、

明治廿四年二月廿四日

知事
書記官

深川公園内家屋取拂移轉ノ訓令ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　二月廿六日議決

議長
市參事會員
第一二八三號

第二類深川公園家屋取拂返地ノ件訓令議案

東京市訓令第　號

深川公園内別紙圖面朱色ノケ所家屋其他取拂、返地スヘキ旨相達、受書ヲ徵スヘシ、但別紙記載ノ通、移轉料ヲ付與ス。

（説明）

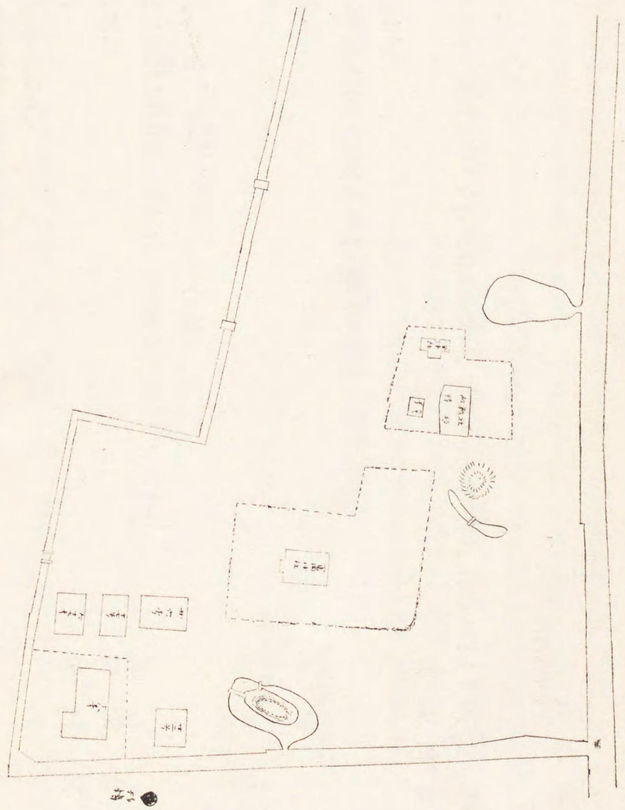
市會決議ニヨリ訓令スルモノトス。

帝都時代ノ遊園

第二課長
第四課長

深川區役所

東京市參事會
東京府知事



深川公園内家屋其他移轉料

一、金千四百六圓參拾七錢五厘。

內譯○略。

明治廿四年二月廿四日

知事

書記官

深川公園富ヶ岡神社々務所移轉訓令ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　二月廿六日議決

議長

市參事會員

第一二六一號

第二類深川公園富ヶ岡神社社務所移轉ノ件訓令議案

東京市訓令第　號

共神社々務所、別紙圖面家屋取拂跡朱點ノヶ所ヘ移轉スヘシ、但手當トシテ金百圓付與ス。

東京市參事會

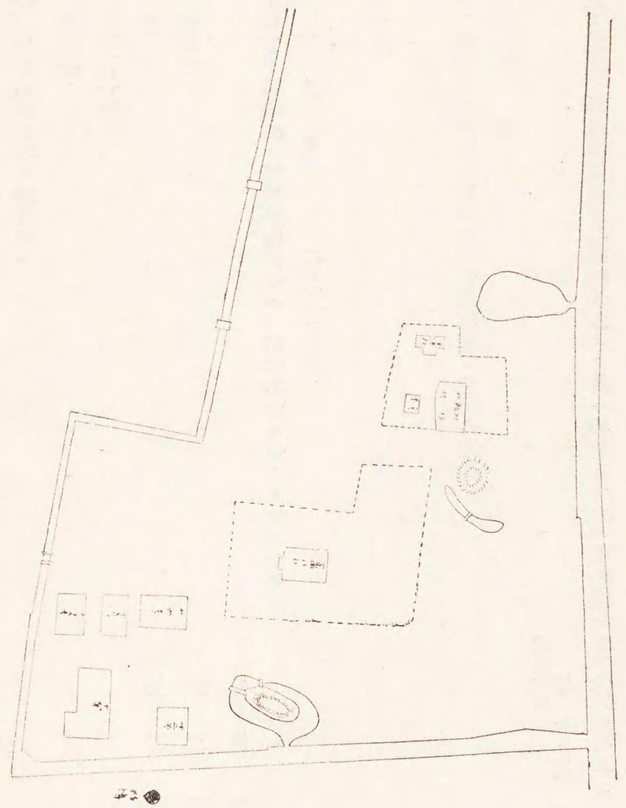
東京府知事

第二課長

第三課長

第四課長

深川公園富ヶ岡神社



（說明）

市會ニ於テ議了ニ付訓令スルモノトス。

〔附記〕　南郊ノ梅園

武藏國橘樹郡及ひ荏原郡の梅樹

會員　稻葉惇太郎君

今日の小集會ハ梅ヨ關する件を主として談話することゝ聞きしに依り、余も亦之を述べんと欲し、余が居住する武藏國橘樹郡川崎町近傍ハ最も梅樹に富める所なれハ、頃日來屢探梅して見聞せし所あり、先つ我郡より述ふれハ、大師河原村平間寺の境内に梅樹多く、同寺門前の梅園は明治十九年の新設にして數百株の梅あり、大師新道の側にも亦梅樹多し、御幸村小向の梅樹ハ移植の起原寛文年中ヨありと云ふ、明治十三年中津田仙成嶋柳北等の諸氏來觀して之を新聞紙等に揭けしより、大に世人の知る所となり、來觀するもの年々多きを加へ、先年畏こくも行幸ありて天覽あらせらる、往きに町村制實施の際御幸村と改めしも之に因るなり、今ハ梅林を四區に分ち、第一の梅林ハ梅樹百數十株あれとも、今年ハ花の好からさる爲に之を開かす、第二の梅林も梅樹の數ハ概ね第一に同し、第三を行幸の梅林と名つく梅樹の數は第一と第二を合せたるに同じからん、第四ハ梅園庵と稱し梅株數十株あり、內裏梅ハ花薄紅色一重ヨして大輪なりと聞けとも、舊曆三月頃ヨ至らされハ開かすと云ひ、菅原梅ハ五個相集りて結實するを以て此名ありと云ふ、源氏梅ハ老樹なり、黃金梅鶯宿梅其他名あるもの少なからす、成島氏の肖像を石に刻して園中に建たり、此四區の外梅樹尙多し、又多摩川を隔て荏原郡に就て

述ふれハ、矢口村原の立春梅園ハ明治十六年の新設にして梅樹凡三百株、立春梅ハ大樹なり、蒲田村新宿の光永梅園ハ當間光永の跡を繼く園主か明治十九年ニ新設す、梅樹凡三百株、光永梅ハ大樹なり、蒲田村の蒲田梅林ハ其起原明らかならされとも、江戸名所圖會ニ記す如く此邊は行方彈正の宅趾にして、昔ハ此村に梅樹多かりしなり、江戸名所花暦ニ依れハ文政の初年頃開園せしものゝ如し、然れとも余が藏する明和年中の梅盡吉例雙六に、梅の木和中散と掲けあれハ、今を距る百二十年前既に梅を以て名高かりしこと明なり、近來まて此家にて和中散と曰ふ藥を賣りたるを以て此名あり、梅樹凡五百株、中ニ剪綃梅と曰ふ老樹ハ花白色一重にして通常のものなれども、昔田安黄門の名つけたるなりと云ふ、雛の都ハ花薄紅色八重にして大輪優品なり、又菅公梅ハ薄黄色蘂長く葩細くして葩の散りたるが如き觀あり、奇品なり、此ニ出品ある酈縣梅の類なり、先年此家ニも行幸ありたりと曰ふ、又今の御幸村へ行幸ニも龍駕を駐めさせられたるハ此家の榮譽なり、此園ハ自然ニ古色を帶ふれハ前ニ述へたる他の梅園の遠く及ふ所ニ非さるなり。

附言、余か携へ來れる梅園庵及ひ蒲田梅林の梅花六品の中、高木孫右衞門氏の言ニ依れハ、黄金梅なるものハ昔綠萼（あをじく）の稱あるものにして、菅公梅なるものハ即ち黄金梅なりと云ふ。

小向村梅園記

〔會員　稲葉惇大郎君
上海　姚文棟君〕

往きに第五回小集會に於て余ハ梅樹のことを述べしか、頃日御幸村小向の梅園主野崎保氏弊廬を訪ひ、余に示すに清國人姚文棟の文を以てす、亦同村の沿革梅樹の起原を知るに足るべし、乃ち之を左に記す。

予嘗與曾根俊虎、訪梅小向村、憩於野崎氏園、既而園主人名保者來謁、予記保之言曰、此村距海近、本荒漠無人跡之地也、自其遠祖某始來居此、名姓皆佚、亦不知所自來時、豐臣秀吉方圍攻北條氏政於小田原城、城陷北條氏亡、氏政女避匿至此、遂成伉儷、事在天正文祿間、野崎氏者其後也、越百餘年、有常右衞門者、初植梅、村中人皆効之、自是小向村以梅著、寛延初渠家有一古梅、爲將軍德川家重所賞、賜名源氏梅、闔村以爲榮、距今又百餘年矣、嗟乎方北條盛時號令編於通安何有於此園及其衰也、欲庇一弱女、而不可得、今則繼北條、而與者若豐臣、若德川皆已烏有、而此園與梅獨翛然尚存此、何異避秦人隱居桃源、而不知劉項曹馬之起滅於泡影間也、予聞保言蓋不能無感焉、故記之、以諗來者。

——日本園藝會雜誌（○明治廿四年。）

淺草寺供所移轉

淺草寺供所移轉事蹟

三月二日（○明治廿四年（紀元二五五一年）。）淺草公園（○市内淺草區。）觀世音供所移轉ス。（○東京府命令錄。）

淺草寺供所移轉　下記ノ如シ。

明治廿四年二月廿四日

知事　第二課長

書記官　第三課長

第四課長

淺草公園内觀世音供所移轉ノ件ハ、市參事會ニ付スルモノトス。

明治　年　月　日出　三月二日議決

帝都時代ノ遊園

議長
市參事會員
第一四〇三號

第二類淺草寺供所移轉ノ義訓令議案

東京市訓令第　號

淺草公園第一區内ニアル供所ハ、別紙圖面朱點ノケ所ヘ移轉スヘシ、但左ノ移轉料ヲ付與ス。

一、金千百四拾五圓四拾五錢　供所移轉料。

（説明）

市會ノ決議ニヨリ訓令スルモノトス。

東京市參事會
東京府知事　侯爵　蜂須賀茂韶

――東京府命令錄

明治廿四年度公園豫算告示
明治廿四年度公園豫算

十六日（明治廿四年（紀元二五五一年）三月。）明治廿四年度公園豫算ヲ告示ス。（東京市會決議錄。公報。）

明治廿四年度公園豫算告示　東京市會決議錄ニ據レハ二月廿三日ノ議決ニ係リ、三月十六日公報號外ヲ以テ之ヲ告示ス。

東京市告示第十三號

東京市水道、公園、墓地、養育院、基本財産河岸地、明治二十四年度歲入出豫算市會ノ議決ヲ經テ左ノ通之ヲ定ム。

明治二十四年三月十六日

（中略。）

東京市公園明治二十四年度歲入出總計豫算

歲入

一、金四萬參千九百六拾貳圓貳拾六錢九厘

歲出

一、金壹萬參千百圓參拾錢壹厘

一、金貳千九百七拾壹圓九拾貳錢五厘

合計金壹萬六千七拾貳圓貳拾二錢六厘。

歲入出差引

殘金貳萬七千八百九拾圓四錢參厘。

但公園改良準備金ニ編入スルモノトス。

歲入ハ公債證書利子四百圓、淺草公園地使用料二萬二千百三圓十六錢四厘、建物使用料六千四百四十七圓七十四錢四厘、雜收入百五十二圓五十錢、芝公園地使用料七千六百五十二圓八十一錢四厘、雜收入四十九圓五十五錢、麹町公園地使用料四百六十七圓十六錢、雜收入二圓七十錢、深川公園地使用料千四百六十九圓九錢四厘、雜收入七十四圓七十五錢、愛宕山公園地使用料二百九圓八錢八厘、雜收入三圓、飛鳥山公園

歲入豫算高。

一、金四萬參千九百六拾貳圓貳拾六錢九厘

歲出

一、金壹萬參千百圓參拾錢壹厘

經常費豫算高。

一、金貳千九百七拾壹圓九拾貳錢五厘

臨時費豫算高。

合計金壹萬六千七拾貳圓貳拾二錢六厘。

――警視廳東京府公報

地使用料十一圓十四錢八厘、雜收入二圓六十錢、下谷公園地使用料三千四百八十四圓六十七錢、綠町公園地使用料三百一圓四十七錢六厘ヲ計上シ、歳出經常部ニハ淺草公園樹木培養費二百四十八圓六十三錢、道路橋梁費千十八圓七十二錢、溝渠費三百四十二圓四十錢、雜給千六十圓八錢、慰勞手當二十六圓、備品幷消耗品費百八十圓、通信費二圓四十錢、賄費四十七圓八十四錢、營繕費二百二十七圓四十六錢八厘、雜費千百二十六圓八十錢、芝公園樹木培養費八十八圓八十七錢、道路橋梁費千六百三十二圓三十四錢五厘、溝渠費七百五十圓二十六錢八厘、雜給六百二十圓六十二錢、慰勞手當十一圓、備品幷消耗品費百十圓、營繕費九十三圓八十二錢五厘、雜費千三百八十九圓一厘、麹町公園樹木培養費二千七圓五十錢、道路費四十一圓九十七錢五厘、溝渠費四百二十五圓八十五錢、雜給百三十六圓六錢、慰勞手當二圓、備品幷消耗品費二十圓、營繕費二十八圓五十錢、雜費四十圓、道路橋梁費三百四十八圓七十九錢五厘、溝渠費二十圓二十五錢、雜給二百三十圓二十錢、慰勞手當六圓、備品幷消耗品費十二圓六十一錢、營繕費百五十八圓三十五錢、雜費四十五圓二十八錢、愛宕山公園樹木培養費二圓五十錢、雜給百一圓二十錢、慰勞手當二圓、備品幷消耗品費三十九圓三十七錢五厘、營繕費百三十八圓、雜費九圓六十錢、坂本町公園溝渠費一圓二十錢、雜給十圓、雜費四十圓五十八錢九厘、飛鳥山公園樹木培養費三圓二十五錢、道路費四圓八十錢、溝渠費二十一圓五錢、雜給五十二圓、慰勞手當二圓、備品幷消耗品費六十錢、營繕費八圓三十七錢、雜費一圓、下谷公園溝渠費六十三圓三十二錢九厘、雜費百一圓七十錢七厘、綠町公園溝渠費二十二圓九錢二厘、雜費一圓二十錢、湯島公園溝渠費一圓五十錢四厘、雜費二十四圓五十錢八厘、及ヒ豫備費千五百圓ヲ計上ス。更ニ臨時

費ニハ淺草公園雜費千百四十五圓四十五錢、芝公園道路費八十五圓五十錢、深川公園雜費千五百六圓三十七錢五厘ト、公園改良取調委員費ニ委員實費辨償額百五圓、雇人料三圓、備品幷消耗品費三十圓、文具料十二圓六十錢、賄費八十四圓ヲ計上シタリ。

〔附記〕 廿四年度公園追加豫算

費目	費額	公示年月日	公示番號
公園費	九、二三二・六九四	廿四年四月七日	告示第十七號
公園費	六、八四〇・九〇八	廿四年六月廿日	告示第廿六號
公園費	四、六八九・五四四	廿四年九月三日	告示第三十六號

〔參考〕 二十四年度公園費決算

警視廳東京府公報ニ據レバ、

東京市告示第九號

明治二十四年度東京市所屬歳入出決算報告ノ要領左ノ通。

明治二十六年二月十八日

東京市參事會

東京府知事 富田鐵之助

○中略○

東京市公園明治二十四年度歳入出總決算報告

帝都時代ノ遊園

歳入

一、金五萬八百貳拾壹圓七錢七厘

一、金四萬九千九百七圓六拾錢壹厘

歳入ノ内準備金ヨリ生スルモノ豫算金四百圓ハ決算ニ於テ金八百八十七圓五十錢トナリ、淺草公園收入ハ豫算金二萬八千七百二十一圓三十錢八厘、決算金二萬七千五百三十二圓九十七錢五厘、芝公園豫算金七千七百二圓三十六錢四厘、決算金七千五百九十圓十二錢三厘、麹町公園豫算金四百六十九圓八十六錢、決算金四百五十五圓五十五錢五厘、深川公園豫算金千五百四十三圓八十四錢四厘、決算金千四百八十六圓十六錢六厘、愛宕山公園豫算金二百十四圓二十九錢、飛鳥山公園豫算金二百十二圓八錢八厘、決算金二百十四圓二十九錢、飛鳥山公園豫算金十三圓七十四錢八厘、下谷公園豫算金三千四百八十四圓六十七錢、決算同額、絲町公園豫算金千百三十圓八十一錢一厘、決算金千九圓七十九錢八厘、湯島公園豫算金三百一圓四十七錢六厘、決算金三百八十八圓六十三錢八厘、前年度繰越金豫算金六千八百四十圓九十錢八厘、決算金同額ヲ算ス。

○朱書。
總豫算額。
總決算額。

歳出

經常費

一、金壹萬參千六百貳拾圓參拾錢壹厘

一、金壹萬千八百七十七圓參拾七錢壹厘

即チ淺草公園費豫算金四千二百八十圓三十三錢八厘、決算金四千二百九十二圓七十七錢二厘、芝公園費豫算金四千四百七十五圓六十錢五厘、決算金四千四百七十四圓四十七錢六厘、愛宕山公園費豫算金八百六十六圓五十五錢五厘、決算金二百四十五圓六錢八厘、阪本町公園豫算金五十一圓七十八錢九厘、決算金四十九圓五十四錢九厘、飛鳥山公園費豫算金九十三圓七錢、決算金五十一圓六十四錢二厘、下谷公園費豫算金百六十五圓三錢六厘、決算金三百九十九圓二十錢七厘、絲町公園費豫算金二十三圓二十九錢二厘、決算金二十八圓九十四錢七厘、湯島公園費豫算金四十七圓一錢二厘、決算金四百十五圓七十錢七厘、清水谷公園費豫算ヲ計上セズシテ決算金十七圓九十三錢六厘、外ニ豫備費金二千圓ヲ計上シクレド支出セズ。

○朱書。
總豫算額。
總決算額。

臨時費

一、金貳萬參千貳百拾五圓七錢壹厘

一、金貳萬貳千百四拾參圓七拾壹錢八厘

淺草公園費豫算金壹萬三千三百七十八圓十四錢四厘、決算金一萬二千六百五圓八十五錢、芝公園費豫算金六千九百三十二圓五十九錢四厘、決算金六千九百二十五圓九十八錢五厘、深川公園費豫算金千五百六圓三十七錢五厘、決算金千五百六圓三十五錢八厘、湯島公園費豫算金千百六十三圓三十五錢八厘、決算金千七十一圓七十錢八厘、公園改良取調委員費豫算金二百三十四圓六十錢、決算金三十三圓八十錢ヲ共細別トス。

帝都時代ノ遊園

淺草公園借地未納金除去事蹟

廿三日（明治廿四年（紀元二五五一年）三月。）淺草公園借地料未納金ヲ除去處分ス。（東京市會決議錄。）

淺草公園借地未納金除去 ハ、

第百三號　三月二十三日議決

淺草公園借地料未納金處分ノ件

一、金三百六圓九十錢八厘。

右ハ明治二十二年度以前ニ係ル淺草公園滯納地料ニシテ、爾來其筋ヘ出訴ノ末追徵セシモ、別紙ニ記載セル事由ノ如ク、本人及保證人トモ無資力無産ノモノ、又ハ死亡跡相續人ナク絕家セシモノ等ニシテ、到底徵收ノ見込無之ニ付、此際前書金額ハ帳簿上除去スルモノトス。

事由書

一、金十一圓四十八錢　田中市次郎

一、金三十七圓八十八錢八厘　武井庄平

一、金十一圓二十錢　松本庄右衞門

一、金六十八圓七十一錢二厘　牛邊德次郎

一、金八十八圓七十六錢七厘　町田巳之助

一、金十五圓三十九錢二厘　淺田マン

一、金五十四圓六十九錢五厘　三枝善助

一、金五圓六十一錢四厘　市川節三

帝都時代ノ遊園

右ハ頭書ノ地料滯納ニヨリ、其筋ヘ出訴ノ末資力限財産差押ノ處、各自無資力無産ニシテ公賣スヘキモノ一品モ無之ニ付、保證人ニ係リ出訴セシモ、是又本人同樣ニテ到底徵收ノ見込無之分。

一、金十三圓十六錢　鈴木マサ

右ハ本人死亡絕家ニ付、直ニ保證人ニ係リ出訴ノ末其財産ヲ公賣シ、金八十八錢一厘ヲ追徵セシモ、殘額頭書ノ通徵收ノ見込無之分。

——東京市會決議錄

昭和十一年十一月二十五日印刷
昭和十一年十一月三十日發行

著作權所有

編輯兼發行者　東京市役所
東京市芝區西芝浦三丁目二番地

印刷者　川口芳太郎
東京市芝區西芝浦三丁目二番地

印刷所　川口印刷所

トエ1R-14